



Avaya Vantage™ を使用する

メモ

Avaya IP 電話の近くで、携帯電話、GSM 電話、または双方向無線を使用すると干渉を引き起こす可能性があります。

本ドキュメントにおける免責事項

「ドキュメント」とは、一般に製品のユーザーに対して提供する製品情報、操作方法、性能規格などを含む情報で、さまざまな媒体で発行されます。ドキュメントに販売用資料は含まれません。Avaya は、ドキュメントの初版に対するいかなる変更、追加、削除に対しても、それらが Avaya により、または明確に Avaya の代理として実行されたものでない限り、責任を負いません。エンドユーザーは、エンドユーザーの範囲内で本ドキュメントを修正、追加、削除したことによって生じる、またはそれに関連するいかなる申し立て、訴訟、請求、判決に対しても、Avaya、Avaya 代理人、従業員を免責することに同意するものとします。

リンクに関する免責事項

Avaya は、サイト内および Avaya が提供しているドキュメントにおいて参照されているリンク先の Web サイトのコンテンツや信頼性について一切責任を負いません。また、それらのリンク内で説明、提供された製品、サービス、情報の正確性は、必ずしも Avaya の保証の対象になるものではありません。Avaya は、それらのリンクが常に機能するかどうかは保証できません。また、リンクされたページを利用できるかについても管理は行っていません。

保証

Avaya は、Avaya のハードウェアおよびソフトウェアに対し、限定保証を提供しています。お手持ちの販売契約書を参照して限定保証の条項をご確認ください。また、Avaya の標準保証規約、およびこの製品の保証期間中に利用可能なサポート情報は、Avaya サポート Web サイト (<https://support.avaya.com/helpcenter/getGenericDetails?detailId=C20091120112456651010>) の「Warranty & Product Lifecycle」リンク内、または Avaya が指定する後継サイトに掲載されています。米国およびカナダ以外の Avaya 認定チャネルパートナーから本製品をご購入された場合は、保証の提供元は Avaya ではなく、この Avaya チャネルパートナーとなることに注意してください。

「ホステッドサービス」とは、Avaya または正規の Avaya チャネルパートナー（該当する場合）のいずれかから、お客様が入手する Avaya ホステッドサービスサブスクリプションのことを指します。それらについては、該当のホステッドサービスに関するホステッド SAS、またはその他のサービス説明書にて詳しく説明されています。ホストサービスサブスクリプションを購入する場合、お客様には前述の限定保証は適用されない場合があります。当該ホストサービスに付随するサポートサービスは、該当ホストサービスのサービス説明ドキュメントの詳述に沿って受けることができます。詳しくは、Avaya または Avaya チャネルパートナー（該当する場合）にお問い合わせください。

ホストサービス

以下はお客様が Avaya または Avaya チャネルパートナー（該当する場合）よりホステッドサービスサブスクリプションをご購入した場合にのみ適用されます。ホステッドサービス利用規約は Avaya Web サイト <https://support.avaya.com/licenseinfo> の「Avaya Terms of Use for Hosted Services」(Avaya ホステッドサービス利用規約) または Avaya の指定する後継サイトに記載されており、Avaya ホステッドサービスにアクセスする、またはこれを利用するすべてのユーザーに適用されます。ホステッドサービスにアクセスする、またはこれを利用する、あるいは他者にアクセスまたは利用を許可することで、お客様は、お客様ご自身ならびにお客様が代理となってこれらの行為を行う団体（以下、状況に応じて適宜「お客様」および「エンドユーザー」）を代表し、利用規約に同意するものとみなされます。お客様が会社またはその他法人を代表して利用規約に同意した場合、お客様は当該団体を利用規約に従わせる権限を有することを表明したことになります。そのような権限をお持ちでない場合、または利用規約に同意することを希望しない場合、お客様はホステッドサービスにアクセスしたり当該サービスを利用したりすることはできず、他者にホステッドサービスへのアクセスまたは利用を許可することもできません。

ライセンス

Avaya の Web サイト (<https://support.avaya.com/LicenseInfo>) の「AVAYA SOFTWARE LICENSE TERMS (Avaya Products)」リンク内、または Avaya が指定する後継サイトに掲載のソフトウェアライセンス条項は、Avaya または Avaya チャネルパートナーとの取引契約に基づき、Avaya Inc.、Avaya 関連会社または Avaya チャネルパートナー（これらのうちいずれか該当するもの）から購入した Avaya ソフトウェアをダウンロード、使用および/またはインストール

したすべてのユーザーに適用されます。Avaya、Avaya 関連会社、または Avaya チャネルパートナー以外からソフトウェアを入手した場合、他の書面による Avaya との同意がない限り、Avaya はこのライセンスを拡張しません。また Avaya は、ライセンスなしにソフトウェアを使用・販売する人物に対して法的措置を取る権利を保有します。ソフトウェアのインストール、ダウンロード、および使用、または他者にそれらの行為を許可することで、お客様は、お客様ご自身ならびにお客様が代理となってこれらの行為を行う団体（以下、「お客様」および「エンドユーザー」）を代表し、お客様と Avaya もしくは Avaya 関連会社（以下、「Avaya」）間で使用許諾に合意し、契約が成立するものとします。

ライセンス範囲の詳細が以下に記載されている旧 Nortel ソフトウェアを除き、Avaya は、下記に示すライセンスの種類範囲内でお客様にライセンスを供与します。ライセンスのタイプが注文ドキュメントで明示されない場合、適用可能なライセンスは、該当する場合、後述の「指定システム (DS) ライセンス」セクションで規定される指定システムライセンスと見なされます。ライセンスの適用数およびライセンスが供与される容量単位は 1 とします。ただし、それ以外のライセンス数、または容量単位が該当のドキュメントまたはお客様に提供されるその他の資料に記載されている場合を除きます。「ソフトウェア」とは、スタンドアロン製品がハードウェアへのプレインストール製品を問わず、Avaya または Avaya チャネルパートナーが提供しているオブジェクトコードのコンピュータプログラム、およびそのアップグレード、アップデート、バグ修正、または修正版を指します。「指定プロセッサ」とは、単一のスタンドアロンのコンピュータデバイスを意味します。「サーバー」とは、複数のユーザーが利用するソフトウェアアプリケーションをホストする（物理的または仮想的な）指定プロセッサを意味します。「インスタンス」とは、(i) 1 台の物理マシンにおいて、または (ii) 1 台のソフトウェア展開済み仮想マシン (「VM」) またはこれに類するデプロイメントにおいて、特定の時間に行われるソフトウェアの単一のコピーを意味します。

ライセンスタイプ

指定システムライセンス (DS) : エンドユーザーがインストールおよび使用できる本ソフトウェアの各コピーまたはインスタンス件数は 1) 注文書に明示される指定プロセッサ数、または 2) 注文書やドキュメントに明示されるか Avaya によって書面で承認されるソフトウェアのインスタンス数を上限とします。Avaya は、注文書に明記されている指定プロセッサの識別に必要な、種類、シリアル番号、機能キー、インスタンス、場所または他の固有情報の提供をお客様にお願いする場合があります。または、Avaya がこの目的のために指定する電子的手段により、エンドユーザーが前述の情報を Avaya に提供するように依頼する場合があります。

シュリンクラップライセンス (SR) : エンドユーザーは、注文書もしくはドキュメントに記載されているように、または Avaya により書面で承認されたように、本ソフトウェアに付属する、または適用される「シュリンクラップ」または「クリックスルー」ライセンス（以下、「シュリンクラップライセンス」）といった使用許諾契約の契約条件に従い、本ソフトウェアをインストールして使用することができます。

Heritage Nortel ソフトウェア

「旧 Nortel ソフトウェア」とは、2009 年 12 月の Nortel Enterprise Solutions Business の事業譲渡の一部として Avaya によって取得されたソフトウェアを意味します。現在、旧 Nortel ソフトウェアは、<https://support.avaya.com/LicenseInfo> にある「Heritage Nortel Products」リンクの Heritage Nortel Products リスト内、または Avaya によって指定された後継サイトに記載されているソフトウェアです。旧 Nortel ソフトウェアに関して、Avaya はお客様に対して、本ソフトウェアライセンス条件にもとづき、本ドキュメントに記載された目的のためのみに、かつ埋め込んだ状態でのみ、実行のために、Avaya 機器とのコミュニケーションのために、承認されたアクティベーションまたは承認された使用レベルの範囲で、旧 Nortel ソフトウェアを利用するライセンスを付与します。Heritage Nortel ソフトウェアの料金は、注文書または請求書に記載されるとおり、承認を得たアクティブ化または使用の範囲に基づくこととなります。

著作権

別段に明記される場合を除き、Avaya が提供する本サイトのコンテンツ、ドキュメント、ソフトウェア、ホストサービス、ハードウェアを使用することはできません。Avaya が提供する本サイトのコンテンツ、ドキュメント、ホストサービス、製品（コンテンツの選択、配置、デザインを含む）の所有権は Avaya またはそのライセンス供与者が保有しており、著作権法や他の知的財産権法（データベース保護に関する独自の権利を含む）によって保護されています。Avaya による明示的な許可がない限り、内容の全部または一部（コードやソフトウェアを含む）を、手法を問わず、修正、模写、複製、再版、アップロード、投稿、転送、配布することはでき

ません。Avaya の書面による明示的な同意なく、これらを複製、転送、配布、保存、使用することは、適用法のもとで刑事上および民事上の犯罪になる場合があります。

仮想化

以下の規定は、製品が仮想マシンに配置される場合に適用されません。各製品には独自の注文コードとライセンスタイプがあります。別段の定めがある場合を除き、製品の各インスタンスについてそれぞれライセンスを取得し、発注する必要があります。たとえば、エンドユーザーまたは Avaya チャンネルパートナーが同じ種類の製品のインスタンスを 2 つインストールする場合、その種類の製品を 2 つ注文する必要があります。

サードパーティコンポーネント

「サードパーティコンポーネント」とは、ソフトウェアまたはホステッドサービスに含まれる特定のソフトウェアプログラムまたはその一部に、サードパーティ契約にもとづいて配布されるソフトウェア（オープンソースソフトウェアを含む）を意味します（以下、「サードパーティコンポーネント」）。この契約には、ソフトウェアの特定部分についての使用権に関する条項（以下、「サードパーティ条項」）が含まれています。必要に応じて、配布された Linux OS ソースコード（Linux OS ソースコードを配布した製品関連）に関する情報について、またサードパーティコンポーネントの著作権所有者や適用されるサードパーティ条項の確認情報は、本製品、本書または Avaya の Web サイト (<https://support.avaya.com/Copyright>)、もしくは Avaya によって指定された後継サイトをご覧ください。サードパーティ条項として提供されるオープンソースソフトウェアのライセンス条項は、本ソフトウェアライセンス条項で付与されるライセンス権と整合していますが、オープンソースソフトウェアの変更や配布など、お客様に有利となる他の権利を含む場合があります。サードパーティ条項は、該当するサードパーティコンポーネントに関する限り、本ソフトウェアライセンス条項より優先的に適用されます。ただし、本ソフトウェアライセンス条項が該当するサードパーティ条項よりお客様に厳格な制約を課す場合に限り除外されます。

次の規定は、H.264 (AVC) コーデックが製品と共に配布される場合のみ適用されます。本製品は、AVC 特許ポートフォリオライセンスにもとづき、消費者の個人的利用またはその他報酬の受領が生じない用途のために、(i)AVC 標準に準拠してビデオをエンコードすること（以下、「AVC ビデオ」）、および/または (ii) 消費者が個人的行為としてエンコードした AVC ビデオまたは AVC ビデオ提供のライセンスを受けたビデオプロバイダから入手した AVC ビデオをデコードすることを目的として、ライセンス許諾されるものです。いかなるライセンスも供与または黙認されません。詳細については、MPEG LA, L.L.C.: [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.mpegla.com) を参照してください。

サービスプロバイダ

次の規定は、AVAYA チャンネルパートナーによる AVAYA 製品またはサービスのホスティングに適用されます。製品またはホストサービスでは、サードパーティコンポーネントを使用する場合がありますが、こうしたコンポーネントにはサードパーティの契約条項が適用され、サービスプロバイダはサードパーティのサプライヤから直接、ライセンスを別途取得する必要があります。AVAYA チャンネルパートナーによる AVAYA 製品のホスティングは、AVAYA によって書面で承認される必要があります。ホスト製品にサードパーティのソフトウェア (MICROSOFT のソフトウェアやコーデック) に限定されません) を使用しているまたは組み込まれている場合、AVAYA チャンネルパートナーは、自己の費用負担により、必要なライセンス契約を該当するサードパーティサプライヤから別途取得する必要があります。

コーデックについて、Avaya のチャンネルパートナーが H.264 または H.265 コーデックを使用する製品をホスティングしている場合、当該パートナーは、自己がすべての関連手数料およびロイヤリティに責任を負うことを認識し、同意します。H.264 (AVC) コーデックは、AVC 特許ポートフォリオライセンスにもとづき、消費者の個人的利用またはその他報酬の受領が生じない用途のために、(i) AVC 標準に準拠してビデオをエンコードすること（以下、「AVC ビデオ」）、および/または (ii) 消費者が個人的行為としてエンコードした AVC ビデオまたは AVC ビデオ提供のライセンスを受けたビデオプロバイダから入手した AVC ビデオをデコードすることを目的として、ライセンス許諾されるものです。いかなるライセンスも供与または黙認されません。H.264 (AVC) codec および H.265 (HEVC) codec の詳細については、MPEG LA, L.L.C. から入手することができます。 [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.mpegla.com) を参照してください。

法令遵守

お客様は、Avaya 製品が使用される国または法域で適用される法律および規制（通話記録、データプライバシー、知的財産、営業秘

密、不正、演奏権に関する法律および規制を含みますが、これらに限定されません）を遵守する自己の責任を認識し、これに同意します。

不正利用を防止するために

「不正使用」とは、お客様の電話通信システムへの利用に際して正規の認可を受けていない当事者（例えば、貴社の従業員、エージェント、下請け業者、または貴社の代理人以外）が通信システムを不正に使用することを意味します。お客様のシステムに関連した不正利用のリスクがあるということ、さらに不正利用が行われた場合、お客様の通信サービスに対して相当額の追加請求が生じる結果になりますのでご注意ください。

Avaya 通信不正利用防止ライン

米国およびカナダに在住するお客様は、不正利用の被害にあっている疑いを抱き、技術的な支援またはサポートを必要とする場合、Technical Service Center Toll Fraud Intervention Hotline (Tel: +1-800-643-2353) へお電話でご連絡ください。その他のサポートの電話番号については、Avaya サポート Web サイト (<https://support.avaya.com>) または Avaya が指定する後継サイトをご覧ください。

セキュリティ脆弱性

Avaya のセキュリティサポートポリシーに関する情報は、<https://support.avaya.com/security> の「Security Policies and Support」セクションに記載されています。

Avaya 製品の疑わしいセキュリティ脆弱性は、Avaya 製品セキュリティサポートフロー (<https://support.avaya.com/css/P8/documents/100161515>) に従って処理されます。

ドキュメントのダウンロード

ドキュメントの最新版については、Avaya サポート Web サイト (<https://support.avaya.com>) または Avaya が指定する後継サイトをご覧ください。

Avaya サポートの連絡先

製品またはホステッドサービスの案内や記事を確認したり、Avaya 製品またはホステッドサービスに関する問題を報告したりするには、Avaya サポート Web サイト (<https://support.avaya.com>) を参照してください。サポートの電話番号およびお問い合わせ先については、Avaya サポート Web サイト (<https://support.avaya.com>) または Avaya が指定する後継サイトにアクセスし、ページの下でスクロールして、[Contact Avaya Support] を選択してください。

規制に関する宣言

オーストラリアによる宣言

ハンドセット磁気に関する宣言：

危険

ハンドセット受信機には、小さな金属体を引き寄せる可能性のある磁気装置が含まれています。けがを負わないよう、注意を払ってください。

カナダ産業省 (IC) による宣言

RSS 標準に関する宣言

本装置はカナダ産業省がライセンス免除した RSS 標準に準拠しています。次の 2 つの条件に従って操作する必要があります。

1. 本装置は、妨害を引き起こすことなく、また
2. 装置の望ましくない操作を引き起こすおそれのある妨害も含め、本装置はあらゆる妨害を許容する必要があります。

Le présent appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes:

1. L'appareil ne doit pas produire de brouillage, et
2. L'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

無線通信機に関する宣言

カナダ産業省の規定では、本無線通信機はアンテナタイプおよび、通信機に対しカナダ産業省が承認する最大（あるいはそれ以下）のゲインを使用してのみ操作するものとします。他のユーザーに対する潜在的な無線障害を減少させるため、アンテナタイプとそのゲインは等価等方放射電力 (EIRP) が通信の成功に必要とされる以上のもの選択してはなりません。

Conformément à la réglementation d'Industrie Canada, le présent émetteur radio peut fonctionner avec une antenne d'un type et d'un gain maximal (ou inférieur) approuvé pour l'émetteur par Industrie Canada. Dans le but de réduire les risques de brouillage radioélectrique à l'intention des autres utilisateurs, il faut choisir le type d'antenne et son gain de sorte que la puissance isotrope rayonnée équivalente ne dépasse pas l'intensité nécessaire à l'établissement d'une communication satisfaisante.

この Class B のデジタル機器は、カナダの ICES-003 規準に準拠しています。

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

放射線被ばくに関する宣言

本装置は、規制のない環境向けに設定された FCC & IC RSS102 放射線被曝制限を満たしています。本装置は、ラジエータと人体間の距離が少なくとも 20 cm 以上離れた場所に設置して運用されるものとなります。本通信機器を他のアンテナや通信機器と一緒に設置したり、連動させたりしてはなりません。

Cet équipement est conforme aux limites d'exposition aux rayonnements ISED établies pour un environnement non contrôlé. Cet équipement doit être installé et utilisé avec un minimum de 20 cm de distance entre la source de rayonnement et votre corps.

この製品は、当該のカナダのイノベーション・科学・経済開発省の技術仕様を満たしています。

日本による宣言

クラス B に関する宣言

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 装置です。この装置を家庭環境に設置されているラジオやテレビの付近で使用すると、電波妨害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って装置を設置および使用してください。

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。 VCCI-B

注意事項

- 本製品は室内用に設計されています。
- 本製品は金属または磁石がある所では性能が低下する恐れがあります。
- 本製品は誘導性技術を利用する通信装置であり、13.56MHz の周波数を使っています。
製品の任意的な分解、修正、部品の除去などの作業は製品の特性に影響を与えます。
- 製品に供給される電圧はノイズに対する影響を減らすために安定的でなければなりません。
電源供給端子から過度な電圧が入力されないようにお願いします。
- 製品に物理的または化学的な衝撃を与えないようにお願いします。
- 製品を静電気から保護するために試験治具、ワークベンチ、作業者の身体などに接地処理した状態で作業を遂行してください。
- 安全のために製品を扱う時は手袋の着用をお願いします。
- 他の無線器機からの障害を防止するために製品が露出しないようにお願いします。
- 強い磁場がある所には製品の性能に悪い影響を与えますので設置しないでください。
- 本製品を組み込まれる場合は、組み込んだ製品の取り扱い説明書等に「電波法に基づく誘導式読み書き通信設備の型式指定を受けた無線設備を内蔵しています」

Denan（電気用品安全）電源コードに関する宣言

危険

装置の設置中、以下に注意してください。

- 装置に付属の、または Avaya が本装置での使用を指定した接続ケーブル、電源コード、AC アダプタのみを

使用してください。ほかの装置を使用すると、障害や故障、火災を引き起こす場合があります。

- 本装置に付属の電源コードはほかの装置では使用できません。上記ガイドラインに従わない場合、死亡や重大な怪我につながる場合があります。



警告

本製品を安全にご使用頂くため、以下のことにご注意ください。

- 接続ケーブル、電源コード、AC アダプタなどの部品は、必ず製品に同梱されており添付品または指定品をご使用ください。添付品指定品以外の部品をご使用になると故障や動作不良、火災の原因となることがあります。
- 同梱されており添付の電源コードを他の機器には使用しないでください。上記注意事項を守らないと、死亡や大怪我など人身事故の原因となることがあります。

メキシコによる宣言

本装置は、次の 2 つの条件に従って操作する必要があります。

1. 本装置は、有害な妨害を引き起こすことなく、また
2. 望ましくない操作を引き起こすおそれのある妨害も含め、本装置が受けるあらゆる妨害を許容する必要があります。

La operación de este equipo está sujeta a las siguientes dos condiciones:

1. Es posible que este equipo o dispositivo no cause interferencia perjudicial y
2. Este equipo o dispositivo debe aceptar cualquier interferencia, incluyendo la que pueda causar su operación no deseada.

ブラジルによる宣言

Este equipamento não tem direito à proteção contra interferência prejudicial e não pode causar interferência em sistemas devidamente autorizados

パワーオーバーイーサネット（PoE）に関する宣言

本装置は PoE ネットワークに接続する必要があります。外部機器には配線しないでください。

台湾のステートメント

低功率電波輻射性電機管理辦法

第十二條:經型式認證合格之低功率射頻電機，非經許可，公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。

第十四條:低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應立即停用，並改善至無干擾時方得繼續使用。

前項合法通信，指依電信法規定作業之無線電通信。

低功率射頻電機須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。

米国 米国連邦通信委員会（FCC）によるステートメント

電波障害に関する宣言

コンプライアンスの責任を負っている当事者が明確に承認していない変更や改造を行うと、ユーザーが本装置を操作する権限を失う場合があります。

FCC RF 露出コンプライアンス要件に準拠するため、本装置およびアンテナは他のアンテナや通信機器と一緒に設置したり、連動させたりしてはなりません。

本装置は FCC 規則のパート 15 に準拠しています。次の 2 つの条件に従って操作する必要があります。

1. 本装置は、有害な妨害を引き起こすことなく、また
2. 望ましくない操作を引き起こすおそれのある妨害も含め、本装置が受けるあらゆる妨害を許容する必要があります。

本装置は FCC 規則のパート 15 に従って、クラス B デジタルデバイスの制限を満たしていることが実験で証明されています。これらの制限は、住宅地での設置において有害な電波障害を妥当な範囲で防ぐために設けられています。本装置は無線周波エネルギーを

発生・使用し、またこれを放射する可能性があります。指示に従って設置・使用しないと、無線通信に有害な電波障害が発生する可能性があります。ただし、適宜に設置しても電波障害が絶対に発生しないという保証はありません。本装置によってラジオやテレビの受信が干渉を受けている場合（本装置をオン/オフに切り換えることで確認できます）、ユーザーは以下のいずれかの方法によって電波障害を解消するよう奨励されます。

- 受信アンテナの向きや場所を変更する
- 本装置と受信機の距離を離す
- 本装置を、受信機が接続されているものとは別のコンセントに接続する
- 販売店または熟練したラジオ/テレビの技術者に相談する

放射線被ばくに関する宣言

本装置は、規制のない環境向けに設定された FCC 放射線被曝制限を満たしています。本装置は、ラジエータと人体間の距離が少なくとも 20 cm 以上離れた場所に設置して運用されるものとします。本通信機器を他のアンテナや通信機器と一緒に設置したり、連動させたりしてはなりません。

EU 各国

このデバイスはインストール時点で、EMC 指令 2014/30/EU、低電圧指令 2014/35/EU、無線機器指令 2014/53/EU の基本的要件とその他の関連規定に準拠しています。宣言のコピーは <http://support.avaya.com> または Avaya Inc., 2605 Meridian Parkway Suite 200, Durham, NC 27713 USA から入手できます。

WiFi and BT transmitter

- 周波数 2412-2472 MHz、送信電力 19.84 dBm
- 周波数 5180-5240 MHz、送信電力 22.5 dBm

一般的な安全警告

- この製品に指定されている Avaya 認可の Limited Power Source 電源装置のみを使用してください。
- 以下のことを確認してください。
 - 水の近くでデバイスを操作しないでください。
 - 落雷時にデバイスを使用しないでください。
 - ガス漏れの周辺でガス漏れを報告しないでください。
 - アクセサリ電源 - Phihong AN18V-59CFA USB-C PSU 18W (有限電源) のみ使用してください。
- 次を防ぎます。
 - 保護を無効にする可能性のある不適切なタイプのバッテリーの交換（一部のリチウムバッテリータイプなど）。
 - バッテリーを火や高温のオープンに廃棄したり、機械的に押しつぶしたり切断したりすると、爆発する可能性があります。
 - バッテリーを非常に高温の周囲環境に放置すると、爆発や可燃性の液体またはガス漏れが発生する可能性があります。
 - バッテリーを非常に低い空気圧にさらすと、爆発または可燃性の液体またはガス漏れが発生する可能性があります。

商標

本サイトおよび Avaya 提供の文書、ホステッドサービス、製品に表示されている商標、ロゴ、サービスマーク（以下、「マーク」）は、Avaya およびその関連会社、ライセンサー、サプライヤ、もしくはその他サードパーティの登録/未登録商標です。ユーザーは、Avaya またはマークを所有している可能性があるサードパーティの書面による事前の許可なく、これらのマークを使用することはできません。本サイト、ドキュメント、ホストサービス、および製品には、Avaya または該当するサードパーティの明確な同意なく、マークのライセンスまたは権利を黙示、禁反言などにより付与する内容は一切含まれないものとします。

Avaya は、Avaya Inc. の登録商標です。

Avaya 以外のすべての商標は、それぞれの所有者に所有権があります。

Bluetooth™ のワードマークおよびロゴは Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、Avaya Inc はライセンスに基づきこのマークを使用しています。

Android、Google および Google Play は Google Inc の商標です。

デバイスの使用に関する同意

ユーザーは、Avaya デバイスを使用することで、Avaya が適宜ユーザーのデバイスからネットワークおよびデバイスデータを収集する可能性があること、ならびにユーザーにデバイスの利用資格があるかどうかを確認するためにかかるデータを使用する可能性があることに同意するものとします。

目次

第 1 章: 概要	11
目的.....	11
変更履歴.....	11
第 2 章: Avaya Vantage™ の概要	13
サポートされているアプリケーション.....	13
デバイスの物理レイアウト.....	14
Avaya Vantage™ K175 のレイアウト.....	14
Avaya Vantage™ K155 のレイアウト.....	15
コネクタとコントロール.....	16
ワイヤレスハンドセットのレイアウト.....	17
Avaya Vantage™ デバイス用のオプションのコンポーネント.....	18
Avaya Vantage™ リリース 2.x と 3.x デバイスの比較.....	18
このリリースの新機能.....	19
第 3 章: 仕様	22
デバイスの仕様.....	22
カメラの仕様.....	25
外付け USB カメラのサポート.....	26
ワイヤレスハンドセットの仕様.....	26
ワイヤレスハンドセットの機能.....	27
ワイヤレスハンドセット LED インジケータ.....	28
環境仕様.....	29
通話制御機能を備えたヘッドセットとスピーカーフォン.....	29
第 4 章: デバイスセットアップ	31
電源の管理.....	31
Avaya Vantage™ デバイスを開始する.....	32
Avaya インストールウィザードを使用して Avaya Vantage™ を設定する.....	33
[設定] メニューから Wi-Fi を設定する.....	35
Avaya Vantage™ へのハンドセット接続.....	35
ハンドセットクレイドルを Avaya Vantage™ に接続する.....	36
有線ハンドセットを接続する.....	37
ワイヤレスハンドセットを接続する.....	37
ワイヤレスハンドセットとのペアリングを削除する.....	38
Avaya Vantage™ の壁掛けオプション.....	39
壁に Avaya Vantage™ を直接取り付ける.....	39
ウォールプレートに Avaya Vantage™ を取り付ける.....	41
Avaya Vantage™ とハンドセットクレイドルを壁に取り付ける.....	43
Avaya Vantage™ デバイスを外部モニターに接続する.....	45
HDMI 接続を通じて外部デバイスに音声をルーティングする.....	45
Avaya Vantage™ でのアプリケーションのインストール.....	46
Google Play ストアへのアクセス.....	46
サードパーティのアプリケーションストアからアプリケーションをインストールする.....	47
電子メールまたは Web サイトからアプリケーションをインストールする.....	48

USB フラッシュドライブからアプリケーションをインストールする.....	48
第 5 章: ログインとロック操作	50
Avaya Vantage™ にログインする.....	50
SSO で Avaya Vantage™ にログインする.....	51
Avaya Vantage™ からログアウトする.....	52
カレンダーサービスにログインする.....	53
画面ロックを有効化する.....	53
Avaya Vantage™ を手動でロックする.....	54
Avaya Vantage™ を手動でロック解除する.....	54
Avaya Smart Lock.....	55
Bluetooth デバイスをペアリングする.....	55
Avaya Smart Lock を有効にする.....	56
信頼できる Bluetooth デバイスを変更する.....	57
Smart Lock が有効な場合デバイスを手動でロックする.....	57
第 6 章: Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスからの移動	58
[ダイヤルパッド] 画面.....	59
[連絡先] 画面.....	60
[通話履歴] 画面.....	61
[メッセージ] 画面.....	62
[カレンダー] 画面.....	64
第 7 章: 通話管理操作	66
通話画面.....	66
ホットダイヤリング.....	68
緊急通話.....	68
緊急通話を発信する.....	69
音声通話またはビデオ通話を発信する.....	69
ダイヤルパッドを使用して音声通話またはビデオ通話を発信する.....	69
連絡先を使用して音声通話またはビデオ通話を発信する.....	70
お気に入りリストから音声通話またはビデオ通話を発信する.....	70
通話履歴を使用して音声通話またはビデオ通話を発信する.....	70
オフフックダイヤリングを使用して電話をかける.....	71
2 番目の通話を発信する.....	71
番号をリダイヤルする.....	72
通話を管理する.....	72
着信通話に応答する/着信通話を拒否する.....	72
応答不可モードを有効にして通話を無視する.....	73
すべての通話をボイスメールに転送する.....	73
プレゼンスステータスが応答不可の場合にすべての通話をボイスメールに転送する.....	74
無条件転送.....	74
内線番号と別の番号の同時呼び出しをアクティブにする.....	74
通話中に番号を入力する.....	75
通話をミュート/ミュート解除する.....	75
通話を保留にする/通話を再開する.....	76
通話間を切り替える.....	76
通話を転送する.....	76
着信音を変更する.....	77

オーディオデバイスを選択する.....	77
ビデオ機能の使用法.....	77
通話中に外部モニターにビデオやプレゼンテーションを送信する.....	78
Avaya Vantage™ のブリッジ回線アピランス.....	79
ブリッジ回線で通話に回答する.....	79
ブリッジ回線の通話に参加する.....	79
ボイスメールメッセージを聞く.....	80
通話履歴を表示する.....	80
すべての通話情報を削除する.....	81
通話を終了する.....	81
第 8 章: 電話会議を操作する.....	82
アクティブな通話に別のユーザーを追加して会議通話を開始する.....	82
通話を結合して会議通話を作成する.....	82
Avaya Vantage™ ビルトインユニファイドコミュニケーションエクスペリエンス経由の Avaya Equinox® Conferencing.....	83
Avaya Equinox® Conferencing 会議に参加する.....	85
会議の参加者を表示する.....	86
カレンダーの会議通知アラート.....	86
[カレンダー] 画面から会議に参加する.....	86
会議の音声とビデオの設定を変更する.....	86
第 9 章: 連絡先の管理操作.....	88
Avaya Vantage™ ビルトインユニファイドコミュニケーションエクスペリエンスのコンタ クトタイプ.....	88
異なる環境での連絡先へのアクセス.....	89
連絡先を追加する.....	89
連絡先を編集する.....	90
連絡先を削除する.....	91
連絡先を検索する.....	91
IP Office 連絡先検索オプション.....	91
BroadSoft 連絡先検索オプション.....	92
連絡先のフィルター処理.....	92
システム連絡先を個人用連絡先として保存する.....	93
連絡先をお気に入りとして設定する.....	93
連絡先表示オプションを設定する.....	93
デフォルトの連絡先作成オプションを設定する.....	94
連絡先と通話履歴を Bluetooth 経由で同期する.....	94
第 10 章: Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでのプレゼンス.....	96
プレゼンスステータスを手動で変更する.....	96
プレゼンスのステータスメッセージを変更する.....	97
プレゼンスステータスが自動的に退席中に変更された後のアイドル時間を設定する.....	97
第 11 章: インスタントメッセージ操作.....	99
連絡先とのインスタントメッセージの会話を開始する.....	100
インスタントメッセージの会話の件名を編集する.....	100
すべてのインスタントメッセージを既読にする.....	101
受信インスタントメッセージ通知に返信する.....	101
インスタントメッセージの会話を通話にエスカレーションする.....	102

インスタントメッセージの会話から退出する.....	102
通知設定を設定する.....	103
第 12 章: Avaya Connect Expansion Module の使用方法	105
Avaya Connect Expansion Module でサポートされる機能ボタン.....	105
Expansion Module のナビゲーション画面.....	106
Expansion Module と Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンス間の接続.....	107
接続方法.....	109
Avaya Vantage™ で Expansion Module サーバーを有効にする.....	110
両方のアプリケーションが同じデバイスで実行されている場合に Expansion Module と接続する.....	111
周辺デバイスの Expansion Module と接続する.....	112
IP アドレスを使用して Expansion Module と接続する.....	113
Expansion Module をペアリングされたデバイスと接続する.....	114
同じデバイスで Expansion Module と Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンス感を切り替える.....	115
Expansion Module からビデオ通話を有効にする.....	115
Expansion Module の通話機能を使用する.....	115
優先通話をかける.....	116
通話をパークする.....	116
パークコールの取得.....	117
無条件転送.....	117
話中または不応答時に通話を転送する.....	117
内線通話と外線通話に高度な不在転送オプションを設定する.....	118
すべての通話をボイスメールに転送する.....	118
自動コールバックリクエストをアクティブにする.....	119
ブリッジ回線アピランス.....	119
コールピックアップ.....	121
チームボタン.....	123
Avaya Connect Expansion Module をカスタマイズする.....	124
ボタンのラベルを変更する.....	124
ボタンを別の場所に移動する.....	124
ダークテーマを有効にして可視性を高める.....	125
ペアリングを切断して削除する.....	125
Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから Expansion Module を切断する.....	125
Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスからペアリングされた Avaya Connect Expansion Module アプリケーションを削除する.....	125
Avaya Connect Expansion Module からすべてのペアリングされたデバイスを削除する.....	126
第 13 章: Avaya Spaces の Avaya Vantage™	127
Avaya Spaces 通話と会議.....	128
Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから Avaya Spaces を開く.....	129
Avaya Vantage™ デバイスから Avaya Spaces を開く.....	130
Avaya Spaces に新規登録する.....	130
Avaya Spaces にログインする.....	130
Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから Avaya Spaces 会議に参加する.....	131
Spaces 会議中制御を使用する.....	131
通話中にオーディオデバイスを変更する.....	132

Spaces 会議中に外部モニターにビデオやプレゼンテーションを送信する.....	133
Spaces 会議中に PC にプレゼンテーションを送信する.....	133
Spaces 会議を記録する.....	134
Spaces 会議から退出する.....	135
Avaya Spaces デジタル通話.....	135
Spaces 連絡先に発信する.....	136
Spaces デジタル通話に応答または拒否する.....	137
第 14 章: 追加デバイス設定とカスタマイズオプション	138
音声設定をアップデートする.....	138
サイレント Space のノイズ抑制.....	139
サイレント Space を有効にする.....	139
ビデオの送信オプション.....	140
カメラをオン/オフにする.....	140
K155 デバイスのキーパッドを使用して、ビデオを無効にする.....	142
メディア出力設定.....	142
メディア出力設定を設定する.....	143
応答不可モード.....	143
DND モードを通知エリアから有効または無効にする.....	143
DND の基本設定を [設定] メニューから変更する.....	144
壁紙を変更する.....	145
スクリーンセーバーを設定する.....	145
スクリーンセーバーをオフにする.....	146
日付、時刻、タイムゾーンの設定を変更する.....	146
クイック設定メニューをカスタマイズする.....	147
デバイスを再起動する.....	147
第 15 章: トラブルシューティング	148
デバイスの設定を確認する.....	148
デバイス設定情報を共有する.....	149
デバッグレポートを生成する.....	150
第 16 章: リソース	152
ドキュメント.....	152
Avaya サポート Web サイトでドキュメントを検索.....	152
Avaya ドキュメントセンター のナビゲーション.....	153
Avaya Mentor Videos の表示.....	154
サポート.....	154
Avaya InSite Knowledge Base を使用する.....	155

第 1 章: 概要

目的

このドキュメントでは、Avaya Vantage™ デバイスの使用方法と、Avaya Vantage™ に付属するビルトインユニファイドコミュニケーション (UC) エクスペリエンスについて説明します。これには、すべてのデバイスタイプに関する情報が含まれています。このドキュメントはエンドユーザーを主な読者として想定しています。

変更履歴

発行	日付	変更内容
リリース 3.1 第 1 版	2021 年 6 月	<ul style="list-style-type: none">「Avaya Vantage デバイス用のオプションのコンポーネント (18 ページ)」の電源アダプタの情報を更新しました。「カメラの仕様 (25 ページ)」を更新し「外付け USB カメラのサポート (26 ページ)」を追加しました。「Avaya インストールウィザードを使用して Avaya Vantage を設定する (33 ページ)」を更新しました。「Avaya Vantage ビルトイン UC エクスペリエンスからの移動 (58 ページ)」の Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスのナビゲーション画面の画像を更新しました。「着信通話に応答する/着信通話を拒否する (72 ページ)」の Space 通話の情報を更新しました。「インスタントメッセージ操作 (99 ページ)」に関する新しい章を追加しました。「Expansion Module と Avaya Vantage ビルトイン UC エクスペリエンス間の接続 (107 ページ)」を更新しました。「接続方法 (109 ページ)」を更新しました。「Avaya Spaces の Avaya Vantage (127 ページ)」を更新しました。「Avaya Spaces 通話と会議 (128 ページ)」を追加しました。

発行	日付	変更内容
		<ul style="list-style-type: none"> • 「Spaces 会議中制御を使用する (131 ページ)」を更新しました。 • 「Spaces 会議を記録する (134 ページ)」のレコードアイコンを変更しました。 • 「Avaya Spaces デジタル通話 (135 ページ)」を追加しました。 • 「Spaces 連絡先に発信する (136 ページ)」を追加しました。 • 「Spaces デジタル通話に応答または拒否する (137 ページ)」を追加しました。 • 「設定メニューからカメラを無効にする」トピックを「カメラをオン/オフにする (140 ページ)」に変更し、「カメラのオン/オフ状態 (141 ページ)」を追加しました。 • 「サイレント Space のノイズ抑制 (139 ページ)」および「サイレント Space を有効にする (139 ページ)」を追加しました。 • 「メディア出力設定 (142 ページ)」を追加しました。 • 「メディア出力設定を設定する (143 ページ)」を追加しました。 • 「クイック設定メニューをカスタマイズする (147 ページ)」を追加しました。

第 2 章: Avaya Vantage™ の概要

Avaya Vantage™ デバイスは、カスタマイズ可能な統合通信ソリューションと、機能性の高い Android デバイスの両方の利点を兼ね備えています。Avaya Vantage™ では、トークバック、拡大、フォントまたは表示サイズの設定を含む Android のすべてのユーザー補助サービスがサポートされます。リリース 3.0 以降は、Avaya Vantage™ デバイスにはビルトインユニファイドコミュニケーション (UC) エクスペリエンスが付属しています。Avaya Vantage™ デバイスに他のアプリケーションをインストールして使用することもできます。

業務の必要性に応じて、次のいずれかの Avaya Vantage™ デバイスを選択できます。

- Avaya Vantage™ K175 (カメラ搭載) : 8 インチスクリーンの標準デバイスで、ビデオの通話や会議に適した内蔵カメラを搭載しています。
- Avaya Vantage™ K175 (カメラ非搭載) : 8 インチスクリーンの標準デバイスで、内蔵カメラは搭載していません。他のユーザーからのビデオは受信できます。
- Avaya Vantage™ K155: コンパクトな 5 インチスクリーンのデバイスです。このデバイスは物理キーパッドと内蔵カメラも備えています。

サポートされているアプリケーション

次は Avaya Vantage™ でサポートされているアプリケーションの概要です。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンス

リリース 3.0 以降では、Avaya Vantage™ デバイスには Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスが搭載されています。UC テレフォニー機能にアクセスするために、Avaya Workplace Client などのアプリケーションを別途設定する必要はありません。

Avaya Spaces

Avaya Vantage™ はクラウドベースのチームコラボレーションおよび会議アプリケーション、Avaya Spaces が付属します。Avaya Spaces で Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスを統合して、Avaya Spaces アプリケーションにすばやくアクセスしたり、[カレンダー] タブから Spaces 会議に参加したりできます。

Avaya Alexa

Avaya Vantage™ には、Alexa ビルトイン機能が付いた仮想アシスタントアプリケーション、Avaya Alexa が付属しています。Avaya Alexa は、カレンダー統合、Audible、Amazon ブック、サードパーティのスキルなど、Amazon Alexa デバイスでサポートされているほとんどの Alexa プロファイルをサポートします。Avaya Alexa には Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスが統合されており、基本的なテレフォニー機能への音声起動アクセスを提供します。

デフォルトでは、Avaya Alexa は Avaya Vantage™ で無効になっています。Avaya Vantage™ デバイスで Avaya Alexa を有効にするには、管理者に連絡してください。

このアプリケーションの詳細については、『クイックガイド：次で Avaya Alexa を使用する Avaya Vantage™』を参照してください。

サードパーティアプリケーション

Avaya Vantage™ は Skype、Google Meet、Zoom、Microsoft Teams、Cisco WebEx Meetings など、多数のサードパーティのユニファイドコミュニケーションアプリケーションをサポートしています。詳しくは、「次でサードパーティアプリケーションを使用する Avaya Vantage™」を参照してください。

デバイスの物理レイアウト

Avaya Vantage™ K175 のレイアウト

Avaya Vantage™ K175 デバイスは縦向きのタブレットに似ています。一部の K175 デバイスには、内蔵カメラが搭載されています。

次の画像はカメラ内蔵の K175 デバイスのレイアウトを示しています。カメラ非内蔵デバイスの場合、カメラとカメラアクティビティインジケータは適用されませんが、他のすべての要素は同じです。

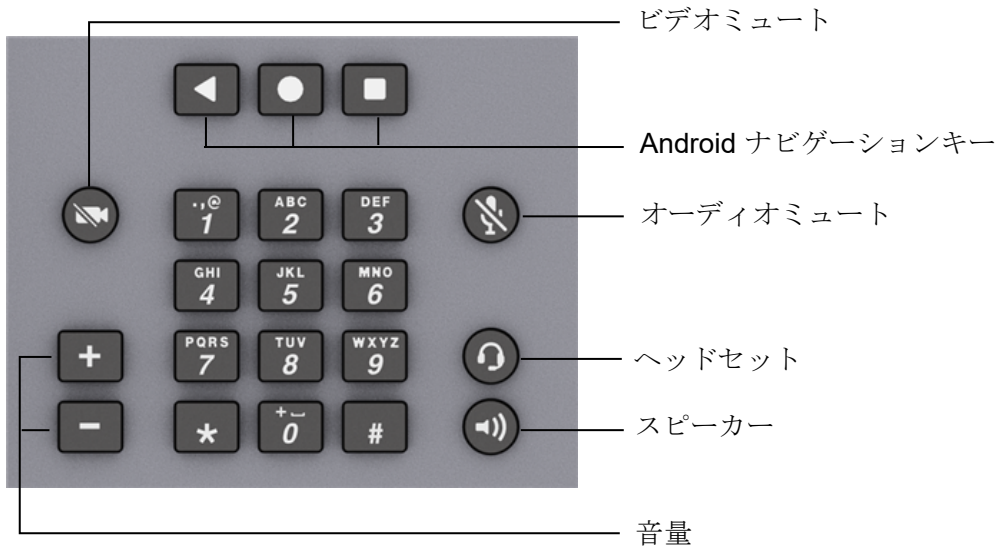


Avaya Vantage™ K155 のレイアウト

Avaya Vantage™ K155 デバイスには、5 インチの横向きの画面、物理的なキーパッド、内蔵カメラが装備されています。次は K155 デバイスの画像です。



キーパッドの機能キー



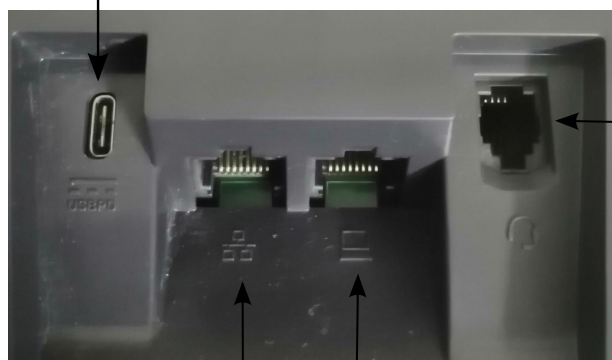
コネクタとコントロール

次の写真は Avaya Vantage™ デバイスで使用できるオプションを示しています。

背面パネル

背面パネルには USB Type-C 電源アダプタポート、RJ9 ヘッドセットポート、内蔵イーサネットスイッチ付きのデュアルイーサネットポートが装備されています。

USB Type-C
電源アダプタポート



RJ9 アナログ
ヘッドセットポート

RJ45 PC ポート

RJ45 PoE LAN ポート

右側のパネル

右側のパネルには 3.5 mm オーディオジャックソケット、USB Type-C 汎用ポート、micro HDMI ポートが装備されています。



USB 3.0 Type-C
ポート

マイクロ HDMI 2.0 ポート

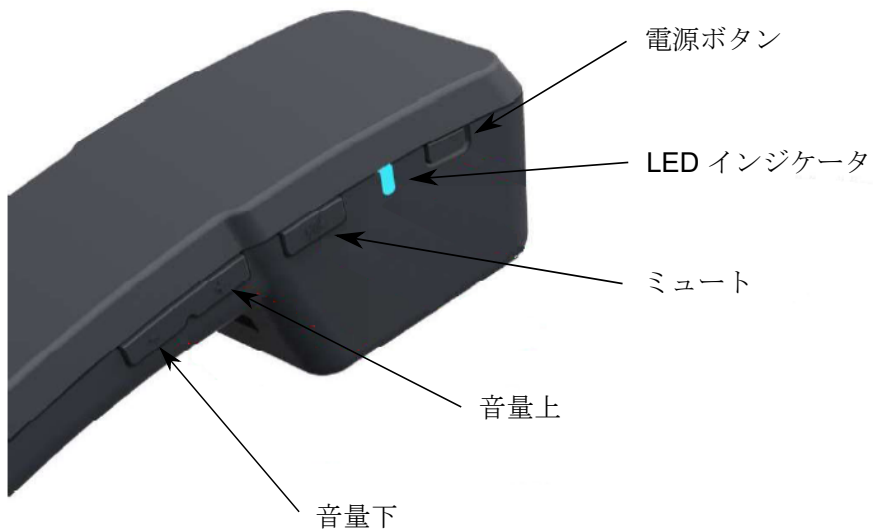
3.5 mm ステレオヘッドセットジャック
(マイク対応)

左側のパネル

すべての型のデバイスの左側のパネルには、コードレスまたはコード付きハンドセットのクレイドルコネクタが搭載されています。



ワイヤレスハンドセットのレイアウト



Avaya Vantage™ デバイス用のオプションのコンポーネント

次のオプションのコンポーネントを Avaya Vantage™ デバイスと併用できます。

オプションのコンポーネント	パーツ番号
J1B1 コード付きハンドセットとクレイドルキット	700512399
J2B1 コードレスハンドセットとクレイドルキット	700512398
クレイドルなしの交換用コード付きハンドセット	700513633
クレイドルなしの交換用コードレスハンドセット	700512774
ハンドセットクレイドル用壁掛けブラケット	700512776
USB-C - USB-C ケーブル付きグローバル電源アダプタ、米国、EU、英国、オーストラリアに対応したクリップ付き	700515628
電源アダプタクリップキット、中国、アルゼンチン、韓国、インド、ブラジルなどの国に対応したクリップ付き	700515629

上記オプションのコンポーネントは別途購入する必要があります。

Avaya Vantage™ リリース 2.x と 3.x デバイスの比較

Avaya Vantage™ リリース 3.0 ではパフォーマンス仕様が強化された新しい第3世代のハードウェアが導入されています。また、Avaya Vantage™ リリース 2.x と 3.x では一部の操作に大きな違いがあります。次のテーブルは主なハードウェアと操作上の違いを示しています。

変更点	リリース2.x	リリース 3.x
CPU[CPU]	デュアルコア、1.2 ~ 1.5 GHz 速度	6 コア、最大 1.8 GHz 速度
フラッシュメモリ	16 GB	32 GB
モデル	<ul style="list-style-type: none"> • K155 • K165 • K175 	<ul style="list-style-type: none"> • K155 • K175 カメラ搭載 • K175 カメラ非搭載 K165 モデル名は廃止されました。
オペレーティングシステム	Android 8.1	Android 9.0
電源	<ul style="list-style-type: none"> • 802.3af または 802.3at Power over Ethernet (PoE) • 48V DC 電源入力 	<ul style="list-style-type: none"> • 802.3af または 802.3at Power over Ethernet (PoE) • USB Type-C AC-DC 電源入力
物理的なカメラシャッター	K155 および K175 デバイスにあり	物理的なカメラシャッターなし
ビデオ解像度	360p30	1080p30

次のページに続く...

変更点	リリース2.x	リリース 3.x
外部 HDMI サポート	いいえ	デバイスの右側のパネルには、外部 HDMI をサポートするマイクロ HDMI 2.0 ポートがあります。
NFC サポート	なし	はい。デバイスには、スピーカーの近くにエンボス加工された NFC ロゴがあります。
アクティブなテレフォニーアプリケーション	テレフォニー機能にアクセスするには、管理者が Avaya Vantage™ Connect または Avaya Workplace Client をアクティブなテレフォニーアプリケーションとして設定している必要があります。	リリース 3.0 デバイスには、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスが搭載されています。アクティブなテレフォニーアプリケーションを設定する必要はなくなりました。
Google サービスとアプリケーションのサポート	K165 と K175 デバイスには、デフォルトで Google アプリケーションスイートが搭載されています。	デフォルトでは、リリース 3.0 デバイスには Google アプリケーションスイートは含まれていません。すべてのデバイスモデルで、Google Play ストアと Google Play Services のインストールをソフトウェアアップデートの一部としてサポートしています。

このリリースの新機能

Avaya Vantage™ リリース 3.1 には次の機能が導入されています。

Avaya Spaces の自動アップグレード

Avaya Vantage™ では Avaya インターネットサーバーからの Avaya Spaces の自動アップグレードをサポートしています。Avaya Spaces の自動アップグレードはデフォルトで有効になっています。設定パラメータを使用して、アプリケーションの自動アップグレードを制御できます。

FIPS モードでの FIPS 140-2 暗号ライブラリの使用

FIPS モードでは、Avaya Vantage™ は Mocana FIPS 140-2 準拠の暗号ライブラリを使用します。また、Avaya Vantage™ で使用される Android BoringCrypto は FIPS で検証されます。Mocana 暗号ライブラリと Android BoringCrypto の FIPS 認証が進行中です。

Avaya URI

Avaya Vantage™ では Avaya URI をサポートしています。Avaya には、サードパーティアプリケーションが Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから次の操作をトリガするために使用可能な多数の URI フォーマットがあります。

- 音声通話の発信
- ビデオ通話の発信
- 電話会議への参加

ハイパーリンクで Avaya URI を使用することもできます。

サイレント Space

Avaya Vantage™ では、通話中の背景雑音を低減するサイレント Space 機能をサポートしています。Avaya Vantage™ では RJ9 および 3.5mm 有線ヘッドセット、有線ハンドセットでのサイレント Space 機能をサポートしています。

プロビジョニングサーバーとしての Device Enrollment Services

Device Enrollment Services は Avaya Vantage™ デバイスのプロビジョニングサーバーとして使用できます。Avaya Vantage™ では、デバイス設定の Device Enrollment Services からソフトウェアファイル、設定ファイル、証明書、その他のメディアファイルをダウンロードできます。

Avaya Vantage™ リリース 3.0 以降に導入された機能

このリリースには、Avaya Vantage™ リリース 3.0 SP1 および SP3 で導入された次の機能と拡張機能も含まれています。

カメラのグローバルな無効化

Avaya Vantage™ には、すべてのカメラ対応アプリケーションで、デバイスに接続された内蔵カメラや外付けの USB カメラがビデオや画像をグローバルに送信できないようにする機能があります。

簡易設定のカスタマイズ

Avaya Vantage™ では、クイック設定メニューでアプリケーション設定タイルを表示または非表示にする機能がサポートされています。

メディア出力変換器の選択

Avaya Vantage™ では、Android 対応変換器の代わりに、Avaya Alexa や YouTube などのその他のメディアアプリケーションからのメディア出力をハンズフリースピーカーにルーティングする機能をサポートしています。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスによるインスタントメッセージ機能

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでは、Avaya Aura® 環境でテキストベースのインスタントメッセージの送受信をサポートしています。

Avaya Vantage™ に組み込まれた Avaya Kiosk アプリケーション

Avaya Kiosk アプリケーションには Avaya Vantage™ ソフトウェアイメージが組み込まれています。デバイス管理者は Avaya Vantage™ にアプリケーションをプッシュする必要はありません。Avaya Vantage™ をキオスクモードで実行するには、デバイス管理者は PIN_APP パラメータを使用してデバイスの [ホーム] 画面でこのアプリケーションをロックできます。

Avaya Vantage™ に組み込まれた Avaya Connect Expansion Module

Avaya Connect Expansion Module アプリケーションには Avaya Vantage™ ソフトウェアイメージが組み込まれています。デバイス管理者は Avaya Vantage™ にアプリケーションをプッシュする必要はありません。デフォルトでは、Expansion Module は Avaya Vantage™ で無効化されたままであり、非表示になっています。デバイス管理者は、デバイスユーザーが使用できるように有効化できます。

Expansion Module と Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスが同じデバイス上にある場合の自動ペアリング

Expansion Module と Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスが同じデバイスで使用可能な場合、自動ペアリングがサポートされます。

Avaya Spaces デジタル通話

Avaya Vantage™ では、2 つの Spaces 連絡先間のポイントツーポイントの通信を容易にする Avaya Spaces のオーバーザトップデジタル通話機能をサポートしています。

K155 では、Avaya Spaces で [スピーカー] および [ヘッドセット] のハードキーをサポートします。

セキュリティ強化機能

- TLS 上のセキュアな syslog のサポート
- キーの長さが 2048 ビットの ID 証明書を使用してサービスへの TLS 接続を強制する機能
- Android の最新セキュリティパッチ

第 3 章: 仕様

デバイスの仕様


次の表は、Avaya Vantage™ デバイスの仕様を示しています。デバイスの各モデルの違いには、適宜、言及しています。

機能	仕様
表示	Avaya Vantage™ K175: <ul style="list-style-type: none">• 容量性 8 インチタッチスクリーン• 解像度 : 800×1280 px.• 色深度 : 24 ビット Avaya Vantage™ K155: <ul style="list-style-type: none">• 容量性 5 インチタッチスクリーン• 解像度 : 1280×720 px.• 色深度 : 24 ビット
ビデオ解像度	1080p
内部ストレージ	32 GB フラッシュメモリ。
メモリ	メモリ 2 GB
オペレーティングシステム	Android 9.0。
電源	<ul style="list-style-type: none">• PoE/EEE 802.3af (クラス 3) または 802.3at (クラス 4)• DC 電源入力専用の USB 3.0 Type-C ポート。 標準の USB-C 電源または電源アダプタを使用できます。
イーサネット	<ul style="list-style-type: none">• RJ45 プライマリギガビットイーサネット (10/100/1000 Mbps) PoE LAN ポート• RJ45 セカンダリギガビットイーサネット (10/100/1000 Mbps) コンピュータ用ポート

次のページに続く...

機能	仕様
Bluetooth	<p>高速 (HS)、低エネルギー (LE)、拡張データレート (EDR) 機能対応 Bluetooth 4.2</p> <p>Avaya Vantage™ では、ヘッドセット、キーボード、マウスなどの Bluetooth デバイスを使用できます。</p> <p>サポートされている Bluetooth プロファイルは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Audio Gateway ロールのヘッドセットプロファイル (HSP) • Audio Gateway ロールの Hands Free Profile (HFP) • Bluetooth キーボードおよびマウス向けの Bluetooth HID ホストとしての Human Interface Device Profile (HID) • Phone Book Server Equipment (PSE) と Phone Book Client Equipment (PCE) ロールの Phone Book Access Profile (PBAP) • Source (SRC) ロールの Advanced Audio Distribution Profile (A2DP) • Push サーバーおよび Push クライアントロールの Object Push Profile (OPP)
近距離無線通信 (NFC)	<p>ビルトイン NFC モジュールで 2 つのデバイス間で短距離でのワイヤレス通信を行います。Avaya Vantage™ デバイスにはエンボス加工された NFC ロゴがあります。</p> <p>Avaya Vantage™ では外部 NFC モジュールをサポートしません。</p>
Wi-Fi	<p>ビルトイン Wi-Fi モジュールのサポート :</p> <ul style="list-style-type: none"> • Wi-Fi アクセスポイントモード • 2.4 GHz または 5G Hz 帯域の Wi-Fi 802.11a/b/g/n/ac • 2.4 GHz の Wi-Fi ホットスポットのみ <p>Avaya Vantage™ では外部 Wi-Fi モジュールをサポートしません。</p> <p>Bluetooth デバイスを Avaya Vantage™ に接続する場合、Avaya では 5G Wi-Fi ネットワークを使用することを強くお勧めします。</p>

次のページに続く...

機能	仕様
汎用 USB ポート	<p>USB 3.0 Type-C 汎用ポート。</p> <p>サポートされている USB アクセサリは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デバイスに相互にデータを転送する USB フラッシュドライブ。 最大 32 GB のストレージを備えた USB フラッシュドライブのみサポートされます。 • マルチポート USB ハブ • USB ヘッドセット • マウス • キーボード • USB カメラ <p>デバイスが外部 AC-DC アダプタまたはクラス 4 (802.3at) PoE スイッチに接続されている場合、USB ポートの最大電力は 900mA です。900mA を超える電力を必要とする USB 対応デバイスはサポートされていません。クラス 3 PoE スイッチに接続されている場合は、最大供給電力は 100mA です。</p>
ヘッドホンコネクタポート	<ul style="list-style-type: none"> • 3.5 mm ヘッドセットコネクタ • 高品質有線ヘッドセット用 RJ9 ヘッドセットコネクタ
サポートされるヘッドセット	<ul style="list-style-type: none"> • 広帯域 Bluetooth ヘッドセット • 3.5 mm ヘッドセット • RJ9 ヘッドセット • USB ヘッドセット <p> 警告</p> <p>聴覚の損傷を防ぐために、ヘッドセットで大音量設定を使用しないでください。</p> <p>Avaya Vantage™ では、各種の Bluetooth/USB ヘッドセットおよびスピーカースピーカーフォンに対する通話制御機能がサポートされます。詳しくは、「通話制御機能を備えたヘッドセットとスピーカースピーカーフォン (29 ページ)」を参照してください。</p> <p>サポート対象のヘッドセットの完全なリストについては、『Avaya Vantage™ Release Notes』を参照してください。このドキュメントと Avaya Vantage™ ファームウェアは、Avaya サポート Web サイトの [ダウンロード] に移動すると見つかります。</p>
HDMI	Micro HDMI 2.0 ポート。

次のページに続く...

機能	仕様
オーディオコーデック	すべてのトランスデューサー、ハンドセット、ヘッドセット、ハンズフリー端末で利用可能な広域帯オーディオ。 対応コーデック <ul style="list-style-type: none"> • G.722 • G.711 • G.729 • G.726 • Opus
ビデオコーデック	Avaya Vantage™ と Avaya™ Client SDK アプリケーションでは、次のエンコーディングプロファイルを持つ H.264 コーデックがサポートされます。 <ul style="list-style-type: none"> • ハイプロファイル AVC • ベースラインプロファイル AVC
物理キー	Avaya Vantage™ K155 には次の物理キーがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • Android キー • 音声ミュート • ビデオのミュート • ヘッドセット • スピーカー • 音量調節 • キーパッド : 0 ~ 9 までの数字、アスタリスク (*), パウンドキー (#) K175 には音量調整キーがあります。
物理的なセキュリティ	ケンジントロックと互換性のある盗難防止セキュリティスロット。
スタンド	デスクスタンドまたは壁掛けスタンドとして使用できる、すべてのデバイスモデルで調整可能なヒンジ付きスタンド。

カメラの仕様

Avaya Vantage™ K155 と一部の K175 デバイスには内蔵カメラが搭載されています。また、これらのデバイスには外付け USB カメラを使用できます。外付け USB カメラは、内蔵カメラよりも優先されます。

また、K175 デバイスには内蔵カメラは搭載されていませんが、外付け USB カメラを使用できます。外付けカメラとの接続の有無を問わず、別のデバイスからビデオを受信できます。

内蔵カメラが搭載された Avaya Vantage™ デバイスのカメラ仕様

- 1920 x 1080 ピクセルセンサーで 2.1 メガピクセル
- 固定焦点距離 50 cm
- フォーカス範囲 28 cm ~ 無限
- 視野角 77.5 度

- フリッカー防止フィルタ 50 または 60 Hz
- 自動露出
- オートホワイトバランス
- カメラのアクティビティ LED インジケータ

Avaya Vantage™ は、緑の LED インジケータを使用して内蔵カメラがアクティブであることを通知します。

内蔵 LED インジケータは、内蔵カメラでのみ機能し、外付けカメラの使用時には機能しません。

外付け USB カメラのサポート

Avaya Vantage™ は外付け USB カメラと併用できます。USB カメラを Avaya Vantage™ デバイスの右側の汎用 USB 3.0 Type-C ポートに接続します。USB カメラをカメラが内蔵された K155 または K175 デバイ스에接続すると、外付けカメラが内蔵カメラより優先されます。特定のカメラを選択したり、カメラを切り替えたりすることはできません。

Avaya Vantage™ では多数の Avaya およびサードパーティの外付け USB カメラをサポートしています。サポートされている外付け USB カメラのリストについては、『Avaya Vantage™ Release Notes』を参照してください。このドキュメントと Avaya Vantage™ ファームウェアは、[Avaya サポート](#) Web サイトの [ダウンロード] に移動すると見つかります。

USB カメラの電源要件

Avaya Vantage™ が外付け USB Type-C 電源アダプタまたは 802.3at PoE (クラス 4) スイッチに接続されている場合、汎用 USB ポートに割り当てられる最大電力は 900mA です。802.3af PoE (クラス 3) スイッチに接続されている場合、USB ポートに割り当てられる最大電力は 100mA です。USB カメラが 100mA を超える電力を必要とし、802.3at PoE スイッチが利用できない場合は、デバイスを外付け電源アダプタに接続します。

対応 Avaya USB カメラ

次のいずれかの Avaya カメラを外付け USB カメラとして使用できます。

- Avaya Huddle Camera HC020 : カメラに付属の USB 3.0 ケーブルを使用して、Avaya Vantage™ の USB 3.0 Type-C ポートに接続します。このカメラは Avaya Vantage™ を 802.3at PoE (クラス 4) スイッチ、または外付け USB Type-C 電源アダプタに接続すると、USB ポートに最大 900mA の電力を供給できます。詳細については、「[Avaya Huddle Camera HC020 簡易設定ガイド](#)」を参照してください。
- Avaya Huddle Camera HC050 : USB Type-C to Type-A アダプタを使用しカメラに付属する USB ケーブルを使用して、カメラを Avaya Vantage™ に接続します。このカメラには独自の AC 電源アダプタが付属しており、Avaya Vantage™ の USB ポートへの電源には依存しません。詳細については、「[Avaya Huddle Camera HC050 簡易設定ガイド](#)」を参照してください。

ワイヤレスハンドセットの仕様

Avaya Vantage™ で有線またはワイヤレスのハンドセットをオプションで使用できます。ワイヤレスのハンドセットのサポート仕様は以下のとおりです。

仕様	Avaya Vantage™ ワイヤレスハンドセット
システム	Bluetooth 4.2
Bluetooth プロファイル	<ul style="list-style-type: none"> • Hands-free Profile 1.6 • ヘッドセットプロファイル
バッテリー	0.57 Wh、3.7 V のリチウムイオンバッテリー
バッテリー充電器	リチウムイオンバッテリー管理システム
充電システム	非接触型充電システム：クレイドルへの誘導カップリング
制御	<ul style="list-style-type: none"> • 音量調節 • [電源] ボタン • [ミュート] ボタン
インジケータ	青色 LED インジケータ
動作環境温度	0 ~ 45 °C (32 ~ 113 °F)
バッテリー充電環境温度	0 ~ 45 °C (32 ~ 113 °F)

ワイヤレスハンドセットの機能

範囲

ハンドセットは Bluetooth テクノロジを使用しています。このハンドセットは Class 2 デバイスで、有効範囲は 10 メートルです。実際の使用での有効範囲は、環境により異なる場合があります。ハンドセットが有効範囲外に移動された場合、ハンドセットが有効範囲内に戻されると、接続が自動的に再確立されます。ハンドセットがオフになっている場合、ハンドセットがオンになり有効範囲内に戻されると、接続が自動的に再確立されます。

バッテリーの耐用年数

慎重に取り扱った場合、バッテリーの予想耐用年数は数年になります。バッテリー容量は時間とともに減少しますが、一般に、通常のハンドセットの使用には影響しません。

バッテリーの通話時間

満充電されている場合は、新しいバッテリーで約 12 時間通話可能です。十分な通話時間を確保するため、バッテリーを最初に使用する前に充電する必要がある場合があります。バッテリーの損傷を防ぐために、保護システムではバッテリーの放電を一定のポイント以下に保ちます。Avaya Vantage™ では、[通知] パネルにバッテリーの充電レベルが表示されます。

バッテリーのスタンバイ時間

満充電されている場合は、新しいバッテリーのスタンバイ時間は約 60 時間になります。

バッテリー充電

ハンドセットではコンタクトレス充電システムをサポートします。ハンドセットを充電するには、ハンドセットをクレイドルに置きます。バッテリー残量が少ない場合、ハンドセットは警告トーンで通知します。警告トーンが発信された場合は、ハンドセットをクレイドルに戻し、バッテリーを充電します。

バッテリー充電がゼロの場合、ハンドセットがオフになります。ハンドセットをクレイドルに戻し、バッテリーを充電します。ハンドセットを再びオンにするには、[電源] ボタンを約 2 秒間押します。ハンドセットをクレイドルに戻しても自動的にオンになりません。

ハンドセットは、バッテリー管理と保護システムを備えたリチウムイオンバッテリーを使用しています。保護システムでは次の状況から保護することができます。

- 過充電
- 過放電
- 環境温度が 45 °C (113 °F) 以上の場合の充電

*** 注**

スピーカーを使用した通話中、スピーカーの音声が届かなくなるのを防ぐため、デバイスではハンドセットが充電されません。

バッテリーの再充電時間

バッテリーは 3 時間未満で再度満充電されます。充電前に完全に放電する必要はありません。

バッテリーの廃棄

バッテリーの寿命が切れたら、バッテリーを取り外し、バッテリーをリサイクル処分してください。バッテリーは特別な廃棄方法で処分してください。

ワイヤレスハンドセット LED インジケータ

青色の LED インジケータはハンドセットの現在の状態を示します。また、ユーザーのアクションを示すために使用されます。

ワイヤレスハンドセットの状態	LED インジケータ	注：
ワイヤレスハンドセットがペアリングモードになっている	LED は 0.5 秒ごとに点滅	ワイヤレスハンドセットのペアリングモードは 150 秒内に終了します。
ペアリングが正常に完了した	LED は 0.1 秒間に 10 回点滅	なし
ワイヤレスハンドセットが通話に使用される	LED は 3 秒ごとに 3 回点滅	なし
ワイヤレスハンドセットがオンになっていてベースに接続されている (接続済モード)	LED は 5 秒ごとに 2 回点滅	なし
ワイヤレスハンドセットがベースへの接続の確立を試みている (リンクバックモード)。	LED は 0.5 秒ごとに点滅	なし
ワイヤレスハンドセットが範囲外にあり、ベースへの接続の確立を試みしていない (スタンバイモード)	LED は 5 秒ごとに点滅	なし
着信通話	LED は 7 秒ごとに 3 回点滅	なし
ミュート	LED は 4 秒ごとに 3 回点滅	なし
ワイヤレスハンドセットがオンになった	LED は 4 回点滅	なし
ワイヤレスハンドセットがオフになった	LED は 3 回点滅	なし

環境仕様

以下は、Avaya Vantage™ デバイスの動作および保管環境に関する許容仕様範囲です。

デバイスの動作温度	0 ~ 45 °C (32 ~ 113 °F)
相対湿度	10% ~ 95% (結露なし)
デバイスの保管温度	-10 ~ 50 °C (14 ~ 122 °F)

通話制御機能を備えたヘッドセットとスピーカーフォン

各種の USB および Bluetooth ヘッドセットとスピーカーフォンは通話制御ボタンを備えています。Avaya Vantage™ では、次の表に示すヘッドセットとスピーカーフォンのモデルで通話制御機能がサポートされます。サポートされる通話制御機能はモデルによって異なります。

USB 接続でサポートされるモデル

ヘッドセットまたはスピーカーフォンのモデル	通話の応答	通話の終了	通話の拒否	ミュート	通話の保留	音量の増減
Avaya L100 Series Headsets	Y	Y ¹	Y ²	Y	Y ³	Y
Plantronics DA80	あり	あり	なし	あり	なし	あり
Plantronics Blackwire C3210	あり	あり	なし	あり	なし	あり
Plantronics Savi W700	あり	あり	なし	あり	なし	なし
Jabra Speak 510	あり	Y	Y ⁴	あり	なし	あり

Bluetooth 経由でサポートされるモデル

ヘッドセットまたはスピーカーフォンのモデル	通話の応答	通話の終了	ミュート ⁵	音量の増減
Avaya B109 会議電話 ⁶	あり	あり	あり	あり

次のページに続く...

¹ [通話の応答] ボタンを押すと、アクティブな通話が終了します。

² [通話の応答] ボタンを 2 回押すと着信通話を拒否します。

³ [通話の応答] ボタンを 2 回押すとアクティブな通話を保留します。[通話の応答] ボタンをもう一度 2 回押すと保留通話を再開します。

⁴ [通話の終了] ボタンを押すと着信通話を拒否します。通話を拒否するには、着信アラートウィンドウが表示されている必要があります。

⁵ お使いの Bluetooth ヘッドセットで [ミュート] ボタンを押すと、アプリケーション UI には通話のミュートステータスが反映されません。

⁶ Avaya Vantage™ では現在 USB 接続での Avaya B109 はサポートしていません。

ヘッドセットまたは スピーカーフォンの モデル	通話の応答	通話の終了	ミュート ⁵	音量の増減
Avaya L100 Series Headsets	あり	あり	あり	あり
Plantronics V5200 ⁷	あり	あり	あり	あり
Jabra Speak 510	あり	あり	あり	あり

⁵ お使いの Bluetooth ヘッドセットで [ミュート] ボタンを押すと、アプリケーション UI には通話のミュートステータスが反映されません。

⁷ Avaya では、Plantronics V5200 ヘッドセットをデバイスに接続している間は BT600 USB ドングルを使用することをお勧めします。

第 4 章: デバイスセットアップ

この章では、Avaya Vantage™ の主なセットアップタスクを説明します。管理者またはプロバイダが実行するサーバーとデバイスの設定については説明していません。Avaya Vantage™ デプロイメントとデバイスの設定の詳細については、以下のドキュメントを参照してください。

- Avaya Aura® または IP Office のデプロイメントについて : 『*Installing and Administering Avaya Vantage™ in an Avaya Aura® or IP Office Environment*』
- Open SIP 環境でのデプロイメントについて : 『*Installing and Administering Avaya Vantage™ in an Open SIP Environment*』

電源の管理

Avaya Vantage™ では次の電源を使用できます。

- 802.3af PoE (クラス3)
- 802.3at PoE (クラス4)
- USB Type-C 電源

802.3at ネットワークスイッチまたは USB Type-C 電源アダプタを使用する場合、Avaya Vantage™ の汎用 USB ポートでは最大 900mA を使用できます。802.3af ネットワークスイッチを使用する場合、Avaya Vantage™ USB ポートでは最大 100mA の電流が流れます。

次の条件を満たす場合、USB Type-C 電源アダプタを Avaya Vantage™ の電源として使用できます。

- PoE ネットワークスイッチポートでなく Wi-Fi を使用してネットワークに接続している場合。
- ネットワークスイッチポートは 802.3af または 802.3at PoE 仕様をサポートしていない。
- デバイスには、802.3af PoE ネットワークスイッチポートより大きな電力が必要だが、802.3at PoE ポートを使用できない。たとえば、0.5 ワット以上必要な USB デバイスが Avaya Vantage™ に接続され、802.3af PoE ポートのみ使用可能だとします。この場合、Avaya Vantage™ を電源アダプタに接続する必要があります。

電源アダプタは別途ご購入いただく必要があります。

Avaya Vantage™ が電源と PoE ネットワークスイッチポートに接続されている場合に一方の電源を切断すると、次の状態になります。

- 電源アダプタを切断すると、Avaya Vantage™ が再起動します。ネットワークスイッチが 802.3at または 802.3af 仕様をサポートする場合、Avaya Vantage™ は再起動後、動作を続けます。

- ネットワークスイッチを切断すると、Avaya Vantage™ は再起動しないで動作を続けます。Avaya Vantage™ が PoE ネットワークスイッチに接続している状態でデバイスに電源アダプタを接続すると、Avaya Vantage™ は再起動しないで動作を続けます。

Avaya Vantage™ デバイスを開始する

このタスクについて

この手順を使用して Avaya Vantage™ デバイスを電源とネットワークに接続します。デバイスを電源に接続すると、デバイスが起動して初期化されます。

Avaya Vantage™ デバイスの電源が入り、初期化されると、設定されている場合、DHCP または LLDP からファイルサーバーアドレスを取得しようとします。それ以外の場合は Device Enrollment Services 検出を試み、次のいずれかが実行されます。

- Device Enrollment Services はファイルサーバーアドレスをデバイスに自動的に指定します。この場合、これ以外の操作は不要です。
- デバイスで Device Enrollment Services の登録コードの入力が求められます。登録コードを入力すると、Device Enrollment Services はデバイスをファイルサーバーにリダイレクトします。

前提条件

Device Enrollment Services が登録コードを使用するように設定されている場合は、コードがあることを確認します。Device Enrollment Services では 8 または 12 桁の登録コードをサポートします。登録コードの詳細については、「*Avaya Device Enrollment Services を使用したエンドポイントの管理*」を参照してください。

手順

1. 有線イーサネット接続を使用するには、イーサネットケーブルの一方の端を Avaya Vantage™ の背面にある LAN ポートに差し込み、もう一方の端をネットワークで利用可能な LAN ポートに差し込みます。

PoE がサポートされている場合は、Avaya Vantage™ の電源が入り、初期化が開始されます。

2. (オプション) デバイス背面の USB Type-C 電源コネクタポートに電源アダプタを接続します。次の場合は、電源アダプタをコンセントに差し込みます。
 - ネットワークで 802.3at (PoE) または 802.3af (PoE) インジェクタ仕様がサポートされていない場合。
 - Wi-Fi 接続を使用する場合。

デバイスの電源が入ります。

3. (オプション) プロンプトが表示されたら、Device Enrollment Services の登録コードを入力します。

コードを入力すると、Device Enrollment Services はデバイスを正しいファイルサーバーにリダイレクトします。登録コードを入力しないで [キャンセル] をタップする場合、Device Enrollment Services プロセスはキャンセルされます。ファイルサーバーのアドレスを手動で指定できます。

結果

デバイスがネットワークに正常に接続し、DHCP、LLDP、Device Enrollment Services 検出からファイルサーバーアドレスを取得すると、デバイスは [ホーム] 画面に移動します。デバイスは、バックグラウンドで設定ファイルとソフトウェア更新ファイルのダウンロードを開始します。ダウンロードが完了すると、デバイスが再起動して更新を適用する場合があります。

デバイスが DHCP、LLDP、Device Enrollment Services 検出からファイルサーバーアドレスを自動的に取得できなかった場合は、デバイスにデバイスのセットアップを案内する Avaya インストールウィザードが表示されます。ネットワークへの接続がない場合、Wi-Fi モードの選択と Wi-Fi ネットワークの設定を案内するインストールウィザードが表示されます。

Avaya インストールウィザードを使用して Avaya Vantage™ を設定する

このタスクについて

新しい Avaya Vantage™ デバイスの電源を初めてオンにする、または工場出荷時の状態にリセットし、デバイス設定が自動的に完了していない場合は、Avaya インストールウィザードが表示され、デバイスの設定を案内します。ネットワークへの接続がない場合、デバイスに Wi-Fi ネットワークへの接続をセットアップするためのインストールウィザードが表示されます。

* 注

インストールウィザードをスキップして、ファイルサーバーアドレスとグループを [設定] > [ネットワークとインターネット] > [詳細] > [ファイルサーバー] から手動で設定できます。

手順

1. [ようこそ] 画面で、使用する言語を選択します。
2. (オプション) 拡大や TalkBack などのユーザー補助機能を有効にするには、[ビジョン設定] をタップします。
3. [ネットワーク接続] 画面で、デバイスのネットワークへの接続方法を選択します。
 - [有線 (イーサネット)] : イーサネットケーブルを使用してデバイスをネットワークに接続します。
 - [ワイヤレス (Wi-Fi)] : ワイヤレスネットワーク接続の Wi-Fi ネットワークを選択します。
4. (オプション) ネットワークモードを Wi-Fi に設定する場合、次の手順で Wi-Fi ネットワークに接続します。
 - a. [Wi-Fi ネットワークに接続] 画面で、利用可能な Wi-Fi ネットワークから使用するネットワークを選択します。
 - b. 認証が必要なワイヤレスネットワークでは、ネットワークの資格情報を入力し、次から該当する CA 証明書オプションを選択します。
 - [システム証明書を使用する]
 - [確認しない]
 - c. [接続] をタップします。

デバイスがネットワークに接続されると、DHCP または Device Enrollment Services 検出を通じてネットワークからデバイス設定の取得を試みます。この自動設定をスキップして次の設定画面に移動するには、[スキップ] をタップします。

デバイスがネットワークからファイルサーバーアドレスを正常に取得すると、設定ファイルとソフトウェアアップデートファイルのダウンロードを開始します。ウィザードで [タイムゾーンの選択] 画面に進みます。手順 [10](#) (34 ページ) に移動します。

デバイスがファイルサーバーアドレスを取得できない場合、ウィザードは次の設定画面を表示します。

5. **(オプション)** プロンプトが表示されたら、Device Enrollment Services の登録コードを入力します。

コードを入力すると、Device Enrollment Services はデバイスを正しいファイルサーバーにリダイレクトします。登録コードを入力しないで [キャンセル] をタップする場合、Device Enrollment Services プロセスはキャンセルされます。ファイルサーバーのアドレスを手動で指定できます。

6. [設定オプション] 画面で、次のいずれかを選択します。

- [電子メールベースの設定] : 管理者からデバイスの自動設定に会社の電子メール ID を使用するように指示されている場合は、このオプションを選択します。
- [手動設定] : 管理者からのファイルサーバーアドレスとグループ情報がある場合は、このオプションを選択します。

7. [電子メールベースの設定] を選択する場合は、次の画面で会社の電子メールアドレス ID を入力して [次へ] をタップします。

ウィザードは、電子メールアドレスのドメインに基づいて、使用可能なファイルサーバーの設定を取得します。手順 [10](#) (34 ページ) に移動します。

8. **(オプション)** ウィザードで一連のファイルサーバー環境から選択するように求められた場合は、自分に適した環境または管理者から使用を指示された環境を選択し、[次へ] をタップします。手順 [10](#) (34 ページ) に移動します。

9. [手動設定] を選択する場合は、[Avaya Vantage 設定] 画面で、次の設定情報を入力します。

- [ファイルサーバー] : 設定ファイルサーバーのアドレス。
- [証明書] : ファイルサーバー認証でデバイスで使用するユーザー名とパスワードです。ファイルサーバーで HTTP 認証が必要な場合、この資格情報を入力します。

たとえば、BroadWorks Device Management サーバーの Open SIP デプロイメントでは、Avaya Vantage™ がサーバーでの自己認証と設定ファイルのダウンロードを実行する際にこの資格情報が必要です。

- [グループ] : デバイスの固有の構成設定のユーザーグループ ID です。グループ情報はオプションです。管理者から受け取った場合は、ユーザーグループ ID を入力します。

管理者に連絡して、お使いのデプロイメント環境に適したファイルサーバーのアドレスとグループ値を取得してください。デバイスのサーバー認証で資格情報が必要な場合、管理者が詳細を送信します。

10. プロンプトが表示されたら、該当するタイムゾーンを選択します。

11. [閉じる] をタップします。

結果

デバイスで [ホーム] 画面に移動します。デバイスは、バックグラウンドで設定ファイルとソフトウェア更新ファイルのダウンロードを開始します。ダウンロードが完了すると、デバイスが再起動して更新を適用する場合があります。

関連リンク

[デバイスの設定を確認する](#) (148 ページ)

[設定] メニューから Wi-Fi を設定する

このタスクについて

この手順を使用して、デバイスの [設定] メニューから Wi-Fi ネットワークを設定します。

Bluetooth デバイスを Avaya Vantage™ に接続する場合、Avaya では 5G Wi-Fi ネットワークを使用することを強くお勧めします。

手順

1. [設定] をタップします。
2. [ネットワークとインターネット] > [ネットワーク接続] をタップします。
3. [Wi-Fi] を選択します。
4. [ネットワークとインターネット] 画面で、[Wi-Fi] をタップし、該当ネットワークを選択します。
5. 認証が必要なネットワークでは、ネットワークの資格情報を入力し、次から該当する CA 証明書オプションを選択します。
 - [システム証明書を使用する]
 - [確認しない]
 - [Wi-Fi 証明書リポジトリにインストールされた信頼できる証明書のリスト] (利用可能な場合)

新しいデバイスでは、信頼できる証明書がリポジトリにインストールされていないため、このオプションを選択することはできません。
6. [接続] をタップします。

資格情報が正常に認証されると、デバイスは Wi-Fi ネットワークに接続します。

Avaya Vantage™ へのハンドセット接続

Avaya Vantage™ にはスピーカーとマイクが内蔵されているので、通話の発信と管理のためにハンドセットは必要ありません。有線またはワイヤレスハンドセットを別途購入することもできますが、ハンドセットにはクレイドルキットが付属しています。Avaya Vantage™ でハンドセットを使用するには、ハンドセットクレイドルをデバイスに接続する必要があります。

ハンドセットクレイドルを Avaya Vantage™ に接続する

このタスクについて

この手順を使用して、ハンドセットクレイドルを Avaya Vantage™ デバイスに接続します。ハンドセットクレイドルは、有線およびワイヤレスハンドセットの両方で必要になります。

警告

クレイドルを接続する際、のコネクタピンを曲げないように注意してください。

前提条件

- 次の装置が用意されていることを確認します。
 - Avaya Vantage™ デバイス。
 - 接続ケーブルが付属したハンドセットクレイドル。
- Avaya Vantage™ デバイスが電源に接続されていないことを確認します。

手順

1. クレイドルの右側が卓上デバイスに接するように置き、ハンドセットクレイドルを取り付ける左側が上になるようにします。
2. Avaya Vantage™ デバイスの左側にある、クレイドルのコネクタピンの保護用ゴム製ガasketを取り外します。

クレイドルを正しい向きに設置できるよう、クレイドルのコネクタピンの1つは閉じられています。
3. ハンドセットクレイドルのケーブルを、Avaya Vantage™ デバイスのクレイドルコネクタに接続します。

ヒント

クレイドルのケーブルを円弧状に曲げ、ケーブルが簡単にクレイドルのコネクタに接続できるようにします。

4. クレイドルを Avaya Vantage™ デバイスに接続し、その際に接続ケーブルがクレイドルとデバイス間でねじれていないことを確認します。
5. ハンドセットクレイドルスタンドのクロスバーを、Avaya Vantage™ スタンドの背面の溝にはめ込みます。
6. クレイドルの背面パネルのヒンジを使用して、ハンドセットクレイドルをクレイドルスタンドに接続します。
7. 有線ハンドセットを使用している場合は、RJ9 ハンドセットコードの一方の端をハンドセットに接続し、もう一方の端をハンドセットクレイドルの底部の RJ9 ポートに接続します

次のステップ

Avaya Vantage™ を電源に接続します。

有線ハンドセットを接続する

このタスクについて

この手順を使用して、有線ハンドセットを Avaya Vantage™ に接続します。

前提条件

ハンドセットクレイドルが、Avaya Vantage™ デバイスに接続されていることを確認します。

手順

1. ハンドセットコードのねじれていない端を、ハンドセットクレイドルのハンドセットコネクタに差し込みます。
2. もう一方の端を、ハンドセットのコネクタに差し込みます。

ワイヤレスハンドセットを接続する

このタスクについて

この手順を使用して、ワイヤレスハンドセットを Avaya Vantage™ デバイスに接続またはペアリングします。ワイヤレスハンドセットをお使いの Avaya Vantage™ デバイスとペアリングすると、有線ハンドセットを使用できます。デバイスに同時にペアリングできるのは、ワイヤレスハンドセット1つのみです。

この手順が完了し、ハンドセットがオンになっていれば、ワイヤレスハンドセットを使用して通話できるようになります。ハンドセットをオフにすると、ハンドセットを使用して通話できませんが、Avaya Vantage™ とはペアリングされたままの状態になっています。

* 注

ワイヤレスハンドセットクレイドルがデバイスに接続されると、デバイスはハンドセットのペアリング方法を説明する通知を表示し、適切なメニューオプションにリダイレクトします。

前提条件

- ハンドセットクレイドルをお使いの Avaya Vantage™ デバイスに接続します。
- Avaya Vantage™ デバイスを起動します。
- クレイドルにハンドセットを置いてハンドセットのバッテリーを充電します。
- ワイヤレスハンドセットをオフにします。

手順

1. ワイヤレスハンドセットをクレイドルから持ち上げ、上部の [電源] ボタンを 15 秒以上押し、ペアリングモードになります。



ハンドセットがペアリングモードになると、ハンドセットのLEDが1秒ごとに2回点滅しはじめます。

2. [ホーム] 画面で、[アプリケーション] をタップします。
3. [設定] > [接続デバイス] をタップします。
4. [新しいデバイスのペアリング] をタップします。

Bluetooth が自動的にオンになります。

5. 使用可能なデバイスのリストで、ハンドセットの下部のラベルのIDと一致するエントリをタップします。

ハンドセットエントリが Avaya-J100-XXXXXX と表示され、最後の6桁はハンドセットの一意のIDを表します。

ペアリングが成功すると、現在接続されているデバイスのリストに、接続済みのワイヤレスハンドセットが表示されます。

[接続デバイス] メニューには、ワイヤレスハンドセットのペアリングと接続に関連するヒントが表示されます。

ワイヤレスハンドセットとのペアリングを削除する

このタスクについて


Avaya Vantage™ デバイスとワイヤレスハンドセットとのペアリングを削除するには、この手順を使用します。ペアリングを削除した後、有線ハンドセットをデバイスと接続して使用するか、ワイヤレスハンドセットを別のデバイスとペアリングすることができます。

前提条件

次のことを確認してください。

- デバイスで Bluetooth が有効になっている。
- ワイヤレスハンドセットがオンになっている。

手順

1. [設定] > [接続デバイス] をタップします。
2. 現在接続されているデバイスのリストで、ペアリングされたワイヤレスハンドセットのエントリの横にある  をタップします。
リストでペアリングされたハンドセットエントリが「Avaya J100-*<ID>*」と表示されます。
3. [破棄] をタップします。
デバイスでペアリングされたデバイスのリストからワイヤレスハンドセットが削除されます。

Avaya Vantage™ の壁掛けオプション

Avaya Vantage™ には、デスクスタンドまたは壁掛けで使用できる調整可能なスタンドが付属します。デバイス用の個別の壁掛けキットは必要ありません。スタンドには、2 つの標準的な壁掛け用の細い穴があります。次を使用して、デバイスを壁に取り付けることができます。

- 垂直方向に 4 インチ離れた 2 本のネジ。
- 壁に取り付ける標準の 2 つの留め金具付き電話ウォールプレート。

ハンドセットクレイドルと共にデバイスを壁に取り付けるには、クレイドル用の壁掛けブラケットが必要です。傾斜スタンドをクレイドルから取り外し、壁掛けブラケットを使用してクレイドルを壁に固定する必要があります。クレイドル用の壁掛けブラケットは、Avaya から別途購入できます。

壁に Avaya Vantage™ を直接取り付ける

このタスクについて

2 本のネジまたは電話ウォールプレートを使用して Avaya Vantage™ を壁に掛けられます。この手順ではネジを使用して Avaya Vantage™ を壁掛けする方法を説明します。デバイススタンドには、これらのネジを固定できる 2 つの標準的な壁掛け用の細い穴があります。

前提条件

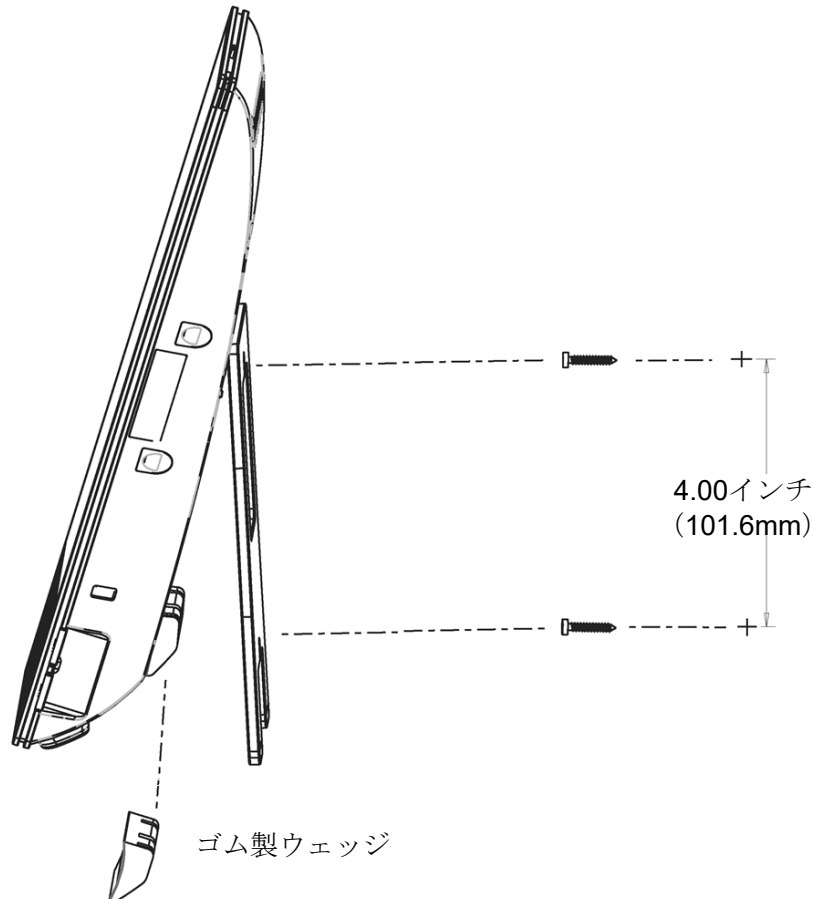
次のアイテムがあることを確認します。

- ボックス内のデバイスに付属する 2 本のネジ。
- ボックス内のデバイスに付属するゴム製のウェッジ。
- プラスのドライバ。

- 鉛筆。
- Ethernet ケーブル 1 本。

手順

1. 鉛筆を使用して、垂直方向に 4 インチ離れた 2 つのネジ穴に印を付けます。



2. 穴を開け、プラスのドライバを使用して壁にネジを取り付けます。
3. ゴム製のウェッジを上画像で示すように Avaya Vantage™ デバイスの背面の底部に取り付けます。

ゴム製のウェッジには、デバイスの表面に取り付けることができる粘着部分があります。これは壁掛けしたデバイスを安定させ、画面に触れたりタップしたりしたときに動かないようにします。

4. イーサネットケーブルをデバイスの背面パネルの LAN ポートに接続します。
5. (オプション) 外部電源または RJ9 ヘッドセットを使用している場合は、電源アダプタコードまたはヘッドセットをデバイスに接続します。

これらのポートはデバイスの背面パネルにあり、デバイスが壁に取り付けられている場合は使用できません。そのため、デバイスを取り付ける前にこの手順を実行してください。

6. デバイススタンドを閉じて、ゴム製のウェッジの上に載せます。

7. ぶら下がっているケーブルは、スタンドの下部にあるケーブルアクセス開口部とゴム製のウェッジの周りに配置します。
8. デバイススタンドの壁掛け用の細穴を壁に取り付けられたネジに合わせ、ネジにしっかりと固定されるまでデバイスを下にスライドさせます。

ウォールプレートに Avaya Vantage™ を取り付ける

このタスクについて

2本のネジまたは電話ウォールプレートを使用して Avaya Vantage™ を壁に掛けられます。この手順では、事前に取り付けられた標準の2つの留め具付き電話ウォールプレートに Avaya Vantage™ を取り付ける方法について説明します。

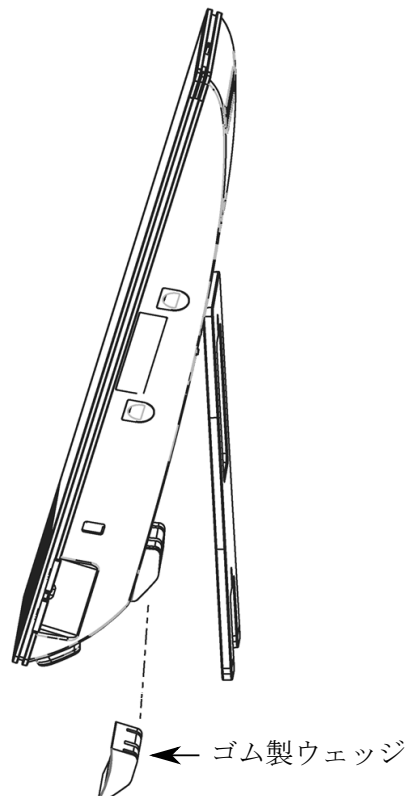
前提条件

次のアイテムがあることを確認します。

- ボックス内のデバイスに付属するゴム製のウェッジ。
- 短いRJ45コネクタが付属する、長さ4～12インチのショートイーサネットケーブル。
- 壁に取り付ける標準の2つの留め金具付き電話ウォールプレート。

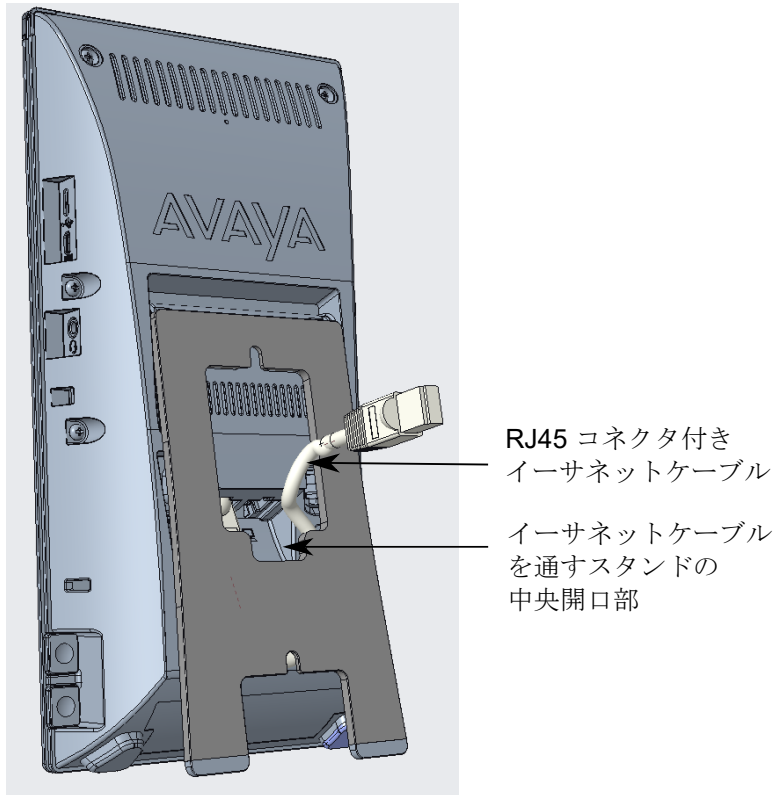
手順

1. ゴム製のウェッジを Avaya Vantage™ デバイスの背面の底部に取り付けます。



ゴム製のウェッジには、デバイスの表面に取り付けることができる粘着部分があります。これは壁掛けしたデバイスを安定させ、画面に触れたりタップしたりしたときに動かないようにします。

- イーサネットケーブルをデバイスの背面パネルの LAN ポートに接続します。
- イーサネットケーブルをスタンド中央の隙間に通し、もう一方の端を壁のプラグ差し込み口にさします。



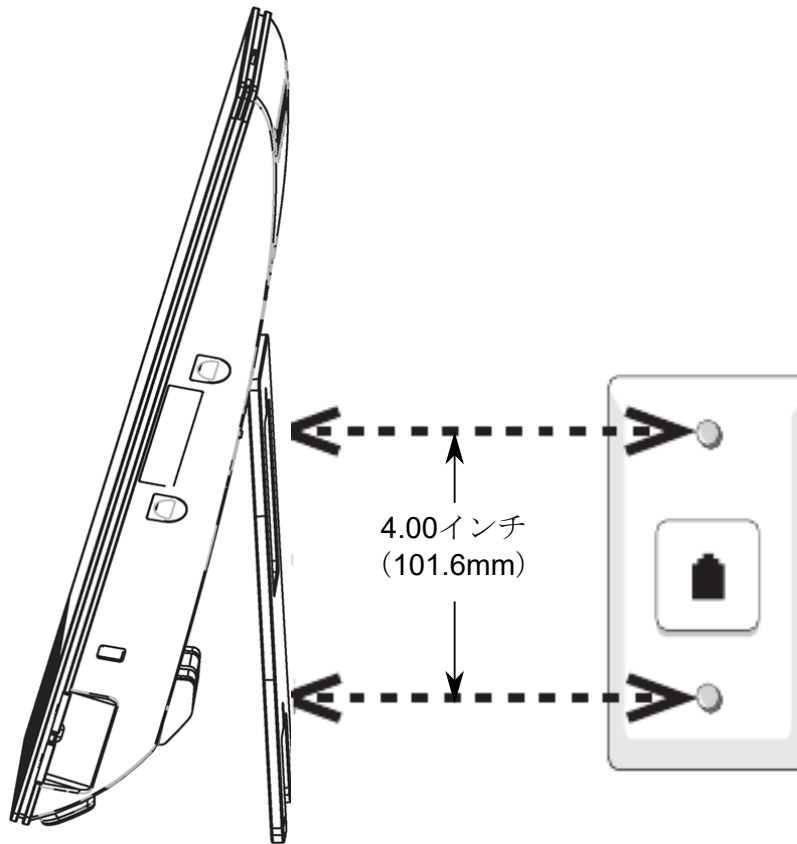
推奨されるショートケーブルを使用する場合は、スタンドとユニットの間の隙間で余分なケーブルを折りたたむことができます。

- (オプション) 外部電源または RJ9 ヘッドセットを使用している場合は、電源アダプタコードまたはヘッドセットをデバイスに接続します。

これらのポートはデバイスの背面パネルにあり、デバイスが壁に取り付けられている場合は使用できません。そのため、デバイスを取り付ける前にこの手順を実行してください。

- デバイススタンドを閉じて、ゴム製のウェッジの上に載せます。

6. デバイススタンドの細穴をウォールプレートの留め金具に合わせ、ウォールプレートにしっかりと取り付けられるまでデバイスを下にスライドさせます。



7. ぶら下がっているケーブルは、スタンドの下部にあるケーブルアクセス開口部とゴム製のウェッジの周りに配置します。

Avaya Vantage™ とハンドセットクレイドルを壁に取り付ける

このタスクについて

2本のネジまたは電話ウォールプレートを使用して Avaya Vantage™ を壁に掛けられます。デバイス用の個別の取り付けキットは必要ありません。ただし、傾斜スタンドを使用してハンドセットクレイドルを直接壁に取り付けることはできません。壁掛けブラケットが含まれるクレイドル壁掛けキットを別途購入する必要があります。クレイドル壁掛けキットの部品番号は700512776です。

前提条件

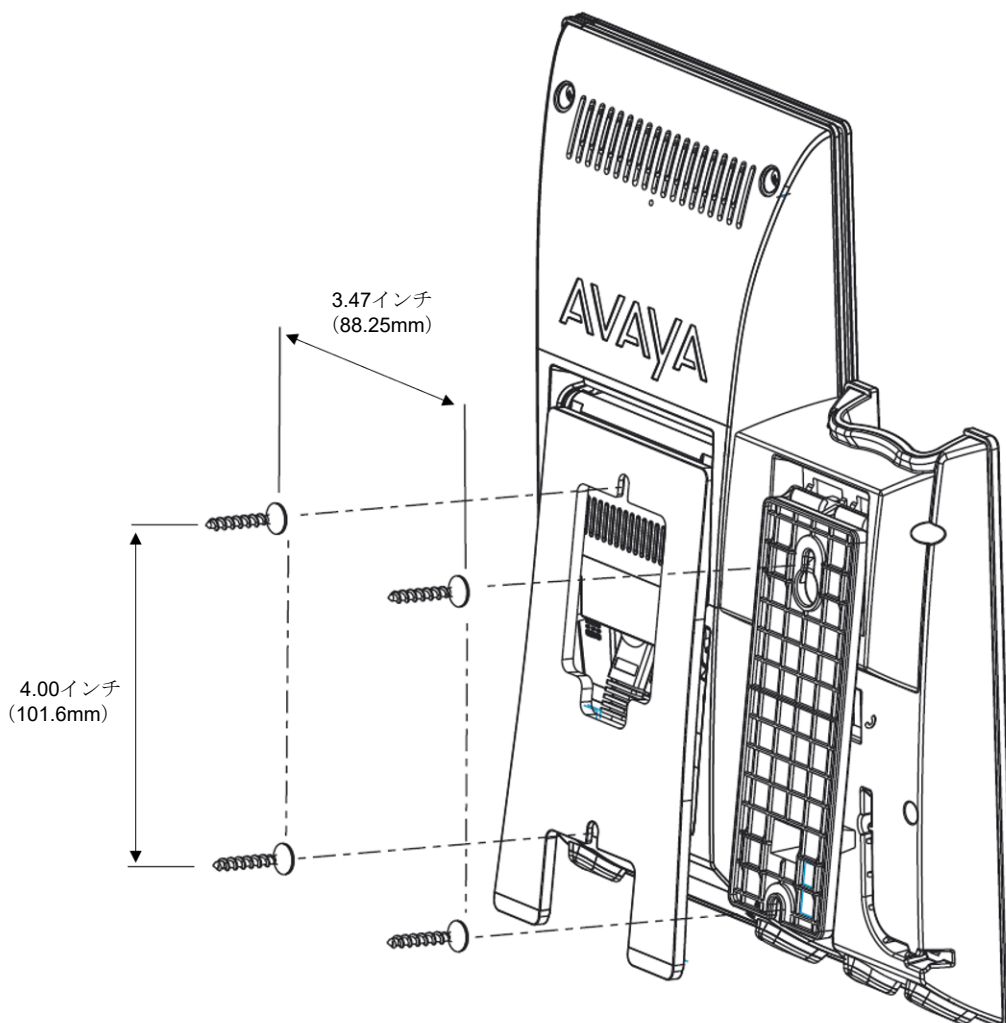
- ネジまたは電話ウォールプレートを使用して Avaya Vantage™ デバイスを壁掛けする標準的なプロセスを完全に理解してから行ってください。詳細な手順については、この壁掛け手順を参照してください。
- 次のアイテムがあることを確認します。
 - 壁掛けブラケットが含まれるクレイドル壁掛けキット この部品を別途注文する必要があります。
 - Avaya Vantage™ デバイスの設置方法に応じて、2 または 4 本のネジ。

ネジを使ってデバイスを取り付ける場合は4本のネジが必要です。電話ウォールプレートを使ってデバイスを取り付ける場合は、ハンドセットクレイドル用に2本のネジのみが必要です。ハンドセットクレイドルには、Avaya Vantage™ デバイスと同じ種類の壁掛け用ネジを使用します。

- プラスのドライバ。
- 鉛筆。
- Ethernet ケーブル 1本。電話ウォールプレートでデバイスを取り付ける場合は、ショートケーブルを使用します。

手順

1. 鉛筆を使ってネジ穴に印をつけます。
 - Avaya Vantage™ デバイスをネジを使って取り付ける場合は2対のネジ穴に印を付け、各対には、垂直方向に4インチ離れた2つの穴が必要です。2対のネジ穴の間は3.47インチの水平距離を保ちます。
 - 事前に取り付けた電話ウォールプレートにデバイスを取り付ける場合は、壁掛けプレートの左側にあるハンドセットクレイドル用の2本のネジ穴に印を付けます。ネジ穴はウォールプレートの各細穴から3.47インチ水平に配置する必要があります。



2. 穴を開け、プラスのドライバを使用して壁にネジを取り付けます。
3. ハンドセットクレイドルの傾斜スタンドをソケットから引き出します。
4. ブラケットの上部つまみをクレイドルの背面パネルの溝に挿入して、壁掛けブラケットをハンドセットクレイドルに取り付けます。
5. イーサネットケーブルをデバイスの背面パネルの LAN ポートに接続します。
6. デバイススタンドを閉じて、ゴム製のウェッジの上に載せます。
7. 壁に取り付けたネジに、ハンドセットと一緒にデバイスをしっかりと取り付けます。

Avaya Vantage™ デバイスを外部モニターに接続する

このタスクについて

HDMI ケーブルを使用して Avaya Vantage™ デバイスを外部モニターに接続できます。

通話中は HDMI を使用して外部モニターをデバイスに接続しないでください。

前提条件

次を確認してください。

- マイクロ HDMI-HDMI ケーブルがある。Avaya Vantage™ には マイクロ HDMI ポートがあります。
- 外部モニターで正しい HDMI ポートが選択されている。一部のモニターは複数の HDMI 接続をサポートしています。

手順

マイクロ HDMI ポートを使用して Avaya Vantage™ デバイスを外部モニターに接続します。

外部モニターに Avaya Vantage™ デバイス画面が表示されます。

デバイスを外部モニターに接続した後に問題が見つかった場合は、デバイスを再起動します。

HDMI 接続を通じて外部デバイスに音声をルーティングする

このタスクについて

HDMI 接続を通じて、Avaya Vantage™ デバイスから音声を外部ディスプレイデバイスにルーティングできます。HDMI からの音声ルーティングはメディア、アラーム、通知音でのみ利用できます。Avaya Vantage™ では通話の音声は HDMI ポートから外部デバイスにルーティングされません。

デフォルトでは、音声の HDMI ポートへのルーティングは無効になっています。

手順

1. Avaya Vantage™ HDMI ポートを使用して Avaya Vantage™ デバイスを外部モニターに接続します。
2. [ホーム] 画面で、[アプリケーション] をタップします。

3. [設定] > [表示] > [詳細] > [HDMI] をタップします。
4. [HDMI ポートへの音声ルーティングを許可] トグルスイッチをタップして、音声の外部モニターへのルーティングを有効にします。
音声は外部モニターに転送されます。

Avaya Vantage™ でのアプリケーションのインストール

管理者は、ユーザーの介入なしに、Avaya Vantage™ でアプリケーションの自動インストール、アップグレード、アンインストールを開始できます。

次のオプションから Avaya Vantage™ でローカルに Avaya や他のサードパーティのアプリケーションをインストールおよびアップデートできます。

- Google Play ストア：デフォルトでは、Google Play ストアは Avaya Vantage™ デバイスでは利用できません。デバイスに Google Play ストアをダウンロードするには、管理者に連絡してください。
- サードパーティのアプリケーションストアまたは不明なソース：アプリケーションの Android Package Kit (APK) は、一般的なサードパーティのアプリケーションストアか、電子メールや Web サイトなどの他のソースから Avaya Vantage™ にダウンロードできます。

アプリケーションストアまたはその他のソースから APK をダウンロードできるようにするには、[設定] > [アプリと通知] > [特定のアプリへのアクセス] で [不明なアプリのインストール] オプションを有効にする必要があります。この設定を変更できない場合は、管理者に連絡してください。

Google Play ストアへのアクセス

購入時の Avaya Vantage™ デバイスには、デフォルトでは Google Play ストアなどの Google アプリケーションは含まれていません。管理者はデバイスに Google Play ストアをインストールできます。

Google Play Services や Play ストアなどの Google アプリケーションを、Avaya Vantage™ デバイスにダウンロードする準備が整うと、Google のサービス利用規約に同意するよう通知が届きます。Avaya Vantage™ デバイスで Google アプリケーションを使用できるようにするには、利用規約に同意する必要があります。利用規約に同意すると、Google アプリケーションパッケージがデバイスにダウンロードされます。

現在インストールされているアプリケーションで、マイクやスピーカーへのアクセスなど、デバイスへのアクセスを許可するように求められる場合があります。以前にこれらのアクセスを許可した場合でも、このパッケージをインストールするには、これらのアクセス権を再度付与する必要があります。以下からこれらのアクセス要求を受け取る場合があります。

- Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンス
- Avaya Spaces


Google Play ストアからアプリケーションをダウンロードするには、Google アカウントでサインインする必要があります。

Google Play ストアからアプリケーションをインストールする

前提条件

- Google Play ストアにアクセスするために、Google アカウントがあることを確認します。
- 個人のインストールポリシーにより、特定のアプリケーションがインストールできない場合があります。Avaya Vantage™ デバイスにアプリケーションをインストールするための権限を管理者から取得します。

手順

1. デバイスで Google Play ストアを開きます。
2. [検索] バーに、アプリケーション名を入力してから  をタップします。
3. 表示された検索結果から、アプリケーションのページを開きます。
4. アプリケーションをインストールします。

サードパーティのアプリケーションストアからアプリケーションをインストールする


このタスクについて

この手順を使用して Android プラットフォームのコミュニティ管理アプリケーションストアからサードパーティアプリケーションをインストールします。不明なソースからのインストールが有効になっている場合、Avaya Vantage™ では Aurora ストア、Amazon アプリストア、F-Droid、GetJar などの一般的なサードパーティアプリケーションストアへのリンクを表示するアプリケーションが提供されます。これらのストアには Avaya Vantage™ デバイスにダウンロード可能な無料のオープンソースソフトウェアアプリケーションの Android Package Kit (APK) が含まれています。

前提条件

[設定] > [アプリと通知] > [特定のアプリへのアクセス] で [不明なアプリのインストール] オプションが有効になっていることを確認します。この設定を変更できない場合は、管理者に連絡してください。

手順

1. [ホーム] 画面で、[アプリケーション] をタップします。
2. [アプリケーションストアリンク] () を開きます。
3. [ストア] ページで、アプリケーションストアリンクをタップします。
4. アプリケーションストア Web サイトに表示された情報を使用して、APK アプリケーションを検索しダウンロードします。

電子メールまたは Web サイトからアプリケーションをインストールする

このタスクについて

この手順を使用して Android プラットフォームで電子メールまたは Web サイトからサードパーティアプリケーションをインストールします。不明なソースからのインストールが有効になっている場合は、無料のオープンソースソフトウェアアプリケーションの Android Package Kit (APK) を Avaya Vantage™ デバイスにダウンロードできます。

前提条件

[設定] > [アプリと通知] > [特定のアプリへのアクセス] で [不明なアプリのインストール] オプションが有効になっていることを確認します。この設定を変更できない場合は、管理者に連絡してください。

手順

1. 次のいずれかを実行します。
 - サードパーティアプリケーションの Web サイトで必要なアプリケーションを検索する。たとえば、<https://apkpure.com/> など。
 - アプリケーションリンクが記載された電子メールを開く。
2. アプリケーションを Avaya Vantage™ デバイスにダウンロードするには、サードパーティアプリケーションの Web サイトで [ダウンロード] ボタンをタップするか、電子メールのリンクをタップします。
ダウンロードが自動的に開始されます。
3. ダウンロードが完了したら、アプリケーションのインストールファイルを開きます。
4. [インストール] をタップします。

USB フラッシュドライブからアプリケーションをインストールする

このタスクについて

この手順を使用して、Android プラットフォームで USB フラッシュドライブからサードパーティアプリケーションをインストールします。不明なソースからのインストールが有効になっている場合は、無料のオープンソースソフトウェアアプリケーションの Android Package Kit (APK) を Avaya Vantage™ デバイスにインストールできます。

前提条件

[設定] > [アプリと通知] > [特定のアプリへのアクセス] で [不明なアプリのインストール] オプションが有効になっていることを確認します。この設定を変更できない場合は、管理者に連絡してください。

手順

1. サードパーティアプリケーションの Web サイトまたは電子メールから USB フラッシュドライブにアプリケーション APK をダウンロードします。

2. 右側のパネルの USB ポートから USB フラッシュドライブを Avaya Vantage™ デバイスに接続します。

USB Type-C フラッシュドライブがない場合は、USB Type-C アダプタを使用して USB フラッシュドライブを Avaya Vantage™ に接続できます。

3. [ホーム] 画面で、[アプリケーション] をタップします。
4. [Explorer] > [USB] をタップします。
5. アプリケーションインストールファイルを開きます。
6. [インストール] をタップします。

第 5 章: ログインとロック操作

この章では Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスのログインとログアウトの方法について説明します。Avaya Vantage™ デバイスでのロック操作とロック解除操作についても説明します。

管理者が設定する展開環境と設定に応じて、次の 2 種類のログイン資格情報のいずれかを使用して、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスにログインできます。

- SIP 資格情報。
- Avaya Aura® Device Services のエンタープライズユーザー資格情報。このオプションは Avaya Aura® 環境でのみ利用可能です。

Avaya Vantage™ デバイスでは、ロック画面のパスワードを設定していない限り、起動後にデフォルトで Android の [ホーム] 画面が表示されます。Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスを使用するには、[ホーム] 画面からログインできます。

管理者は起動後にプラットフォームのログイン画面を表示するように Avaya Vantage™ デバイスを設定できます。プラットフォームログインモードでは、SIP または統合資格情報を使用したログインが成功した場合にのみ [ホーム] 画面にアクセスできます。

Avaya Aura® Device Services からエンタープライズユーザーの資格情報を使用してビルトイン UC エクスペリエンスにログインしている場合、ユーザーのパスワードを変更するとデバイスから通知されます。

画面ロック機能を使用すると、一定時間操作しないと自動的にロックされるようにデバイスを設定できます。この機能は [セキュリティとロケーション] メニューの [設定] から管理できます。

また、Avaya Smart Lock を有効にして、自動的にデバイスのロックを解除し、設定されている場合は、信頼できる Bluetooth デバイスの携帯時に接続範囲内にいる場合にログインすることもできます。信頼できる Bluetooth デバイスが接続範囲外になると、Avaya Vantage™ デバイスは自動的にロックされログアウトされます。設定済みの信頼できるデバイスはいつでも変更または削除できます。

Avaya Vantage™ にログインする

このタスクについて

この手順を使用して Avaya Vantage™ とビルトイン UC エクスペリエンスに手動でログインします。ビルトイン UC エクスペリエンスには、SIP 資格情報または Avaya Aura® Device Services の統合ログイン資格情報のいずれかを使用してログインできます。

前提条件

システム管理者からログイン資格情報を取得します。

手順

1. 起動後にデバイスに表示される画面に応じて、次のいずれかを実行して [ログイン] 画面を表示できます。
 - [ホーム] 画面で、[サインイン] をタップします。
これは、管理者が起動後に Avaya Vantage™ デバイスに [ホーム] 画面が表示されるように設定している場合にのみ利用できます。
 - 起動後に表示される初期 [ロック画面] で上にスワイプします。
管理者がプラットフォームログインモードを有効にしている場合、デバイスには [ホーム] 画面ではなくこの画面が表示されます。
2. [ユーザー名] フィールドに、SIP または Avaya Aura® Device Services のユーザー名を入力します。
IP Office 環境で、このフィールドに SIP 内線番号を入力する必要があります。
3. [パスワード] フィールドに、ユーザーパスワードを入力します。
4. (オプション) [認証ユーザー名] フィールドに SIP 内線番号を入力します。
このフィールドは、Open SIP 環境でのみ使用可能であり、管理者が設定した設定によって利用状況が異なります。
5. [次へ] をタップします。
Avaya Aura® Device Services の資格情報を使用する場合は、SIP の資格情報も入力する必要がある場合があります。
6. 初めてログインするときは、ソフトウェア使用許諾契約に同意します。
Avaya Vantage™ には管理者が設定した設定に応じて、ビルトイン UC エクスペリエンスの [ホーム] 画面または [ダイヤルパッド] 画面が表示されます。
以降のデバイスの再起動時には、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから手動でログアウトしない限り、自動的にログインします。

SSO で Avaya Vantage™ にログインする

このタスクについて

ご使用の環境が OAuth ベースの認証をサポートしている場合は、エンタープライズシングルサインオン (SSO) を使用して Avaya Vantage™ とビルトイン UC エクスペリエンスにログインできます。OAuth ベース SSO では、[ログイン] 画面には Web ビューベースの UI が表示され、エンタープライズ資格情報を入力できます。ログイン手順は、管理者が設定するセットアップによって異なる場合があります。

Avaya Vantage™ では Avaya Aura® 環境でのみ OAuth ベース SSO をサポートします。

手順

1. 起動後にデバイスに表示される画面に応じて、次のいずれかを実行して [ログイン] 画面を表示できます。
 - [ホーム] 画面で、[サインイン] をタップします。

これは、管理者が起動後に Avaya Vantage™ デバイスに [ホーム] 画面が表示されるように設定している場合にのみ利用できます。
 - 起動後に表示される初期 [ロック画面] で上にスワイプします。

管理者がプラットフォームログインモードを有効にしている場合、デバイスには [ホーム] 画面ではなくこの画面が表示されます。
2. 初期 [ログイン] ログイン画面で、利用可能な SSO オプションをタップします。

たとえば、[Shibboleth] をタップします。
3. Web ビューベースの [ログイン] 画面で、エンタープライズ資格証明を入力します。
4. [ログイン] をタップします。
5. 初めてログインするときは、ソフトウェア使用許諾契約に同意します。

Avaya Vantage™ には管理者が設定した設定に応じて、ビルトイン UC エクスペリエンスの [ホーム] 画面または [ダイヤルパッド] 画面が表示されます。

以降のデバイスの再起動時には、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから手動でログアウトしない限り、自動的にログインします。

Avaya Vantage™ からログアウトする

- Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで、[内線番号] > [ログアウト] をタップします。

このオプションは、プラットフォームのログイン画面ではなく、デバイスの [ホーム] 画面から Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスにログインする場合にのみ使用できます。
- 管理者が起動後にプラットフォームのログイン画面を表示するようにデバイスを設定している場合は、次のいずれかを実行します。
 - 下方向にスワイプして通知エリアを開き [ログアウト] (🔒) をタップします。

管理者が設定した設定に応じて、このオプションを使用してロックされたデバイスからログアウトすることもできます。
 - [ホーム] 画面で、[すべてのアプリ] (:::) をタップしてから、[ログアウト] (🔒) をタップします。
 - [設定] メニューに進み、[ログアウト] をタップします。

管理者はこの [ログアウト] オプションを非表示にできます。

カレンダーサービスにログインする

このタスクについて

Avaya Vantage™ ビルトインユニファイドコミュニケーション (UC) エクスペリエンスで Microsoft Exchange カレンダー情報にアクセスできます。この情報は、[カレンダー] タブに表示されます。

管理者がサービスをどのように設定しているかに応じて、Microsoft Exchange のサービスに手動でログインしなければならない場合や、自動的にログインする場合があります。たとえば、管理者が Microsoft Modern 認証メカニズムを有効にした場合、[カレンダー] タブに Exchange カレンダーの資格情報を入力するための Web ページが表示されます。

Microsoft Exchange Server に手動でアクセスするには、この手順を使用します。

手順

1. Avaya Vantage™ で [カレンダー] タブが使用できない場合は、次の手順を実行して [カレンダー] タブを有効にします。
 - a. Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで、[内線番号] > [ユーザー設定] をタップします。
 - b. [アプリケーション] をタップします。
 - c. [Exchange カレンダー] を有効にします。

このオプションを表示できない場合は、管理者にサポートを依頼してください。

2. [カレンダー] タブをタップします。
3. [カレンダーログイン] 画面で、次の情報を入力します。
 - [ユーザー名] : Microsoft Exchange のユーザーアカウント ID。
 - [パスワード] : Microsoft Exchange のユーザーパスワード。
 - [ドメイン] : Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスが登録する必要がある Microsoft Exchange Server のドメイン。
例 : avaya.com
 - [サーバーアドレス] : Microsoft Exchange Server の IP アドレスまたは FQDN (必要な場合)。この情報はログインに必要ない場合があります。
例 : usmail.avaya.com
4. [接続] をタップします。

画面ロックを有効化する

このタスクについて

この手順を使用して、デバイスの [設定] メニューから画面ロックを有効化します。画面ロックはデフォルトでは無効になっています。

手順

1. [設定] > [セキュリティとロケーション] に進みます。
2. デバイスセキュリティエリアで、[画面のロック] をタップします。

管理者がデバイスでプラットフォームのログイン画面を有効にしている場合は、[画面ロック] トグルボタンで画面ロックを有効にできます。ロックされた画面で、デバイスのロックを解除するには、SIP または統合ログインパスワードを入力する必要があります。

管理者がプラットフォームのログイン画面を無効にし、起動後に [ホーム] 画面が表示される場合は、[画面のロック] をタップした後に画面ロックオプションを選択する必要があります。

3. 次のいずれかのロックオプションを選択します。
 - [なし] : 画面ロックは無効です。
 - [スワイプ] : 画面を上からスワイプするとデバイスのロックが解除されます。
 - [パターン] : 画面の点を結んでロック解除パターンを設定します。
 - [PIN] : 4桁以上の数値を入力します。PIN の桁数が多いほど、安全性が高くなる傾向があります。
 - [パスワード] : 4文字以上を入力します。

これらのオプションは、管理者が起動後に Avaya Vantage™ デバイスに [ホーム] 画面が表示されるように設定している場合にのみ利用できます。

4. 自動ロックタイマーを設定するには、[画面ロック] エリアの横の [設定] アイコンをタップして、[自動ロック] をタップして該当する時間を選択します。

Avaya Vantage™ を手動でロックする

このタスクについて

この手順を使用して、Avaya Vantage™ デバイスを手動でロックします。デバイスは、セキュリティとプライバシー上の理由からロックできます。電話をロックしてもログアウトされないため、引き続き通話を受信できます。

次のいずれかを実行します。

- 下方向にスワイプして通知エリアを開き、[ロック] (🔒) をタップします。
- [ホーム] 画面で、[すべてのアプリ] (:::) をタップしてから、[ロック] (🔒) をタップします。

Avaya Vantage™ を手動でロック解除する

手順

1. ロック画面で、上にスワイプします。

2. 選択した画面ロックオプションに応じて、次のいずれかを行います。

- 画面上の点を結んで、ロック解除パターンを描画します。
- PIN を入力します。
- パスワードを入力します。

結果


デバイスのロックが正常に解除されると、Avaya Vantage™ には、[ホーム] 画面またはデバイスがロックされる前に開いていたアクティブなアプリケーションの画面が表示されます。

関連リンク

[Avaya Vantage にログインする](#) (50 ページ)

Avaya Smart Lock

Avaya Smart Lock が有効になっていると、Avaya Vantage™ デバイスは自動的にロック解除され、アカウント資格情報を入力しなくてもログインできるようになります。自動ログインまたはロック解除は、そのデバイスから信頼できる Bluetooth デバイスまでの近接度に基づいて行われます。信頼できるデバイスが範囲外になると、Avaya Vantage™ デバイスは自動的にロックされ、設定に応じて、自動的にデバイスからログアウトします。

Avaya Vantage™ は、信頼できるデバイスに接続しているときには常にロックが解除されたままになります。デバイスが接続範囲内にある場合、 アイコンを上からスワイプして [ロック] 画面から [ホーム] 画面にアクセスできます。

Avaya Vantage™ ワイヤレス Bluetooth ハンドセットを信頼できるデバイスとして選択することはできません。信頼できるデバイスを選択する際は、Avaya Vantage™ デバイスに常時接続されているデバイスを使用しないでください。

Bluetooth 接続範囲

Bluetooth 接続範囲は、デバイスモデル、Bluetooth デバイス、現在の環境などの要因によって異なります。Avaya Vantage™ デバイスの Bluetooth 接続範囲は最大 10 メートルです。

Avaya Smart Lock と Google Smart Lock の比較

- Avaya Smart Lock を使用すると、Avaya Vantage™ デバイスに自動的にログオンまたはログアウトできません。Google Smart Lock ではこの機能はサポートしていません。
- Google Smart Lock では Android スマートフォンを信頼できるデバイスとしてサポートしていません。

Bluetooth デバイスをペアリングする

手順

1. [設定] > [接続デバイス] に進みます。
2. [新しいデバイスのペアリング] をタップします。

Bluetooth が自動的にオンになります。

3. 利用可能なデバイスのリストで、ペアリングするデバイスをタップします。
4. 両方のデバイスで、表示されたパスコードを確認して [ペアリング] をタップします。

Avaya Smart Lock を有効にする

このタスクについて

Avaya Smart Lock が有効になっていると、Avaya Vantage™ デバイスは自動的にロック解除され、アカウント資格情報を入力しなくてもログインできるようになります。これは、信頼できる Bluetooth デバイスが接続圏内にある場合に発生します。

前提条件

- 画面ロックが [設定] メニューで有効になっていることを確認します。
- Bluetooth をオンにしてデバイスをペアリングします。詳しくは、「[Bluetooth デバイスをペアリングする \(55 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

Avaya Smart Lock 機能を有効にするには、次の手順を実行します。

1. [設定] メニューを開きます。
2. [セキュリティとロケーション] > [信頼エージェント] をタップします。
3. [Avaya Smart Lock] をオンにして、[戻る] (←) をタップします。

自動ロック解除オプションを設定し信頼できるデバイスを追加するには、次の手順を実行します。

4. [Avaya Smart Lock] をタップします。
5. Avaya Vantage™ のログインとロック解除に使用するデバイスの画面ロックパターン、PIN、パスワードを確認します。
6. [ロックオプション] をタップして、次のロックオプションのいずれかを選択します。
 - [ロック解除/ロック]: 信頼できるデバイスが範囲内にある場合、Avaya Vantage™ デバイスは自動的にロック解除されます。信頼できるデバイスが範囲外になると、Avaya Vantage™ デバイスは自動的にロックされます。
 - [ログインとロック解除/ログアウト]: 信頼できるデバイスが接続範囲内にある場合、Avaya Vantage™ デバイスのロックが解除され Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスに自動的にログインします。信頼できるデバイスが範囲外になると、Avaya Vantage™ デバイスはロックされ、ビルトイン UC エクスペリエンスから自動的にログアウトします。

デバイスがプラットフォームログインモードの場合、別のユーザーはログアウト後に Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスにログインできます。新しいユーザーがログインすると、以前のユーザーデータはすべて消去されます。
7. [信頼デバイス] をタップします。
8. ペアリングおよび接続されているデバイスリストで、信頼できるデバイスとして選択したデバイスをタップします。

Avaya Vantage™ ワイヤレス Bluetooth ハンドセットを信頼できるデバイスとして選択することはできません。

関連リンク

[画面ロックを有効化する](#) (53 ページ)

[信頼できる Bluetooth デバイスを変更する](#) (57 ページ)

信頼できる Bluetooth デバイスを変更する

このタスクについて

この手順を使用して、Avaya Smart Lock に設定されている信頼できる Bluetooth デバイスを追加、変更、削除します。信頼できるデバイスとして設定できるデバイスは 1 つだけです。

ヘッドセット、時計、Bluetooth 対応 Android スマートフォンなどの Bluetooth デバイスを信頼できるデバイスとして選択できます。ただし、Avaya Vantage™ ワイヤレス Bluetooth ハンドセットを信頼できるデバイスとして選択することはできません。信頼できるデバイスを選択する際は、Avaya Vantage™ デバイスに常時接続されているデバイスを使用しないでください。たとえば、Bluetooth キーボードとマウスを Avaya Vantage™ に常時接続している場合は、これを信頼できるデバイスとして使用しないでください。

手順

1. [設定] メニューを開きます。
2. [セキュリティとロケーション] > [Avaya Smart Lock] をタップします。
3. Avaya Vantage™ のログインとロック解除に使用するデバイスの画面ロックパターン、PIN、パスワードを確認します。
4. [信頼デバイス] をタップします。
5. ペ어링および接続されているデバイスのリストで、次のいずれかを行います。
 - 新しいデバイスを信頼できるデバイスとして選択するには、デバイス名をタップします。
 - 信頼できるデバイスを削除するには、[なし] をタップします。

Smart Lock が有効な場合デバイスを手動でロックする

このタスクについて

Avaya Vantage™ Smart Lock が設定され、信頼できるデバイスが範囲内にある場合は、この手順を使用して、Avaya デバイスを手動でロックします。

信頼できるデバイスが範囲内にある場合は、[ホーム] 画面または通知エリアから [ロック] (🔒) をタップしてもデバイスはロックされません。

手順

[ロック画面] で、[ロック] (🔒) アイコンをタップします。

信頼できる Bluetooth デバイスが接続範囲内にある場合でも、デバイスはロックされたままになります。アカウントのパスワードを使用して手動でロックを解除する必要があります。

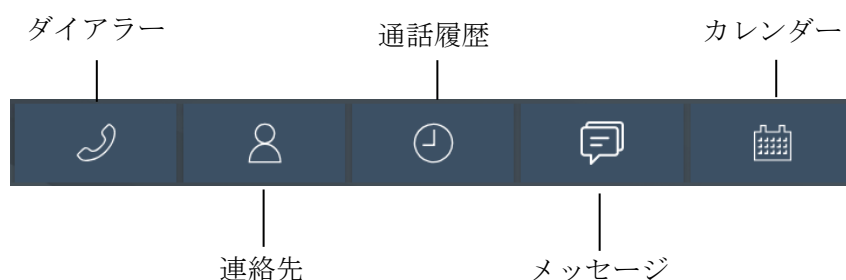
第 6 章: Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスからの移動

この章では、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスと主要なナビゲーション画面に表示される主要なコミュニケーション機能にアクセスする方法を説明します。K175 のビルトイン UC エクスペリエンス画面は K155 の画面とは少し異なります。

[ホーム] ページのビルトイン UC エクスペリエンスナビゲーションアイコン

Avaya Vantage™ ではデバイスの [ホーム] ページにナビゲーションアイコンが表示され、ビルトイン UC エクスペリエンスのテレフォニー機能にすばやくアクセスできます。

K175 デバイス



K155 デバイス



[メッセージ] および [カレンダー] などの一部のナビゲーションアイコン機能は、デバイスの設定によって異なります。

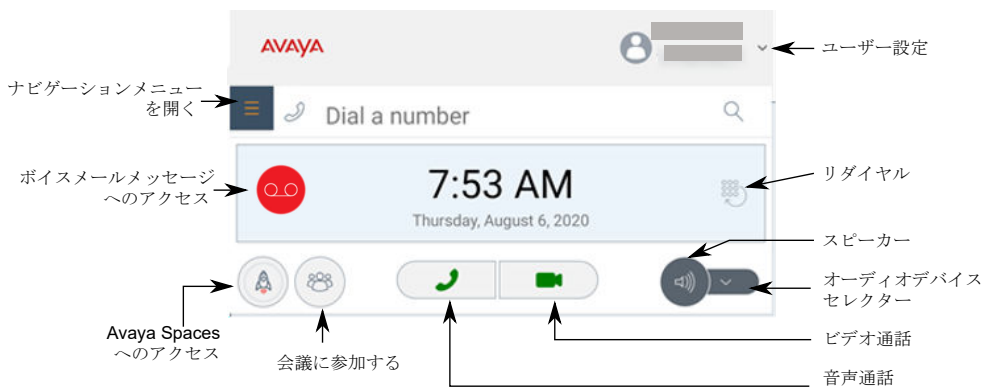
[ダイヤルパッド] 画面

次のセクションでは、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスの [ダイヤルパッド] 画面を示します。

K175 デバイス



K155 デバイス



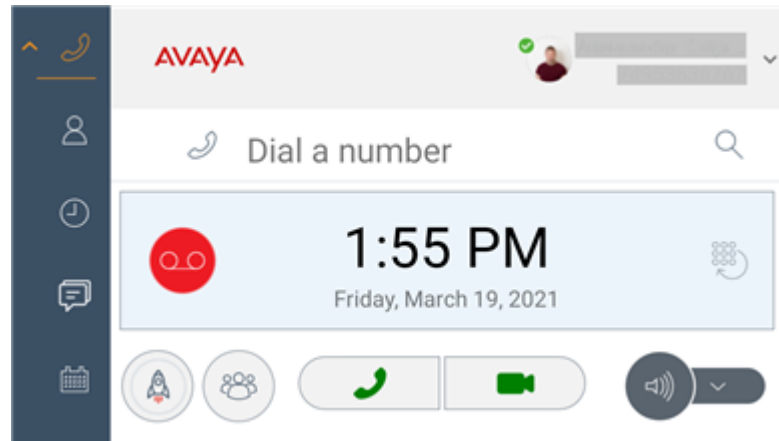


図 1 : ナビゲーションメニューが開いているダイヤルパッド画面

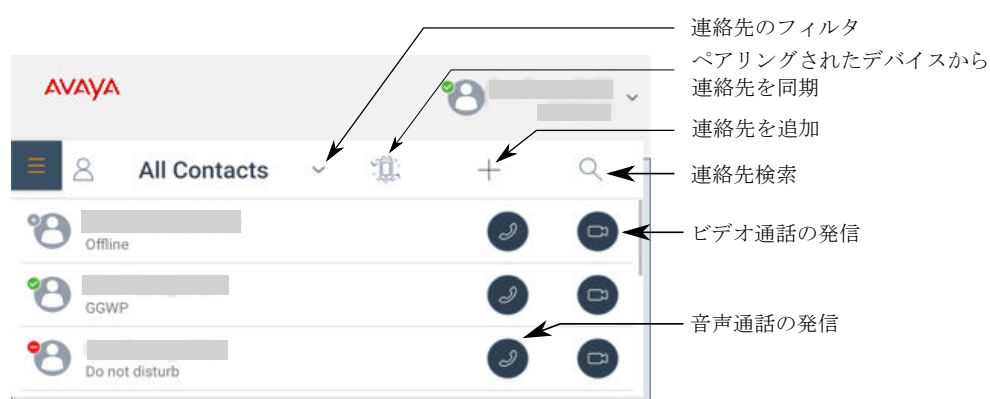
[連絡先] 画面

次のセクションでは、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスの [連絡先] 画面を示します。

K175 デバイス



K155 デバイス



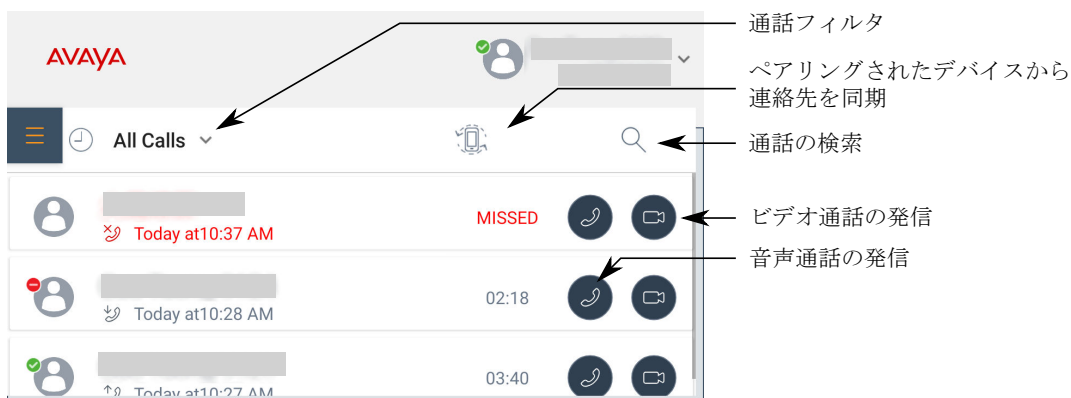
[通話履歴] 画面

次のセクションでは、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスの [通話履歴] 画面を示します。

K175 デバイス



K155 デバイス

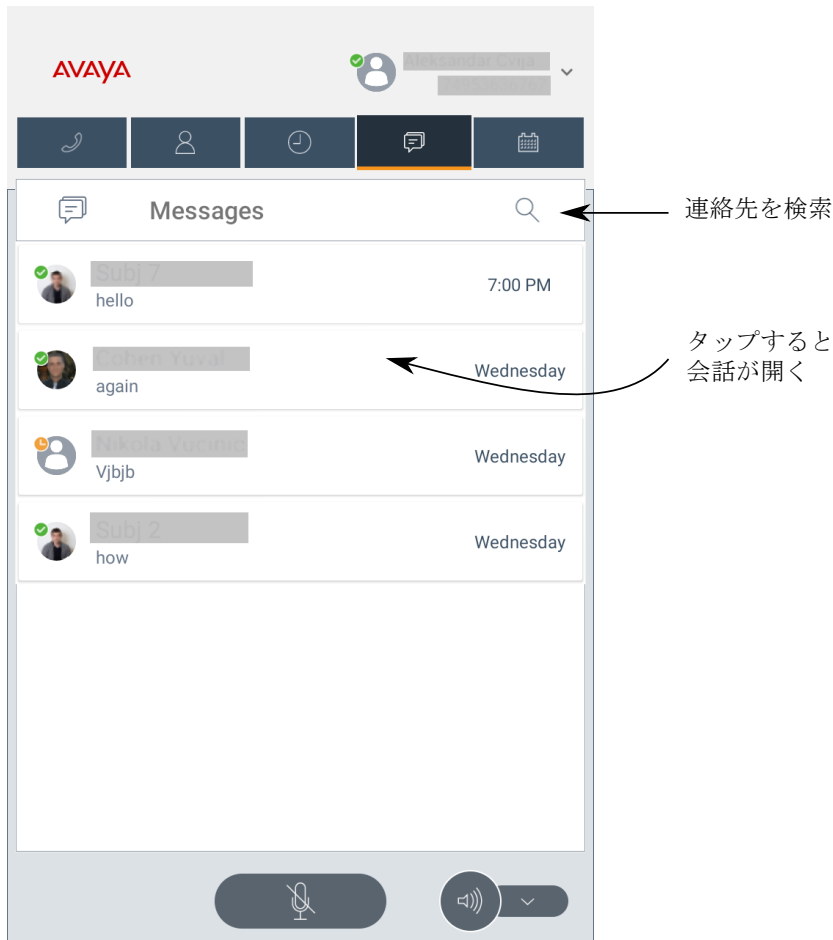


[メッセージ] 画面

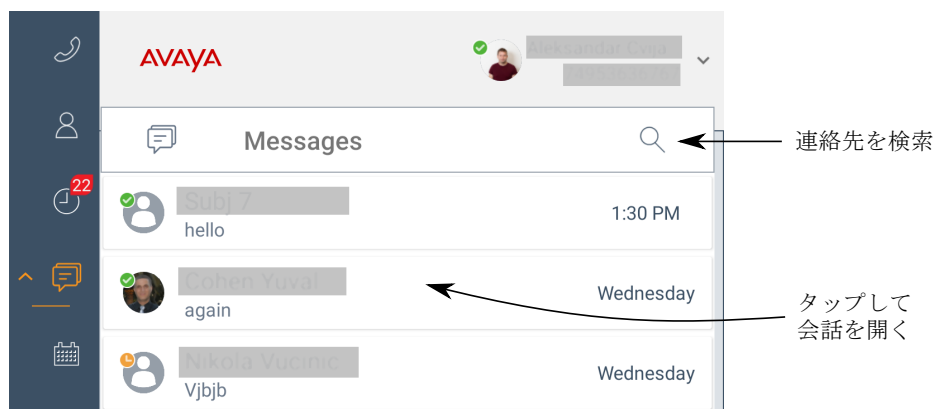
次のセクションでは、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスの [メッセージ] 画面を示します。この画面でインスタントメッセージの会話を表示したり、開くことができます。

[メッセージ] 画面は、管理者が Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでインスタントメッセージ機能を有効にしている場合にのみ使用できます。

K175 デバイス



K155 デバイス



[カレンダー] 画面

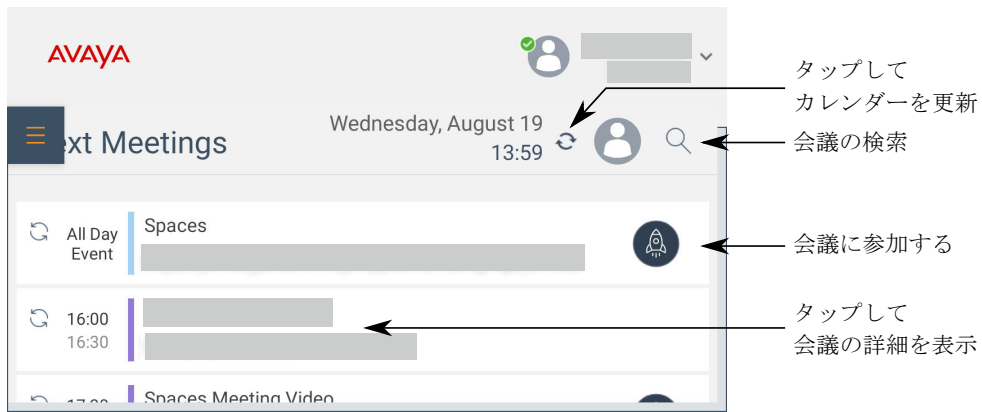
次のセクションでは、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスの [カレンダー] 画面を示します。この画面では、会議を表示し、会議に参加することができます。

[カレンダー] 画面は、管理者が Microsoft Exchange カレンダーと Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスとの相互運用性を有効にしている場合に使用できます。Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンス設定から [Exchange カレンダー] オプションを有効または無効にすることで、[カレンダー] 画面の表示を制御できます。

K175 デバイス



K155 デバイス



第 7 章: 通話管理操作

Avaya Vantage™ で次の主要な通話管理タスクを実行できます。

- 音声通話またはビデオ通話を発信する。
- 音声通話またはビデオ通話に応答する。
- 通話制御操作を実行する。
- 通話履歴と不在着信を表示する。
- 会議を操作する。

管理者がホットダイヤリングを有効にしている場合は、これらの機能のいくつかは利用できません。

Avaya Vantage™ で Avaya Connect Expansion Module アプリケーションを使用している場合に追加の通話機能を利用できます。この章では、Avaya Vantage™ が Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでサポートする標準的な通話操作について説明します。

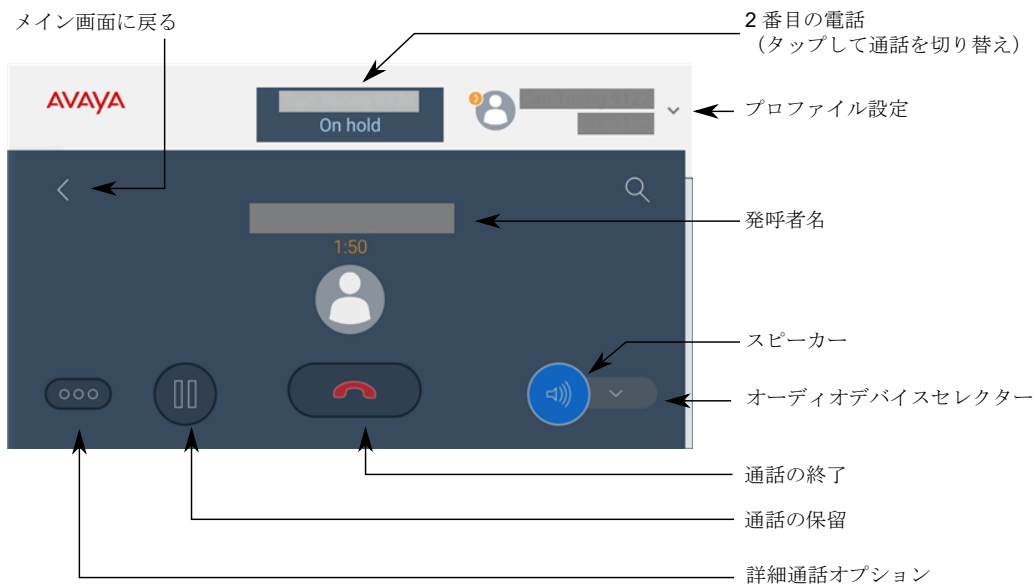
通話画面

次のセクションは、Avaya Vantage™ のアクティブな [通話] 画面を示しています。

K175 デバイス



K155 デバイス



ホットダイヤリング

管理者が Avaya Vantage™ でホットダイヤリングを有効にしている場合、ビルトイン UC エクスペリエンスは、デバイスがオフフック状態になると、設定されたホットライン番号に自動的に発信します。着信通話には応答できませんが、その他の通話管理機能へのアクセスは制限されます。次のことはできません。

- その他の電話番号または内線番号にダイヤルする。
- アプリケーションの設定にアクセスする。
- 「会議に参加」機能にアクセスする。

ホットライン電話機の通話の保留、会議、転送機能にアクセスできます（管理者がこれらの機能を無効にしていない場合）。管理者は、連絡先、お気に入りの連絡先、通話履歴へのアクセスを制限する場合があります。

ロックされたホットライン電話機から緊急通話を発信できます。Avaya Aura® 環境では、デバイスからログアウトしている場合に緊急通話を発信することもできます。


緊急通話


緊急電話番号が設定されている場合 Avaya Vantage™ で緊急通話を行うことができます。管理者は Avaya Vantage™ でロケーション固有の緊急電話番号を設定できます。

Avaya Aura® 環境では、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスからログアウトしている場合や、デバイスがロック状態になっている場合でも、緊急通話を行うことができます。

IP Office または BroadSoft Open SIP 環境では、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスにログインしている場合にのみ緊急通話を行うことができます。ロックされたデバイスから緊急通話を行うことができます。

緊急通話を発信する

- [ログイン] または [ロック画面] 画面から緊急通話を行うには、画面の右下隅にある [緊急通話] をタップし、次のいずれかを行います。
 - 事前設定された最も優先順位の高い緊急電話番号を自動的にダイヤルするには、[自動ダイヤル] をタップします。
 - 事前設定された緊急電話番号のいずれかを手動でダイヤルするには、[手動ダイヤル] をタップし、番号を入力して、 をタップします。



K175 では、画面の番号をタップする必要があります。K155 では、デバイスの物理キーパッドを使用します。
 - Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスの [ダイヤルパッド] 画面から緊急通話を行うには、緊急電話番号を入力して  アイコンをタップします。
- K175 では、画面の番号をタップする必要があります。K155 では、デバイスの物理キーパッドを使用します。

音声通話またはビデオ通話を発信する

ダイヤルパッドを使用して音声通話またはビデオ通話を発信する

手順



1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。
2. 発信する電話番号を入力します。

K175 では、画面の番号をタップする必要があります。K155 では、デバイスの物理キーパッドを使用します。
3. 次のいずれかをタップします。
 -  : 音声通話を発信します。
 -  : ビデオ通話を発信します。
4. (オプション) 音声用にハンドセットを使用するには、ハンドセットをクレイドルから持ち上げます。

電話番号をダイヤルする前にハンドセットを持ち上げると、音声通話またはビデオ通話を選択するオプションが使用できなくなります。番号をダイヤルすると、音声通話が自動的に開始されます。

連絡先を使用して音声通話またはビデオ通話を発信する

手順

1. [連絡先] タブをタップします。
2. 希望の連絡先を選択します。
3. 次のいずれかをタップします。
 -  : 音声通話を発信します。
 -  : ビデオ通話を発信します。

お気に入りリストから音声通話またはビデオ通話を発信する



前提条件

[お気に入り] リストに連絡先があることを確認します。

* 注



IP Office では、IP Office 個人用連絡先を [お気に入り] リストに追加することはできません。

手順

1. [連絡先] タブをタップします。
2. [お気に入り] セクションで、目的の連絡先を検索します。
3. 次のいずれかをタップします。
 -  : 音声通話を発信します。
 -  : ビデオ通話を発信します。

通話履歴を使用して音声通話またはビデオ通話を発信する

手順

1. [通話履歴] タブをタップします。
2. 必要な連絡先または電話番号を選択します。
3. 次のいずれかをタップします。
 -  : 音声通話を発信します。
 -  : ビデオ通話を発信します。

オフフックダイヤリングを使用して電話をかける

このタスクについて



Avaya Vantage™ デバイスがオフフック状態になると、番号をダイヤルしている間、通話を受信しません。


* 注

ホットダイヤリング機能がアクティブになっている場合、Avaya Vantage™ は、デバイスがオフフック状態になると、設定されたホットライン番号に自動的に発信します。その他の番号をダイヤルすることはできません。

手順

1. オフフック状態にするには、次のいずれかを実行します。

- ハンドセットを持ち上げます。
- Avaya Vantage™ の [ダイヤルパッド] 画面で、 をタップします。
- K155 で、 ボタンを押します。

ヘッドセットがデバイスに接続されている場合は、 ボタンを押してオフフック状態にすることができます。

2. 電話番号を入力します。

K155 では、デバイスの物理キーパッドを使用して番号を入力します。

ホットダイヤリングが有効になっている場合、番号を入力することはできません。

2 番目の通話を発信する


このタスクについて

この手順を使用して、通話中に 2 番目の通話を発信します。同時に複数の通話に対応できません。一方の通話をアクティブにすると、他方が保留されます。

* 注

複数回線のサポートを IP Office で有効にするには、ユーザーアカウントの通話待機機能を有効にする必要があります。それ以外の場合は接続は 1 回線として扱われます。

手順

1. 通話中に、 をタップします。
2. [通話機能] ウィンドウで、[新しい通話] をタップします。



Avaya Vantage™ では、最初の通話を保留すると、[ダイヤルパッド] 画面が表示されません。

3. 以下のいずれかを行います。
 - 発信する電話番号を入力します。

K175 では、画面の番号をタップする必要があります。K155 では、デバイスの物理キーパッドを使用します。

- [連絡先] タブで、目的の連絡先を選択します。
- [通話履歴] タブで、目的の連絡先または電話番号を選択します。

4. 次のいずれかをタップします。

-  : 音声通話を発信します。
-  : ビデオ通話を発信します。


接続が確立すると、2 番目の通話がアクティブな通話になります。最初の通話は、通話を切り替えるまで保留されたままになります。

番号をリダイヤルする

このタスクについて



この手順を使用して、最後にダイヤルした番号をリダイヤルします。

手順

1. [ダイヤルパッド] 画面で、 をタップします。

Avaya Vantage™ には、画面に最後にダイヤルした番号が表示されます。

2. 次のいずれかをタップします。

-  : 音声通話を発信します。
-  : ビデオ通話を発信します。



 または  をダブルタップしてダイヤルすることもできます。

通話を管理する

着信通話に応答する/着信通話を拒否する

このタスクについて

着信通話に応答するか、着信通話を拒否するには、この手順を使用します。通話を拒否する代わりに通話を無視するか、無音にする場合は、[「応答不可モードを有効にして通話を無視する」](#) (73 ページ) を参照してください。




K155 では、通話に応答した後に、デバイスの  と  のボタンを使用して、ヘッドセットとスピーカーフォンを切り替えることができます。

ハンドセットを使用して着信ビデオ通話に応答した場合、通話は音声専用通話として処理されます。この音声専用通話は後でビデオ通話にエスカレーションできます。

アクティブなコール中でも、2 番目の着信通話を受信して応答することができます。アクティブな通話時にスピーカーフォンを使用していて、着信音が鳴ったときにハンドセットに切り替

えた場合、Avaya Vantage™ は、元の通話の音声パスをスピーカーフォンからハンドセットに切り替えません。代わりに、着信通話に応答します。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでの通話中に、Avaya Spaces の着信通話に応答すると、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでの通話は保留されます。逆に、Avaya Spaces での通話中に、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで通話に応答すると、その Avaya Spaces 通話は切断されます。

- 音声通話に応答するには、次のいずれかを行います。
 - 画面の  をタップします。
 - 有線またはワイヤレスのハンドセットを使用する際は、ハンドセットをクレイドルから持ち上げてください。
- ビデオ通話に応答するには、 をタップします。
- 通話を拒否するには、 をタップします。


関連リンク

[応答不可モードを有効にして通話を無視する](#) (73 ページ)



[Avaya Spaces デジタル通話](#) (135 ページ)

応答不可モードを有効にして通話を無視する

このタスクについて

話中のときに着信通話を受信した場合は、 を押して通話を拒否するか、通話を無視することができます。デバイスのステータスを応答不可 (DND) モードに変更して着信通話を無視するには、この手順を使用します。これを行うと、通話がミュートされます。

手順

1. 着信通話を受信したら、下方向にスワイプして通知エリアを開き、[応答不可] () をタップします。
DND が有効になると、デバイスでアラーム以外のすべての割り込みがミュートされます。
2. (オプション) DND をオフにするには、通知エリアを開き  をタップします。

すべての通話をボイスメールに転送する

このタスクについて

この手順を使用して、管理者が事前に定義した番号にすべての着信通話をルーティングします。この番号は通常、会社用ボイスメール番号になります。

管理者がお使いの内線番号に離席機能を設定している必要があります。

手順

1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。
2. [内線番号] > [ユーザー設定] をタップします。

3. [アプリケーション] をタップします。
4. [通話機能] で、[離席] を有効にします。

プレゼンスステータスが応答不可の場合にすべての通話をボイスメールに転送する

このタスクについて

Avaya Vantage™ ビルトインユニファイドコミュニケーションエクスペリエンスでプレゼンスステータスが応答不可（DND）のときにすべての着信通話をボイスメールに送信するように有効化できます。

管理者がお使いの内線番号に離席機能を設定している必要があります。

手順

1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。
2. [内線番号] > [ユーザー設定] をタップします。
3. [アプリケーション] をタップします。
4. プレゼンス設定で、[応答不可に設定した場合、離席を有効化] を有効にします。

無条件転送

このタスクについて

着信通話を選択した別の内線番号に転送するには、この手順を使用します。

手順

1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。
2. [内線番号] > [ユーザー設定] をタップします。
3. [アプリケーション] をタップします。
4. [通話機能] で、[不在転送] を有効にします。
5. 着信通話の転送先の内線番号を入力します。
6. [OK] をタップします。

内線番号と別の番号の同時呼び出しをアクティブにする

このタスクについて

この手順を使用して、内線番号と内線への着信通話用に設定された別の電話番号の同時呼び出しを有効にします。

管理者がお使いの内線番号に携帯内線またはツイニング機能を設定している必要があります。管理者は、内線番号と同時に鳴る電話番号（通常は携帯電話番号）を設定します。


手順

1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。
2. [内線番号] > [ユーザー設定] をタップします。
3. [アプリケーション] をタップします。
4. [通話機能] で、[携帯内線] を有効にします。

通話中に番号を入力する

このタスクについて

通話中に DTMF 番号を入力するにはこの手順を使用します。たとえば、ボイスメールを確認する場合、番号の入力を確認するメッセージが表示されます。





- K175 で、次の操作を行います。
 1. 通話がアクティブのときに  をタップします。
アプリケーションに、ダイヤルパッドが表示されます。
 2. 必要な番号を入力します。
- K155 では、デバイスの物理キーパッドを使用して必要な番号を入力します。
このアプリケーションでは入力した番号は画面に表示されません。

通話をミュート/ミュート解除する

このタスクについて

通話中にマイクをミュート/ミュート解除する場合はこの手順を使用します。ミュートすると、相手にあなたの声が聞こえなくなります。



通話中に別のオーディオデバイスに切り替えると、ミュートされた通話は自動的にミュート解除されます。ただし、ミュートされた通話中も、ミュート解除しないで通話の保留や通話の再開などの通話操作を実行できます。

- 通話中に自分自身をミュートするには以下を行います。
 - K175 で、画面の  をタップします。
 - K155 では、デバイスキーパッドの  ボタンを押します。
- 自分自身をミュート解除するには以下を行います。
 - K175 で、 をタップします。
 - K155 では、デバイスの  ボタンをもう一度押します。
- (オプション) ワイヤレスハンドセットで、[ミュート] ボタンを押して自分自身をミュートまたはミュート解除します。

ワイヤレスハンドセットで通話をミュートしている場合、アプリケーション UI には通話がミュートされていることが表示されません。

ワイヤレスハンドセットのミュートを解除しないで通話を切ると、そのハンドセットはミュート状態のままになります。

通話を保留にする/通話を再開する

- 通話を保留するには、 をタップします。
- 通話を再開するには、 をタップします。

通話間を切り替える


このタスクについて

一方が通話中で、他方の通話が保留になっている場合、この手順を使用して、2つの通話を切り替えます。

* 注

複数回線のサポートを IP Office で有効にするには、ユーザーアカウントの通話待機機能を有効にする必要があります。それ以外の場合は接続は 1 回線として扱われます。

手順



1. [通話] 画面の上部で、保留中の通話のラベルをタップします。
非アクティブな通話または保留中の通話の情報が [通話] 画面に表示されます。
2.  をタップします。
非アクティブな通話がアクティブになり、他方の通話が保留されます。

通話を転送する

このタスクについて

この手順を使用すると、別の番号に通話を転送できます。この手順に記載されているダイレクト転送は、ブラインドつまり不応答転送です。ブラインド転送を実行すると、転送について相手に通知したり、転送手順が開始された後に元の通話に戻したりすることはできません。

手順

1. アクティブな通話中に  をタップします。
2.  をタップします。
3. 以下のいずれかを行います。
 - [番号を入力] をタップし電話番号を入力します。
 - [連絡先を選択] をタップし、[連絡先] または [通話履歴] のリストから使用する連絡先を選択します。
4. [転送] をタップします。

着信音を変更する

このタスクについて

この手順を使用して、Avaya Vantage™ UC サービスで着信通話のデフォルトの着信音を変更します。ビルトインの着信音と管理者がダウンロードした着信音のリストから選択できます。

着信音は、テレフォニーアプリケーションで変更できますが、Avaya Vantage™ デバイスでは変更できません。

手順


1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。
2. [内線番号] > [ユーザー設定] をタップします。
3. [オーディオ/ビデオ] をタップします。
4. [着信音設定] で、[着信音を選択] をタップします。
5. 新しい着信音を選択し、[OK] をタップします。

オーディオデバイスを選択する


このタスクについて

この手順を使用して、通話で使用するオーディオデバイスを選択します。

デフォルトでは、Avaya Vantage™ はスピーカーを使用して音声を送信します。デバイスにヘッドセットがある、またはハンドセットを接続している場合は、通話中に使用するオーディオデバイスを選択できます。

- [ダイヤルパッド] または [通話] 画面からオーディオデバイスを選択するには、 をタップして、オーディオデバイスのリストから選択します。
- 通話の際にアクティブなオーディオデバイスとしてハンドセットを選択するには、クレイドルからハンドセットを持ち上げます。

Avaya Vantage™ がハンドセットに音声を自動的に転送します。

- 通話中に、音声をハンドセットからデバイスのスピーカーに転送するには、以下を行います。
 1.  をタップし、[スピーカー] をタップします。

Avaya Vantage™ はオーディオをスピーカーに転送します。
 2. ハンドセットをクレイドルに置きます。




ビデオ機能の使用法

このタスクについて

通話中にビデオを開始、停止、一時停止、再開するには、この手順を使用します。ビデオを一時停止すると、アプリケーションは通話相手へのビデオ送信を停止しますが、通話相手からのビデオは引き続き受信でき、音声は通話相手に引き続き送信されます。

ビデオ通話時に別のアプリケーションに切り替えると、ビデオは停止します。ビデオを再開するには、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスに再度切り替えます。

通話相手がビデオ通話を開始したり、既存の通話にビデオを追加したりすると、Avaya Vantage™ はプライバシーの理由から常に送信ビデオを一時停止します。ビデオを相手に伝送するには、ビデオを手動で有効化する必要があります。同様に、音声通話をビデオ通話にエスカレートすると、通話相手がビデオを有効にするか、ミュート解除するまで、通話相手のビデオは表示できません。

- 通話中にビデオを開始または停止するには、 をタップしてから [ビデオの開始] または [ビデオの停止] をタップします。
- K175 でビデオを停止またはミュートするには以下を行います。
 1.  をタップします。
アイコンが青色になります。
 2. (オプション) ビデオを再開するには、もう一度アイコンをタップします。
- K155 でビデオを停止またはミュートするには以下を行います。
 1.  を押します。
ボタンの青の LED 照明が点灯します。
 2. (オプション) ビデオを再開するには、ボタンをもう一度押します。

通話中に外部モニターにビデオやプレゼンテーションを送信する


このタスクについて

HDMI 接続を通じて、通話中に Avaya Vantage™ デバイスからビデオやプレゼンテーションを外部画面に送信できます。

前提条件

通話中であることを確認します。

手順

1. Avaya Vantage™ マイクロ HDMI ポートを使用して Avaya Vantage™ デバイスを外部画面に接続します。
2. アクティブな [通話] 画面で、 をタップします。
3. 次のいずれかを実行します。
 - [外部モニターへのビデオの送信] をタップ：外部画面にすべての通話参加者のビデオが表示されます。
 - [外部モニターへのプレゼンテーションの送信] をタップ：外部画面にプレゼンテーションが表示され、Avaya Vantage™ 画面にすべての通話参加者のビデオが表示されます。
 - [外部モニターへのビデオの送信] と [外部モニターへのプレゼンテーションの送信] をタップ：外部画面が半分に分割されます。画面の半分にプレゼンテーションが表示され、もう半分にすべての通話参加者のビデオが表示されます。

通話を管理するには、Avaya Vantage™ 画面のボタンを使用します。

Avaya Vantage™ のブリッジ回線アピアランス

Avaya Aura® 環境では、Avaya Vantage™ のブリッジ回線アピアランス (BLA) 通話機能を Avaya Connect Expansion Module アプリケーションから直接、またはこれを介して使用できます。このセクションでは、Avaya Vantage™ で直接 BLA を使用する方法について説明します。

BLA は、複数のユーザーで共有される一意のプライマリ内線番号です。ブリッジ回線アピアランスを使用することで、プライマリ内線番号の所有者の代わりに通話の発信、受信、参加を行うことができます。

BLA の一般的な用途は、上司と秘書のシナリオです。このシナリオでは、プライマリ番号は上司に属します。管理者は、秘書の内線番号にプライマリ番号のコールアピアランスを設定しません。誰かが上司に発信すると、上司または秘書のいずれかがその通話に応答できます。秘書が最初に通話に応答した場合、上司はその通話にブリッジできます。秘書の内線番号に着信した場合、上司はその通話を認識できず、その通話にブリッジすることもできません。

Avaya Vantage™ では、BLA 内線番号を使用して上司の代わりに発信することはできません。BLA 内線番号を使用して発信するには、Avaya Connect Expansion Module アプリケーションと Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスに接続する必要があります。


ブリッジ回線で通話に応答する

このタスクについて

ブリッジ回線で通話を受信すると、ブリッジ回線の所有者の内線と秘書の内線の両方で着信音が鳴ります。着信音は、通話がどちらの内線番号宛かを示します。

手順

通話に応答するには、次のいずれかを行います。

-  をタップします。
- ハンドセットを持ち上げます。

ブリッジ回線の通話に参加する

このタスクについて

上司または秘書はブリッジ回線の継続中の通話に参加できます。

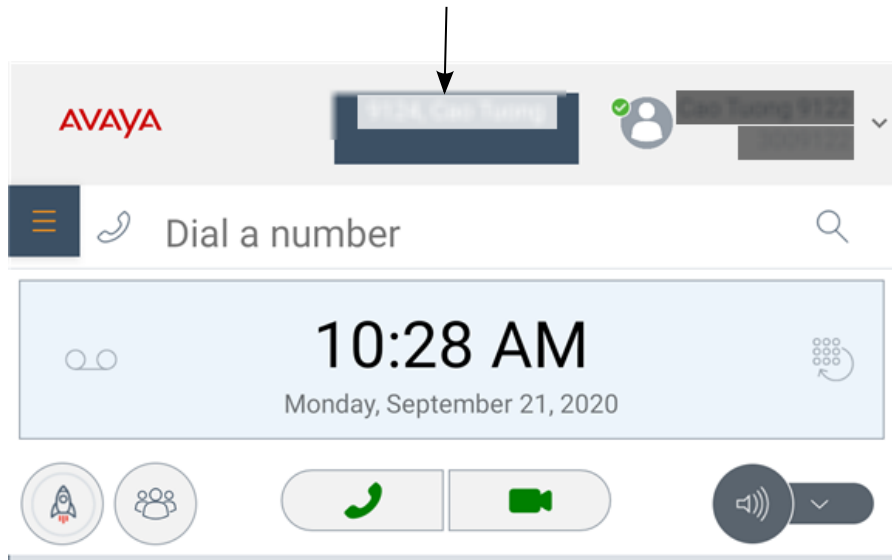
たとえば、秘書が上司に代わって通話を発信したり応答したりする場合、上司のデバイスの Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスに、ブリッジ回線への進行中の通話があることが示されます。その後上司は、アクティブなブリッジ通話インジケータをタップして、通話に参加できます。

手順

1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。

2. 次の画像に示すように、ユーザープロファイルアイコンの横にあるアクティブなブリッジ通話インジケータをタップします。

ブリッジ回線の詳細が表示された
アクティブなブリッジ通話インジケータ



Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスによって通話にブリッジされ、通話が会議通話に変換されます。

ボイスメールメッセージを聞く


このタスクについて

ボイスメールメッセージにアクセスするには、この手順を使用します。まだ再生していないボイスメールメッセージがある場合、デバイスでメッセージ待機インジケータが点灯します。

前提条件

ボイスメールのアクセス番号が必要です。


手順

1. [ダイヤルパッド] 画面で、 をタップします。
2. プロンプトが表示されたら、ボイスメールのアクセス番号を入力してボイスメールメッセージを再生します。

通話履歴を表示する

手順

1. [通話履歴] タブをタップします。

2. 次のオプションを使用して通話履歴をフィルター処理します。
 - [すべての通話]
 - [不在着信]
 - [発信通話]
 - [着信]
3. (オプション) 同期されたデバイスの通話履歴を表示するには、連絡先リストの右上にある  をタップします。

Avaya Vantage™ の [通話履歴] タブには、次の場合に、同期したモバイルデバイスの通話履歴が表示されます。

 - 通話履歴の共有が有効になっている。
 - ペ어링されたモバイルデバイスが Avaya Vantage™ に接続されている。

関連リンク

[連絡先と通話履歴を Bluetooth 経由で同期する](#) (94 ページ)

すべての通話情報を削除する

手順




1. [通話履歴] タブをタップします。
2. 通話履歴フィルターのドロップダウンリストをタップして、[すべての履歴を削除する] をタップします。
3. [削除] ダイアログボックスで、[削除] をタップします。

通話を終了する

このタスクについて

この手順を使用してアクティブなコールを終了します。

通話中に別の通話を受信した場合は、2 番目の通話に応答するか拒否するまで、最初の通話を終了できません。

- 画面の  アイコンをタップします。
- スピーカーフォンを使用している場合は、 をタップします。
- ハンドセットを使用している場合は、次のいずれかを行います。
 - クレイドルにハンドセットを置いて電話を切ります。
 -  をタップします。

第 8 章: 電話会議を操作する

アクティブな通話に別のユーザーを追加して会議通話を開始する


このタスクについて

Avaya Aura® デプロイメントでは、アクティブな通話に別のユーザーを追加して 3 方向の音声またはビデオ会議通話を開始できます。

❗ 重要

この手順は IP Office または BroadSoft デプロイメントには適用されません。IP Office または BroadSoft デプロイメントでは、通話を結合した会議通話のみ作成できます。ビデオ会議はサポートしていません。

手順

1. アクティブな通話中に  をタップします。
2. [通話機能] ウィンドウで、[参加者の追加] をタップします。
3. 以下のいずれかを行います。
 - [番号を入力] をタップし電話番号を入力します。
 - [連絡先を選択] をタップし、[連絡先] または [通話履歴] のリストから使用する連絡先を選択します。
4. [参加者の追加] をタップします。

選択した参加者に通話を発信します。参加者が応答すると、会議が開始されます。

通話を結合して会議通話を作成する

このタスクについて

2 つの進行中の通話を結合して 3 方向会議通話を作成できます。



* 注

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで通常の音声通話またはビデオ通話と進行中の Avaya Equinox® Conferencing 会議通話を結合することはできません。

前提条件

2 つの進行中の通話が必要です。

手順

1. [通話] 画面で  をタップします。
2.  をタップして、両方の通話を 1 つの会議通話に結合します。

Avaya Vantage™ ビルトインユニファイドコミュニケーションエクスペリエンス経由の Avaya Equinox® Conferencing

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから、Avaya Equinox® Conferencing 会議にオーバーザトップ (OTT) ゲストユーザーとして参加できます。ユーザーが Avaya Equinox® Conferencing 会議に参加すると、Avaya Vantage™ は会議とコラボレーションをサポートする仮想会議室を開きます。会議室には次の機能があります。

- 参加者のビデオ画像を表示する。
- 別の参加者が画面を共有している場合にプレゼンテーションを表示する。

注

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスの会議室には、共有ホワイトボードは表示されません。

- アクティブなスピーカーを表示する。
- 会議の参加者の数を表示する。
- ユーザーが参加者のリストを閲覧できるようにする。

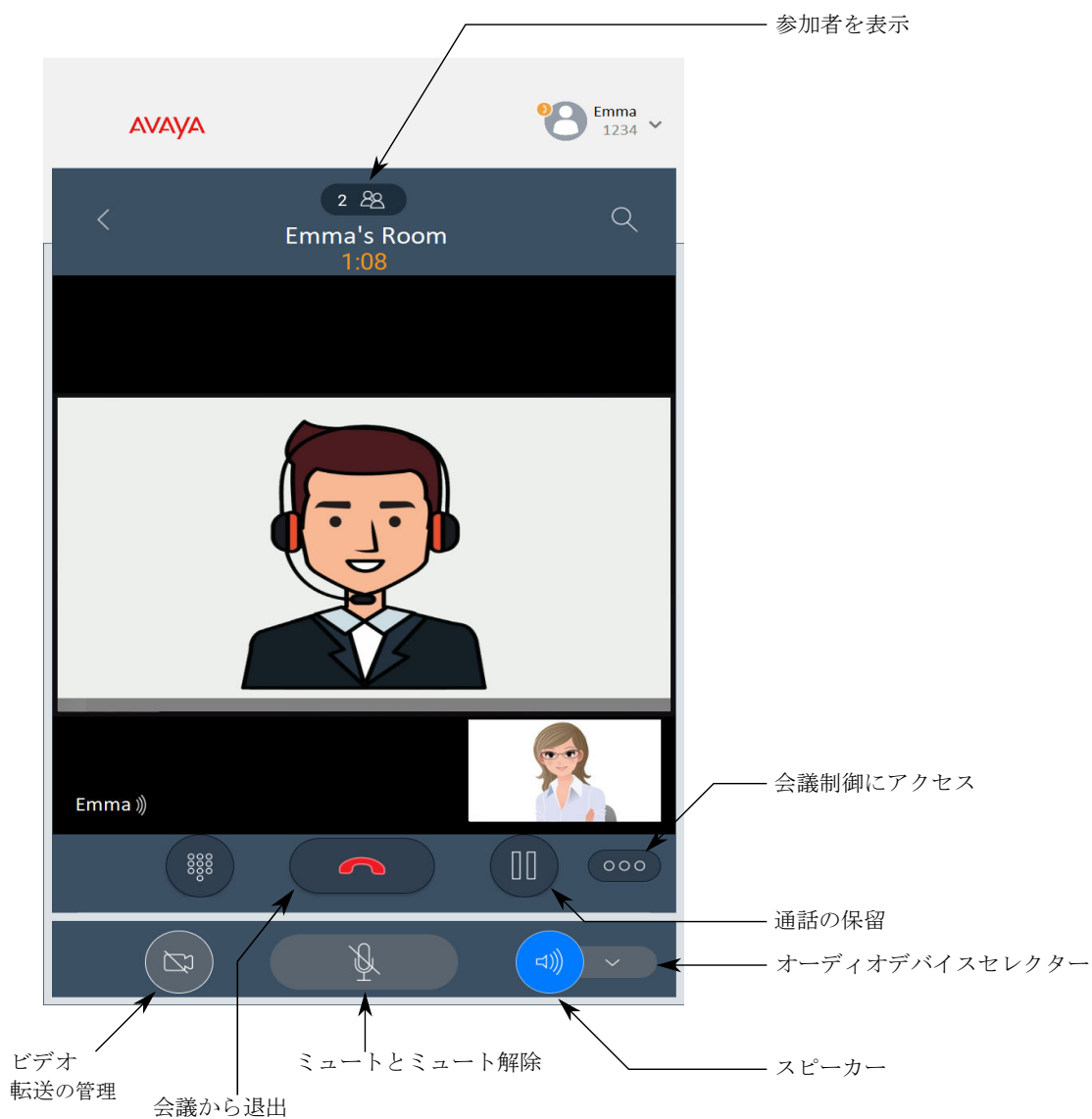
会議通話では次の通話制御機能を実行できます。

- 音声のミュート/ミュート解除。
- ビデオのブロック/ブロック解除。
- 通話を保留にします。
- 異なる音声デバイスを選択する。
- 新しい通話を発信する。
- ビデオとプレゼンテーションを外部画面に送信します。

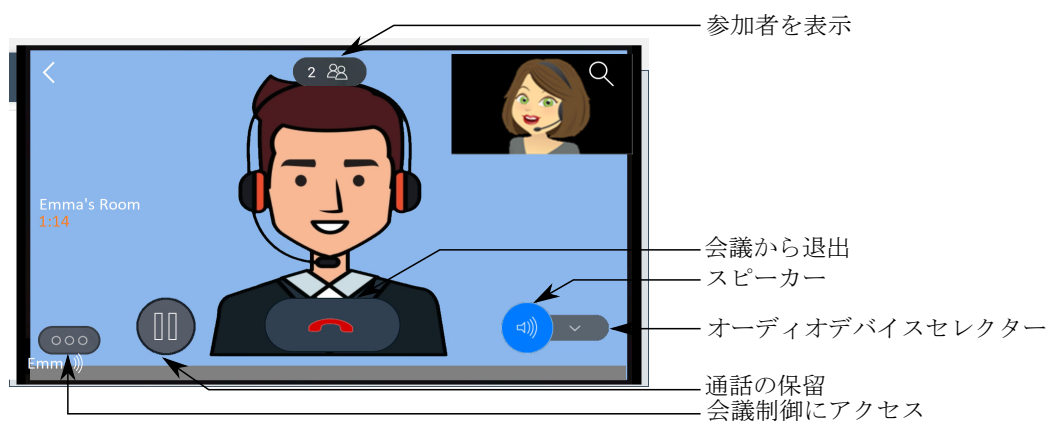
画面共有機能は利用できません。画面を共有して Avaya Vantage™ に表示することはできません。

次のセクションでは、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスの Avaya Equinox® Conferencing 会議画面を示します。

K175 デバイス



K155 デバイス



関連リンク

[通話中に外部モニターにビデオやプレゼンテーションを送信する](#) (78 ページ)

Avaya Equinox® Conferencing 会議に参加する

このタスクについて


Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで、Avaya Equinox® Conferencing または Avaya Equinox® Meetings Online 会議 URL を使用して会議に参加できます。

前提条件

次の情報があることを確認します。

- 会議の URL
- 会議 ID

手順

1. [ダイヤルパッド] 画面で、 をタップします。
2. [会議に参加する] 画面で、次の情報を入力します。
 - a. [ユーザー名] : 会議中に通話相手に表示される表示名前。
 - b. [会議アドレス] : 会議アドレスの URL。

会議の完全な URL をテナント ID とともに表示することも、短い URL をテナント ID なしで表示することもできます。次のいずれかの URL フォーマットを使用できます。

- テナント ID なし : `https://<FQDN>[:port]/portal/`

例 : `https://meetings.avaya.com/portal/`

- 会議 ID : `https://<FQDN>[:port]/portal/tenants/<テナント ID>/?ID=<会議 ID>`

例 : `https://meetings.avaya.com/portal/tenants/1023/?ID=90313012345678`

- 会議 ID なし : `https://<FQDN>[:port]/portal/tenants/<テナント ID>/`

例 : `https://meetings.avaya.com/portal/tenants/1023/`

- c. [会議 ID] : 仮想会議室の会議 ID。


会議 URL に会議 ID が含まれる場合、このフィールドは自動的に入力されます。そうでない場合は、手動で ID を入力する必要があります。

3. [参加] をタップします。

Avaya Vantage™ で仮想会議室が開きます。

会議の参加者を表示する

手順

1. 仮想会議室で、 をタップします。
[参加者] ウィンドウに参加者のリストが表示されます。
2. (オプション) [参加者] ウィンドウを閉じて会議室に戻るには、[非表示] をタップします。

カレンダーの会議通知アラート

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで Microsoft Exchange カレンダーにログインしている場合は、カレンダーの会議の開始予定の 1 分前に通知アラートを受け取ります。通知アラートをタップすると、会議の詳細が表示され、会議にすばやく参加できます。

関連リンク

[カレンダーサービスにログインする](#) (53 ページ)



[Avaya Vantage ビルトイン UC エクスペリエンスから Avaya Spaces 会議に参加する](#) (131 ページ)



[カレンダー] 画面から会議に参加する

このタスクについて

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスを使用して、カレンダーで会議をタップして参加できます。会議の詳細には、少なくとも 1 つのダイヤルイン電話番号または会議 ID で完結する会議 URL が含まれている必要があります。



手順

1. [カレンダー] タブをタップします。
2. 参加する会議の横にある  または  をタップします。

ビデオで会議に参加するオプションを無効にしている場合は、会議の横に  アイコンではなく、 アイコンが表示されます。

会議の音声とビデオの設定を変更する

このタスクについて

会議にビデオ通話で参加するか、音声通話で参加するかを変更できます。デフォルトでは、ビデオ通話が有効になっています。選択した設定に基づいて、Avaya Vantage™ の [カレンダー] 画面で会議の横に  または  アイコンと会議の詳細が表示されます。

また、会議への参加中に、マイクとカメラを有効にしておくかどうかを設定できます。

手順

1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。
2. [内線番号] > [ユーザー設定] をタップします。
3. [オーディオ/ビデオ] をタップします。
4. ビデオ通話で会議に参加するには、[ビデオで会議に参加する] を有効にします。
5. 会議への参加時にマイクをミュートにするには、[会議参加時に自分のマイクをミュートする] を有効にします。
6. 会議への参加時にカメラをブロックするには、[会議参加時に自分のカメラをブロックする] を有効にします。

第 9 章: 連絡先の管理操作

Avaya Vantage™ ビルトインユニファイドコミュニケーションエクスペリエンスのコンタクトタイプ

Avaya Vantage™ ビルトインユニファイドコミュニケーション (UC) エクスペリエンスの [連絡先] タブを通じて、次の連絡先にアクセスできます。

- 管理者の設定に従って、さまざまなサーバーに保存されているエンタープライズ連絡先。エンタープライズ連絡先は、使用する通信システムの種類に応じて以下を使用できます。
 - Avaya Aura® 環境での、PPM または Avaya Aura® Device Services の連絡先。
 - IP Office 環境での、集中管理された IP Office ディレクトリの連絡先。
 - BroadSoft Open SIP 環境では、BroadSoft ディレクトリの連絡先。この連絡先にアクセスするには、管理者が BroadSoft ディレクトリ機能を有効にする必要があります。
- デバイスに保存されているローカルの連絡先または Android システムで定義されているデフォルトの連絡先アカウント。デフォルトアカウントが設定されていない場合、連絡先はデバイスに保存されます。

* 注

☰ をタップしてから、[設定] > [新しい連絡先のデフォルトアカウント] をタップすると、Android 連絡先エリアからデフォルトの連絡先アカウントを表示、変更できます。

Avaya Vantage™ では、別のユーザーがデバイスにログインすると、ローカルの連絡先データが削除されます。ローカルの連絡先データを保存するには、データバックアップを有効にし、[設定] > [システム] > [バックアップ] でバックアップアカウントを指定する必要があります。

Avaya Vantage™ では、連絡先をデバイスにローカルの連絡先として保存するか、企業、IP Office、BroadSoft の個人ディレクトリで個人用連絡先として保存できます。会社、IP Office、または BroadSoft の個人ディレクトリに追加された個人用連絡先を変更、または削除することもできます。個人用連絡先に変更があった場合は Avaya Vantage™ とディレクトリサーバー間で自動的に同期されます。

会社のシステムディレクトリの連絡先の変更や削除はできませんが、個人用連絡先として、システム連絡先を保存できます。

Avaya Aura® Device Services で連絡先の写真が有効になっている場合、写真は Avaya Vantage™ の連絡先リストに表示されます。

異なる環境での連絡先へのアクセス

次の表は、異なる通信システムと相互運用している場合の Avaya Vantage™ での連絡先管理について示しています。

Avaya Aura® の連絡先 (PPM または Avaya Aura® Device Services)	IP Office ディレクトリの連絡先	BroadSoft ディレクトリの連絡先
ビルトイン UC エクスペリエンスの連絡先検索からアクセス可能：はい 個人用エンタープライズ連絡先を追加、編集、削除できます。	ビルトイン UC エクスペリエンスの連絡先検索からアクセス可能：はい 個人ディレクトリに連絡先を追加、編集、削除できます。	ビルトイン UC エクスペリエンスの連絡先検索からアクセス可能：はい 個人ディレクトリに連絡先を追加、編集、削除できます。
Android 連絡先の標準エリアからアクセス可能：いいえ	Android 連絡先の標準エリアからアクセス可能：いいえ	Android 連絡先の標準エリアからアクセス可能：いいえ

連絡先を追加する

このタスクについて

この手順を使用して Avaya Vantage™ に新しい連絡先を追加します。ローカルデバイス用連絡先または企業ディレクトリの個人用連絡先として新しい連絡先を保存できます。

Avaya Aura® 環境では、連絡先は PPM または Avaya Aura® Device Services で個人用連絡先として保存できます。IP Office 環境では、個人用連絡先は IP Office の個人ディレクトリに保存されます。BroadSoft 通信環境では、個人用連絡先は BroadSoft の個人ディレクトリに保存されます。

❗ 重要

Avaya Vantage™ では、別のユーザーがデバイスにログインすると、デバイスの連絡先が削除されます。デバイスの連絡先データを保存するには、ローカルデータバックアップを有効にし、[設定] > [システム] > [バックアップ] でバックアップアカウントを指定します。

手順

1. [連絡先] タブをタップします。
2. + をタップします。
3. 次のいずれかを選択します。
 - [ローカルの連絡先]：連絡先をデバイスにローカルに保存します。
 - [エンタープライズ連絡先]：Avaya Aura® の企業ディレクトリまたは Broadsoft の個人ディレクトリに連絡先を追加します。
 - [個人用連絡先]：連絡先を IP Office 個人ディレクトリに追加します。

デバイスがインストールされている環境に応じて、[エンタープライズ連絡先] または [個人用連絡先] オプションを使用できます。

4. [名] および [姓] フィールドに、新しい連絡先の名前を入力します。

K155 デバイスでは、スクリーンキーボードを使用して、文字やその他の特殊記号を入力します。数字の入力には、スクリーンキーボードまたは K155 の付属キーパッドを使用できます。

5. 次の手順を実行して、連絡先の電話番号を追加します。
 - a. [電話番号を追加] をタップします。
 - b. ドロップダウンリストから、適切な電話のカテゴリを選択します。
 - c. [電話] フィールドに、電話番号を入力します。

各連絡先に少なくとも 1 つの電話番号を入力する必要があります。

6. (オプション) 手順 5 を繰り返して、連絡先の電話番号を追加します。
7. (オプション) 肩書き、会社名、住所など、連絡先に関するその他の情報を追加します。

*** 注**

ローカルデバイス用連絡先を標準連絡先エリアに追加した場合、「Mr」や「Ms」などのプレフィックスは Avaya Vantage™ ビルトインユニファイドコミュニケーションエクスペリエンスには表示されません。

8. [完了] をタップします。

アプリケーションで新しい連絡先が表示され、連絡先リストにその詳細が表示されません。

連絡先を編集する

このタスクについて

連絡先の詳細を編集するには、この手順を使用します。

企業、IP Office、または BroadSoft の個人ディレクトリに追加されたローカルの連絡先と個人用連絡先を変更できます。個人用連絡先に変更があった場合は Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスと個人ディレクトリサーバー間で自動的に同期されます。

手順

1. [連絡先] タブをタップします。
2. 連絡先リストで、編集する連絡先をタップします。
3. [連絡先の詳細] ページで [編集] をタップします。
4. 編集するフィールドをタップします。
5. オンスクリーンキーボードを使用して、情報を変更します。
6. [完了] をタップします。

連絡先を削除する

このタスクについて

この手順を使用して、連絡先リストから連絡先を削除します。

Avaya Aura® の企業、IP Office、または BroadSoft の個人ディレクトリに追加されたローカルの連絡先と個人用連絡先を削除できます。

手順

1. [連絡先] タブをタップします。
2. 連絡先リストで、削除する連絡先をタップします。
3. [連絡先の詳細] ページで [連絡先を削除] をタップします。
4. [削除] をタップして操作を確定します。

連絡先を検索する

このタスクについて

この手順を使用して連絡先の検索を行います。

Avaya Aura® Device Services で連絡先の写真が有効になっている場合、写真は Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスの連絡先リストに表示されます。

IP Office 環境では、IP Office システム連絡先は検索を介してのみ表示できます。

手順

1. [連絡先] タブをタップします。
2. 🔍 アイコンをタップします。
3. [検索] フィールドで、検索する連絡先の名前を入力します。
アプリケーションにより関連するすべての連絡先が表示されます。

IP Office 連絡先検索オプション

IP Office 環境では、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスと、Avaya Vantage™ デバイスの標準連絡先エリア (📁) で、一元管理された IP Office ディレクトリの連絡先検索をサポートします。これには、次が含まれます。

- Small Community Network 全体にわたる IP Office システム連絡先とハントグループ連絡先
- IP Office で設定された、LDAP、システム、HTTP ディレクトリの外部連絡先

BroadSoft 連絡先検索オプション


BroadSoft 環境で、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスおよび Avaya Vantage™ で利用可能な Android の標準連絡先エリアでは、次の BroadSoft ディレクトリの連絡先の検索機能がサポートされます。

- エンタープライズ
- グループ
- グループ用共通連絡先
- 会社用共通連絡先
- 個人用

エンタープライズ、グループ、グループ用共通連絡先、会社用共通連絡先ディレクトリはシステムディレクトリです。テレフォニーユーザーが連絡先検索を実行すると、デバイスはこれらのディレクトリで連絡先を検索します。個人ディレクトリでは、連絡先の追加、削除、編集ができます。

連絡先のフィルター処理

手順

1. [連絡先] タブをタップします。
2. 次のオプションを使用して連絡先をフィルター処理します。
 - [すべての連絡先] : ローカルの連絡先と会社用連絡先を表示します。
 - [会社用連絡先] : Avaya Aura® の会社用連絡先を表示します。
 - [個人用連絡先] : IP Office の個人用連絡先を表示します。
 - [ローカルの連絡先] : Google や Exchange などのローカルストレージに保存されている連絡先を表示します。
 - [お気に入り] : お気に入りリストを表示します。
3. 同期されたデバイスの連絡先を表示するには、連絡先リストの右上にある  をタップします。

Avaya Vantage™ には次の場合に、[すべての連絡先] と [ローカルの連絡先] に同期したデバイスの連絡先が表示されます。

- 連絡先の共有が有効になっている。
- ペ어링されたデバイスが Avaya Vantage™ に接続されている。

関連リンク

[連絡先と通話履歴を Bluetooth 経由で同期する](#) (94 ページ)

システム連絡先を個人用連絡先として保存する

このタスクについて

管理者の設定に従って、その連絡先を、企業、IP Office、または BroadSoft の個人ディレクトリに個人用連絡先として保存します。

IP Office システム連絡先は検索を介してのみ表示できます。

手順

1. [検索] フィールドで、システム連絡先の名前の入力を開始します。
2. 表示されたリストから連絡先を選択します。
3. [連絡先を作成] をクリックします。

Avaya Vantage™ により連絡先にシステム連絡先の名前と電話番号が自動的に入力されます。

4. [完了] をクリックして、この連絡先を個人ディレクトリに保存します。

連絡先をお気に入りとして設定する

このタスクについて

[お気に入り] リストに次の連絡先のタイプを追加できます。

- デバイ스에保存しているローカルの連絡先
- 会社の個人ディレクトリに保存している個人用連絡先

デバイスは [お気に入り] リストをローカルに保存し、バックアップしたり、ディレクトリサーバーから取得したりしません。

手順

1. [連絡先] タブをタップします。
2. 該当する連絡先をタップします。
3. [連絡先の詳細] で、連絡先の名前の横にある ☆ をタップします。

連絡先表示オプションを設定する

このタスクについて

この手順を使用して [連絡先] リストに表示される連絡先の名と姓の順序を変更します。連絡先は、名または姓のいずれかを先に表示できます。

手順

1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。
2. [内線番号] > [ユーザー設定] をタップします。

3. [アプリケーション] をタップします。
4. 表示設定で、[名前の表示設定] をタップし、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [名、姓の順で表示]：連絡先名の表示で、名を先に、姓を後に表示します。
 - [姓、名の順で表示]：連絡先名の表示で、姓を先に、名を後に表示します。
5. [名前の並べ替え設定] をタップし、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [名、姓の順で表示]：名を基準に連絡先リストを並べ替えます。
 - [姓、名の順で表示]：姓を基準に連絡先リストを並べ替えます。

デフォルトの連絡先作成オプションを設定する

このタスクについて

この手順は、新しい連絡先にデフォルトの保存オプションを設定する場合に使用します。連絡先は、ローカルデバイス用連絡先または個人用エンタープライズ連絡先として保存できます。

この設定は、新しい連絡先を作成する際に変更できます。

手順

1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。
2. [内線番号] > [ユーザー設定] をタップします。
3. [アプリケーション] をタップします。
4. 連絡先設定で、[名前を付けて連絡先を新規作成] をタップし、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [ローカル用連絡先]：ローカルデバイス用の連絡先として作成します。
 - [エンタープライズ連絡先]：企業ディレクトリの個人用連絡先として作成します。

連絡先と通話履歴を Bluetooth 経由で同期する

このタスクについて

この手順を使用して携帯電話の連絡先と通話履歴を Bluetooth 経由で Avaya Vantage™ デバイスと同期します。同期後、デバイスが接続されている場合、ペアリングされている電話の連絡先と通話履歴に Avaya Vantage™ デバイスでアクセスできます。

携帯電話のすべてのアカウント（Google や Facebook など）の連絡先は、Avaya Vantage™ デバイスが接続されている場合にのみ共有できます。Bluetooth 接続が失われると、共有されている電話の連絡先と通話履歴のデータは Avaya Vantage™ デバイスから自動的に削除されます。

* 注

デフォルトのテレフォニーアプリケーションの通話ログを表示できるサードパーティアプリケーションは、同期されたモバイルデバイスの通話履歴を表示できます。Bluetooth 接続

を切断した後にそのサードパーティアプリケーションが通話履歴をキャッシュし、そのキャッシュを消去していない場合、同期されたデバイスの通話履歴は保持されます。

手順

携帯電話を Avaya Vantage™ デバイスとペアリングするには、次の手順を実行します。

1. 携帯電話と Avaya Vantage™ デバイスで、Bluetooth をオンにします。
2. Avaya Vantage™ デバイスで、[設定] > [接続デバイス] をタップします。
3. [新しいデバイスのペアリング] をタップします。
4. 使用可能なデバイスで、携帯電話の名前をタップします。
5. 両方のデバイスの画面で、次の手順を実行します。
 - a. 表示されたパスコードを確認します。
 - b. ペアリングされたデバイスに連絡先と通話履歴へのアクセスを許可するオプションを選択します。
 - c. [ペアリング] をタップします。

ペアリングされた電話の連絡先と通話履歴を同期して共有するには、次の手順を実行します。

6. Avaya Vantage™ デバイスで、[設定] > [接続デバイス] > [接続設定] > [Bluetooth] をタップします。
7. Bluetooth の連絡先と通話履歴の共有で、以下を有効にします。
 - [連絡先の共有]
 - [通話履歴の共有]

同期された連絡先は以下から利用できます。

- Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスの [連絡先] タブ。
- Avaya Vantage™ デバイスの標準の連絡先アプリケーション。

第 10 章: Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでのプレゼンス

Presence Services はプレゼンス状態の間に可用性またはプレゼンスを示すアプリケーションです。Presence Services はさまざまなソースから収集されたプレゼンス情報をサポートしており、各ユーザーでこの情報が統合されます。その後 Presence Services で、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスユーザーが [応答可能]、[話中]、[オフライン] など、このステータス情報を利用できるようになります。

たとえば、IP Office 環境では、Presence Services で IP Office から収集されたアプリケーションとテレフォニーのプレゼンス情報がサポートされ、ユーザー別にこの情報が集計されます。

* 注

Avaya Vantage™ では Avaya Aura® および IP Office 環境の Presence Services がサポートされます。Avaya Vantage™ では Open SIP 環境の Presence Services はサポートされません。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでは、次が可能です。

- プレゼンスステータスを変更します。
- カスタムプレゼンスのステータスメッセージを変更します。

プレゼンスステータスを手動で変更する

このタスクについて

デフォルトでは、プレゼンスステータスは、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでのアクティビティに基づいて自動的に設定されます。たとえば、通話中の場合、他のユーザーには自分のステータスが [通話中] として表示されます。デバイスが特定の期間アイドル状態になると、ステータスが [退席中] に変わります。アイドル時間を変更すると、ステータスは自動的に [退席中] に変わります。

必要に応じて、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでプレゼンスステータスを手動で変更できます。

手順

1. Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで、自分のプロフィールアイコンをタップします。

2. 応答可能状況を示す、次のいずれかのプレゼンスステータスを選択します。
 - [自動]: プレゼンスステータスは、ビルトイン UC エクスペリエンスでのテレフォニーアクティビティに基づいて自動的に更新されます。このオプションは、Avaya Aura® 環境でのみ使用できます。
 - [対応可能]: 他のユーザーからの通話を受信できるようにオンラインであることを示します。
 - [話中]: 話中で通話に応答できないことを示します。
 - [退席中]: サインインしたものの、特定の期間非アクティブにしているか、デバイスの近くにいないことを示します。
 - [応答不可]: 通話に応答できないことを示します。
 - [不在]: 職場にいないことを示します。このオプションは、Avaya Aura® 環境でのみ使用できます。
 - [オフライン]: サインアウトしたことを示します。

プレゼンスのステータスメッセージを変更する

このタスクについて

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスではプレゼンスステータスを手動で変更できます。

手順

1. Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで、プレゼンスステータスインジケータのプロファイルアイコンをタップします。
2. テキストフィールドに、ステータスメッセージとして個人用のメモを入力します。

プレゼンスステータスが自動的に退席中に変更された後のアイドル時間を設定する

このタスクについて

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスがアイドル状態になる特定の間隔の後に、プレゼンスステータスを自動的に [退席中] に変更するように設定できます。

Avaya Vantage™ は Avaya Aura® 環境でのみプレゼンスステータスの [退席中] への自動変更をサポートします。

手順

1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。
2. [内線番号] > [ユーザー設定] をタップします。
3. [アプリケーション] をタップします。

4. [プレゼンス設定] で、[退席中への自動変更] をタップします。
5. [退席中への自動変更] 画面で、設定するアイドル時間をタップします。

第 11 章: インスタントメッセージ操作

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでテキストベースのインスタントメッセージを送受信できます。インスタントメッセージは、管理者が Avaya Vantage™ で機能を有効にしている場合にのみ使用できます。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでは、Avaya Aura® 環境でのみインスタントメッセージがサポートされます。今後の IP Office リリース 11.1.2 では、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでのインスタントメッセージがサポートされます。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでは、次のインスタントメッセージ機能をサポートしています。

- 連絡先リスト、通話履歴、メッセージリストから連絡先とのインスタントメッセージの会話を開始する。

会社またはローカルの連絡先として追加された連絡先にインスタントメッセージを送信できます。

- グループメッセージを受信し、マルチパーティの会話に参加する。

ただし、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスからマルチパーティインスタントメッセージの会話を開始することはできません。

- ネイティブキーボードでサポートされている動かない絵文字をテキストメッセージに挿入する。
- 通知エリアに新しいメッセージアラートを表示し、通知エリアから会話を開いたら既読にする。通知エリアから、新しいメッセージを既読にすることもできます。
- ポイントツーポイントのインスタントメッセージの会話を音声通話またはビデオ通話にエスカレーションします。

マルチパーティの会話を音声通話やビデオ通話にエスカレーションすることはできません。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでは、現在次のことはできません。

- マルチパーティインスタントメッセージの会話を開始する。
- インスタントメッセージの会話で添付ファイルを送受信する。
- アニメーション絵文字を送受信する。

連絡先とのインスタントメッセージの会話を開始する


このタスクについて


この手順を使用して、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで連絡先リストの連絡先とのインスタントメッセージの会話を開始します。通話履歴または会話履歴から連絡先を検索することもできます。


インスタントメッセージは、会社またはローカルの連絡先として追加された連絡先にも送信できます。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでは、複数の連絡先とのインスタントメッセージの会話を開始できません。ただし、Avaya Workplace Client などの他の Avaya 通信アプリケーションから送信されたマルチパーティメッセージは受信できます。

手順

1. Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスのナビゲーションバーで、次のいずれかのタブをタップします。
 - [連絡先]
 - [通話履歴]
 - [メッセージ]
2. (オプション) 連絡先を検索するには、 をタップして連絡先名の入力を開始します。
3. 会話を開始する相手の連絡先をタップします。
4. [連絡先の詳細] 画面で、[メッセージの送信] セクションまでスクロールします。

このセクションは、有効なメッセージングアドレスを持つ連絡先でのみ利用できます。
5. メッセージングアドレスの横にある  をタップします。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスに新しい会話画面が表示されます。
6. [メッセージを入力] フィールドに、メッセージを入力します。
7. (オプション) 動かない絵文字は、ネイティブキーボードを使用してテキストのどこにでも追加できます。
8.  をタップします。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで参加者にメッセージが送信され、会話画面に送信されたメッセージが表示されます。

関連リンク

[インスタントメッセージの会話から退出する](#) (102 ページ)

[インスタントメッセージの会話の件名を編集する](#) (100 ページ)

インスタントメッセージの会話の件名を編集する

このタスクについて

デフォルトでは、新しい会話には、会話のタイトルとして他の参加者の名前が表示されます。会話に件名を追加すると、会話画面に、参加者名ではなく、会話のタイトルとして入力した件


名が表示されます。[メッセージ] タブには、入力した件名が参加者名ではなく会話のタイトルとして表示されます。会話の参加者側に新しい件名が表示されます。

この手順を使用して、インスタントメッセージの会話の件名を追加したり既存の件名を編集したりできます。

前提条件

会話を開きます。

手順

1. 会話画面で、[詳細] メニューを開くには、参加者名の横にある  をタップします。
2. [件名の編集] をタップします。
3. 新しい件名を入力し、[完了] をタップします。

会話画面に、参加者名または前の件名ではなく、新しい件名が会話のタイトルとして表示されます。

すべてのインスタントメッセージを既読にする


このタスクについて

この手順を使用して、未読メッセージも含め、会話のメッセージをすべて既読にします。

前提条件

会話を開きます。

手順

1. 会話画面で、[詳細] メニューを開くには、参加者名の横にある  をタップします。
2. [すべて既読にする] をタップします。

アプリケーションですべての未読メッセージが既読になります。

受信インスタントメッセージ通知に返信する

このタスクについて

ユーザーと新しいインスタントメッセージの会話を開始すると、Avaya Vantage™ の通知エリアに新しいメッセージ通知が表示されます。会話画面が閉じている場合でも、既存の会話の新しいメッセージ通知を受信します。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンス画面に新しいメッセージアラートを表示するための、通知の動作を設定できます。通知エリアに新しいメッセージアラートを表示するには、インスタントメッセージの通知が有効になっていることを確認する必要があります。デフォルトでは、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスのすべての通知が有効になっています。

手順

新しいメッセージアラートで次のいずれかを実行します。

- 会話の新規メッセージと未読メッセージを既読にするには、[既読にする] をタップします。
Avaya Vantage™ が通知エリアから通知を削除します。会話履歴から後で会話のメッセージを読むことができます。
- メッセージをすぐに表示するには、[返信] をタップします。
Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスの会話画面に新しいメッセージが表示されます。

関連リンク

[通知設定を設定する](#) (103 ページ)

インスタントメッセージの会話を通話にエスカレーションする

このタスクについて



ポイントツーポイントのインスタントメッセージの会話では、会話を音声通話またはビデオ通話にエスカレーションできます。

注

マルチパーティインスタントメッセージの会話中は、会話をアドホック会議通話にエスカレーションできません。

手順

会話画面で、次のいずれかを選択します。

-  : 音声通話を開始します。
-  : ビデオ通話を開始します。

参加者の番号が複数ある場合は、番号を選択します。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで参加者への通話が開始されます。

インスタントメッセージの会話から退出する

このタスクについて


Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスの会話画面から別の画面に移動すると、会話は会話履歴に残ります。[メッセージ] タブで、会話を開いて再開できます。

会話から退出することもできます。会話から退出すると、ビルトイン UC エクスペリエンスでは会話のすべてのメッセージが会話履歴から削除されます。

前提条件

会話を開きます。

手順

1. 会話画面で、[詳細] メニューを開くには、参加者名の横にある  をタップします。
2. [会話から退出する] をタップします。
3. [会話から退出する] ダイアログボックスで、[OK] をタップします。
アプリケーションで会話履歴から会話が削除されます。

通知設定を設定する

このタスクについて

この手順を使用して、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでカレンダーイベントやインスタントメッセージなどのサービスの通知を設定します。

デフォルトでは、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスのすべての通知が有効になっています。Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスのすべての通知を無効にして、デバイスの通知エリアに表示することができます。インスタントメッセージなどの特定のタイプの通知を有効または無効にできます。通知音と着信ランプ表示の動作を変更することもできます。

手順

1. Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで、[内線番号] > [ユーザー設定] をタップします。
2. [通知設定] をタップします。
3. **(オプション)** ビルトイン UC エクスペリエンスのすべての通知を無効にするには、[通知の表示] を無効にします。
4. 特定のタイプの通知の基本設定を設定するには、[通知の表示] を有効にして、リストから通知タイプをタップします。
たとえば、インスタントメッセージの通知を設定するには、[Vantage Connect メッセージ] をタップします。
5. 選択した通知タイプを有効または無効にするには、[通知の表示] トグルスイッチを使用します。
6. 通知のサウンド、表示、または両方のアラートを設定する場合は、[動作] をタップし、次のいずれかを選択します。
 - [サウンドと画面のポップ]
 - [サウンド]
 - [無音で表示]
 - [無音で最小化表示]
7. [音声] をタップして、デバイスで再生される通知のトーンを選択します。

8. 応答不可がオンになっているときに選択したタイプの通知を受信するには、[応答不可の上書き] を有効にします。

第 12 章: Avaya Connect Expansion Module の使用方法

Avaya Aura® または IP Office 環境では、Avaya Connect Expansion Module アプリケーションを使用して Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスの通話機能ボタンと回線アピラランスの数を拡張できます。管理者は Expansion Module アプリケーションを、UC テレフォニー機能を使用しているプライマリの Avaya Vantage™ デバイスか、別の Avaya Vantage™ デバイスで有効にできます。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスにペアリングされ接続されている場合、各ページで Expansion Module は次の数の機能ボタンを含むページを複数表示できます。

- K175 : 24
- K155 : 8

管理者は、Expansion Module アプリケーションを Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスとペアリングして接続する場合に使用できる機能ボタンを設定します。Expansion Module アプリケーションのレイアウトをカスタマイズして、ボタンラベルや位置を変更できます。

Avaya Connect Expansion Module でサポートされる機能ボタン

Avaya Connect Expansion Module アプリケーションは Avaya Aura® または IP Office 環境で動作します。次のテーブルは、各環境でサポートされる機能ボタンを一覧表示しています。管理者は Expansion Module アプリケーションを通じて利用可能な機能ボタンを設定します。

Avaya Aura® 環境でサポートされる機能ボタン	IP Office 環境でサポートされる機能ボタン
<ul style="list-style-type: none">• 優先通話• すべての通話を転送 – ボイスメールに• 無条件転送• 話中、不応答の通話を転送• 拡張不在転送• 含まない• 携帯内線 (EC500)• 携帯転送	<ul style="list-style-type: none">• 優先通話• 発信• ダイヤルページング• 直接ダイヤル• 無条件転送• 話し中転送• 不応答転送• 転送先番号• 話中転送番号

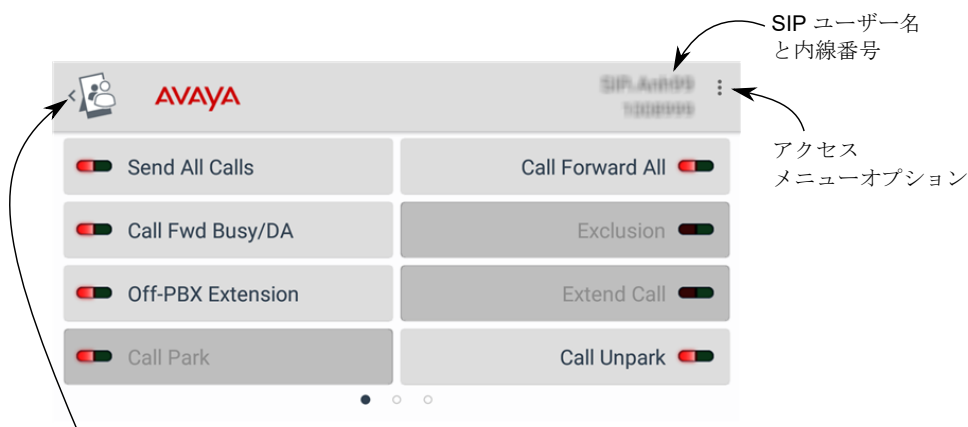
Avaya Aura® 環境でサポートされる機能ボタン	IP Office 環境でサポートされる機能ボタン
<ul style="list-style-type: none"> • コールパーク • パーク解除 • 自動コールバック • 自動ダイヤル • ウィスパページ • グループコールピックアップ • 拡張コールピックアップ • 指定コールピックアップ • ビジー表示 • ハントグループ話中 • チームボタン • ブリッジ回線アピランス (BLA) • CPN ブロックとブロック解除 	<ul style="list-style-type: none"> • すべての転送をキャンセル • ハントグループの有効化 • ツイニング (携帯内線) • ボイスメールの有効化 • 手が空いたときにかけ直す • ログアウト • 会議 – 参加者の追加 • コールレコード • 応答不可

Avaya Aura® 環境の自動ダイヤルおよびビジー表示機能ボタンは、連絡先のプレゼンスステータスを表示します。

Expansion Module のナビゲーション画面

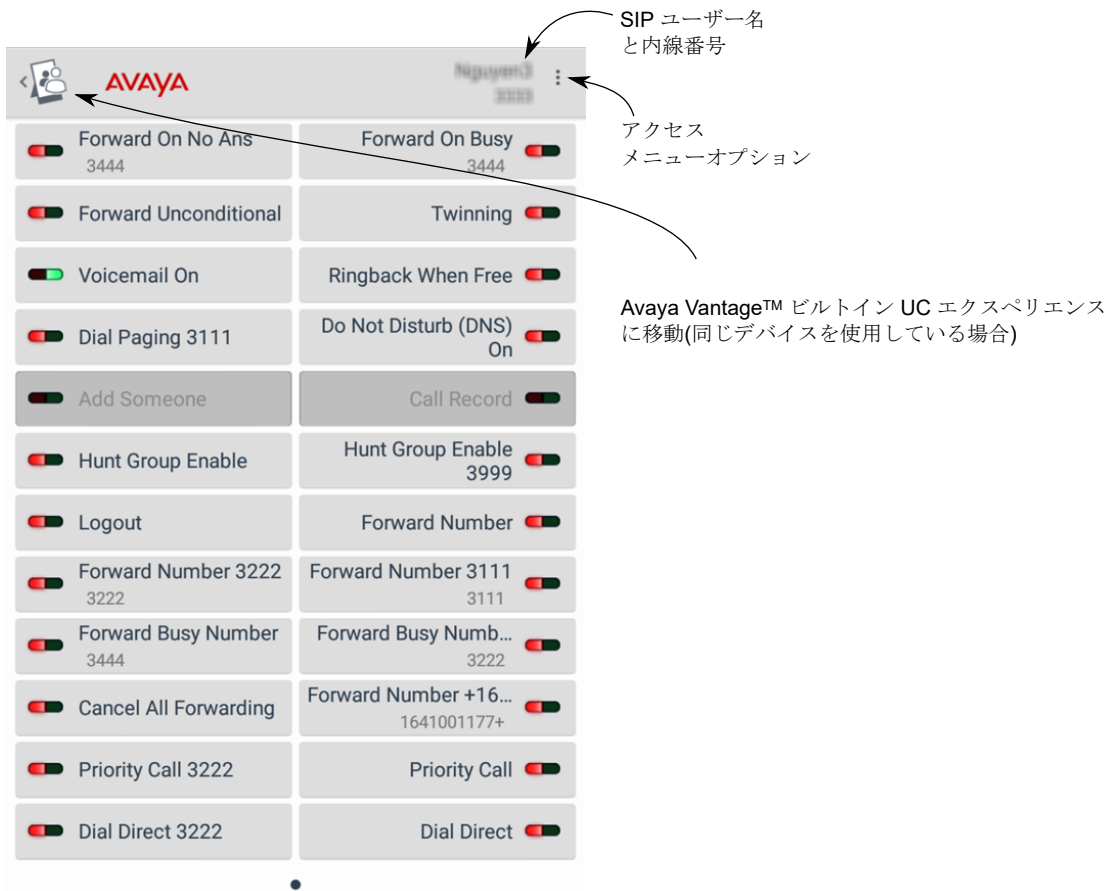
次の画像は、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスと Expansion Module 間で接続が確立された後の Expansion Module アプリケーションを示しています。

K155 デバイス



Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスに移動 (同じデバイスを使用している場合)

K175 デバイス



Expansion Module と Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンス間の接続

Avaya Connect Expansion Module アプリケーションを、同じデバイスまたは異なるデバイスで実行されている Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスに接続できます。

Expansion Module と Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスが同じデバイス上にある場合の接続

Expansion Module および Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスが同じデバイスで使用可能な場合、管理者のデバイス設定に応じて、次のいずれかが発生する可能性があります。

- Expansion Module はローカルの Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスと自動的にペアリングします。いずれかのアプリケーションを開くと、自動的に接続されます。接続を確立するために、その他の操作を実行する必要はありません。
- ローカルの Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスと自動的にペアリングされません。ビルトイン UC エクスペリエンスで Expansion Module サービスを有効にする必要があります。その後 Expansion Module アプリケーションから、ローカルのビルトイン UC エクスペリエンスへの接続を確立できます。

ローカルの Expansion Module に接続されると、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスにローカルの Expansion Module へのナビゲーションショートカットアイコンが表示されます。Expansion Module に、設定した機能ボタンとビルトイン UC エクスペリエンスへのナビゲーションショートカットアイコンが表示されます。

自動的にペアリングされると、Expansion Module にはペアリングを切断して削除するオプションは表示されません。この Expansion Module を、異なるデバイスで実行されている別の Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスに接続することはできません。接続された Avaya Vantage™ UC エクスペリエンスでは、異なるデバイスで実行されている他の Expansion Module アプリケーションから追加の 2 つの接続リクエストを受け付けることができます。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスにログインしない場合、Expansion Module に「利用可能なデータなし」というメッセージが表示されます。

Expansion Module と Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスが 2 つの異なるデバイス上にある場合の接続

両方が異なるデバイスで実行されている場合に、Expansion Module を Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスに接続できます。接続をペアリングして確立するには、ネットワーク検出サービスを使用して近くのデバイスを検索するか、デバイスの IP アドレスを使用します。

Expansion Module アプリケーションを別のデバイスに接続するには、過去に接続されていた場合、同じデバイスで実行されているローカルの Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから切断する必要があります。ローカルのビルトイン UC エクスペリエンスから Expansion Module を切断する機能は、管理者のデバイス設定によって異なります。Expansion Module がローカルのビルトイン UC エクスペリエンスと自動的にペアリングされている場合、切断できません。

接続オプションの詳細については、「[接続方法](#) (109 ページ)」を参照してください。

複数の Expansion Module アプリケーションとの接続

最大 3 つの Expansion Module アプリケーションを 1 つの Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスに接続できます。各 Expansion Module を 1 つずつ接続します。

Avaya Vantage™ がすでに 3 つの Expansion Module アプリケーションに接続されている場合は、Avaya Vantage™ は他の接続リクエストを受け入れません。

Avaya Vantage™ が複数の Expansion Module アプリケーションとの接続を確立する場合は次のとおりです。

- 接続されているすべてのアプリケーションの機能ボタンインジケータは、各機能で同じステータスが表示されます。
- カスタマイズされたレイアウトとボタンラベルは、Expansion Module がインストールされている各デバイスのローカルに保存されます。
- 特定の Expansion Module アプリケーションでページから移動しても、他の Expansion Module アプリケーションにはこのアクティビティは反映されません。

Expansion Module で機能ボタンがページあたりのボタン数を超えている場合、複数のアプリケーションに接続して、それぞれに異なるページビューを設定できます。各ページには、次の数の機能ボタンを含めることができます。

- K175 : 24
- K155 : 8

接続方法

Expansion Module と Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスが異なるデバイス上にある場合、Expansion Module が提供するいずれかの接続オプションを使用できます。

❗ 重要

「[Avaya Vantage で Expansion Module サーバーを有効にする](#) (110 ページ)」の説明に従って、接続するリモートのビルトイン UC エクスペリエンスで Expansion Module サービスを有効にする必要があります。

Expansion Module アプリケーションを別のデバイスに接続するには、過去に接続されていた場合、同じデバイスで実行されているローカルの Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから切断する必要があります。ローカルのビルトイン UC エクスペリエンスから Expansion Module を切断する機能は、管理者のデバイス設定によって異なります。Expansion Module がローカルのビルトイン UC エクスペリエンスと自動的にペアリングされている場合、切断できません。

次の表は、使用可能な接続オプションをまとめたものです。

接続オプション	説明	参照
周辺デバイスに接続します。	Expansion Module アプリケーションが同じサブネット上の異なるデバイスにある場合はこのオプションを使用します。Expansion Module アプリケーションから、ネットワーク検出サービスが有効化されている近くの Avaya Vantage™ デバイスを検出できます。次に、使用可能なデバイスの 1 つに接続リクエストを送信できます。	Avaya Connect Expansion Module で、[周辺デバイスに接続] オプションを使用します。「 周辺デバイスの Expansion Module と接続する (112 ページ)」を参照してください。
IP アドレスを使用してデバイスに接続します。	Expansion Module アプリケーションが異なるデバイス上にある場合、デバイスの IP アドレスを使用して別の Avaya Vantage™ デバイスに接続リクエストを送信できます。このオプションは、別のサブネット上のデバイスに接続する場合に役立ちます。	Avaya Connect Expansion Module で、[IP アドレスを使用して接続する] オプションを使用します。「 IP アドレスを使用して Expansion Module と接続する (113 ページ)」を参照してください。 デバイスの IP アドレスを見つける方法については、「 Avaya Vantage デバイスの IP アドレスを確認する (114 ページ)」を参照してください。

次のページに続く...

接続オプション	説明	参照
デバイスとすでにペアリングされているデバイスに接続します。	<p>すでにペアリングされているデバイスのリストから選択してクイック接続を確立する場合は、このオプションを使用します。</p> <p>一度 Expansion Module アプリケーションと Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンス間の接続を確立すると、それ以降は自動的にペアリングされます。両アプリケーションは、ユーザーがペアリングを解除するまでペアリングされたままになります。</p>	Avaya Connect Expansion Module で、[ペアリングされたデバイスに接続する] オプションを使用します。 「 Expansion Module をペアリングされたデバイスと接続する (114 ページ)」を参照してください。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスがすでに 3 つの Expansion Module アプリケーションに接続されている場合は、他の Expansion Module アプリケーションからの接続リクエストは受け入れられません。

Avaya Vantage™ で Expansion Module サーバーを有効にする

このタスクについて

Avaya Connect Expansion Module アプリケーションを Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスに接続するには、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで Expansion Module サービスを有効にする必要があります。

Expansion Module が同じデバイスで実行されている Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスと自動的にペアリングされ接続されている場合、このサービスを有効にする必要はありません。サービスは有効なままになります。ビルトイン UC エクスペリエンスの [ユーザー設定] メニューからこのサービスを無効にすることはできません。

Expansion Module アプリケーションと Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスが同じサブネットの異なる Avaya Vantage™ デバイスで実行されている場合、ビルトイン UC エクスペリエンスでネットワーク検出を有効にする必要があります。その後、他の Avaya Vantage™ にインストールされている Expansion Module アプリケーションを検出し、Avaya Vantage™ デバイスの Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスへの接続リクエストを送信できます。

前提条件

管理者が Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで Expansion Module サービスを使用できるようにしていることを確認します。

手順

1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。
2. [内線番号] > [ユーザー設定] > [拡張モジュール] をタップします。
3. [拡張モジュール] トグルスイッチをタップして Expansion Module サービスを有効にします。

4. ネットワーク上のその他のデバイスにインストールされている Expansion Module アプリケーションがデバイスを検出できるようにするには、[ネットワーク検出] を有効にします。

デバイスは、Expansion Module アプリケーションがインストールされているその他のデバイスから約 1 分間認識可能になります。この後、ネットワーク検出サービスは自動的に無効になり、デバイスはその他のデバイスに表示されなくなります。

5. (オプション) その他のデバイスから認識されるデバイス名をカスタマイズするには、[ネットワーク検出名] をタップしてデバイス名を変更し、[OK] をタップします。

次のステップ

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスによる Expansion Module の接続 接続プロセスは、両方のアプリケーションが同じ Avaya Vantage™ デバイスにインストールされているか、異なるデバイスにインストールされているかによって異なります。

両方のアプリケーションが同じデバイスで実行されている場合に Expansion Module と接続する

このタスクについて

管理者のデバイスの設定に応じて、Expansion Module アプリケーションでは、同じデバイスで実行されている Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスを自動的にペアリングして接続できます。その他の操作を実行する必要はありません。

自動的に接続されない場合は、この手順を使用して Expansion Module をローカルのビルトイン UC エクスペリエンスに接続します。

前提条件

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスにログインします。

手順

1. Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで Expansion Module サービスを有効にします。
2. Avaya Connect Expansion Module アプリケーションを開きます。
3. (オプション) Expansion Module アプリケーションを初めて開く場合は、EULA に同意してから続行します。
4. [このデバイスに接続] をタップします。
5. 2 つのアプリケーション間の将来の接続性を確保するため、次のオプションのいずれかをタップします。
 - [常にこのデバイスを使用する]
 - [今回だけ使用]

Expansion Module アプリケーションが更新され、ユーザーの内線番号に割り当てられている機能ボタンに基づいてアプリケーションにボタンがロードされます。

関連リンク

[Avaya Vantage で Expansion Module サーバーを有効にする](#) (110 ページ)

[同じデバイスで Expansion Module と Avaya Vantage ビルトイン UC エクスペリエンス感を切り替える \(115 ページ\)](#)

周辺デバイスの Expansion Module と接続する

このタスクについて

Expansion Module と Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスが同じサブネット上の異なるデバイス上にある場合は、この手順を使用します。Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスがインストールされているデバイスの IP アドレスがわかっている場合は、「[IP アドレスを使用して Expansion Module と接続する \(113 ページ\)](#)」の説明に従ってその IP アドレスを使用して接続できます。

前提条件

Expansion Module を接続するデバイスで、次を行います。

- Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスにログインします。
- Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで Expansion Module サービスを有効にします。
- Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでネットワーク検出サービスを有効にします。

手順

1. Avaya Connect Expansion Module アプリケーションを開きます。
2. [周辺デバイスに接続] をタップします。

Expansion Module アプリケーションに [利用可能なデバイス] 画面が表示され、ネットワーク検出サービスが有効になっている周辺デバイスのリストが表示されます。デフォルトでは、このリストには、各デバイスのデバイスモデルや IP アドレスなどの識別情報が表示されます。Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでデバイスのネットワーク検出名をカスタマイズしている場合は、デフォルトの情報ではなく、その名前がリストに表示されます。

3. Avaya Connect Expansion Module アプリケーションを接続するデバイスをタップします。
4. 2つのアプリケーション間の将来の接続性を確保するため、次のオプションのいずれかをタップします。
 - [常にこのデバイスを使用する]
 - [今回だけ使用]

選択したデバイスに初めて接続する場合、またはアプリケーション間の既存のペアリングを削除した場合は、Expansion Module アプリケーションに検証コードとタイムアウト進捗バーが表示されます。このコードの有効期間は 15 秒です。

5. 接続リクエストを送信したデバイスで、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスを開きます。

Avaya Vantage™ に Expansion Module アプリケーションからの接続リクエストが表示されます。

6. (オプション) リクエストに表示されているコードが Expansion Module アプリケーションのコードと一致していることを確認します。
7. [はい] をタップして接続リクエストを受け入れます。

Expansion Module アプリケーションが更新され、ユーザーの内線番号に割り当てられている機能ボタンに基づいてアプリケーションにボタンがロードされます。

関連リンク

[Avaya Vantage で Expansion Module サーバーを有効にする](#) (110 ページ)

IP アドレスを使用して Expansion Module と接続する

このタスクについて

Expansion Module と Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスが異なるデバイス上にある場合は、この手順を使用します。Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスがインストールされているデバイスの IP アドレスがわかっている場合は、Expansion Module から特定のデバイスに接続リクエストを直接送信できます。デバイスが 2 つの異なるサブネット上にある場合は、デバイスの IP アドレスを使用してアプリケーションを接続できます。

前提条件

Expansion Module を接続するデバイスで、次を行います。

- Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスにログインします。
- Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで Expansion Module サービスを有効にします。
- 接続するデバイスの IP アドレスがあることを確認してください。

手順

1. Avaya Connect Expansion Module アプリケーションを開きます。
2. [IP アドレスを入力] フィールドに、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスがアクティブなテレフォニーアプリケーションとして配置されているデバイスの IP アドレスを入力します。
3. [IP アドレスを使用して接続] をタップします。
4. 2 つのアプリケーション間の将来の接続性を確保するため、次のオプションのいずれかをタップします。
 - [常にこのデバイスを使用する]
 - [今回だけ使用]

選択したデバイスに初めて接続する場合、またはアプリケーション間の既存のペアリングを削除した場合は、Expansion Module アプリケーションに検証コードとタイムアウト進捗バーが表示されます。このコードの有効期間は 15 秒です。

5. 接続リクエストを送信したデバイスで、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスを開きます。

Avaya Vantage™ に Expansion Module アプリケーションからの接続リクエストが表示されます。

6. (オプション) リクエストに表示されているコードが Expansion Module アプリケーションのコードと一致していることを確認します。
7. [はい] をタップして接続リクエストを受け入れます。

Expansion Module アプリケーションが更新され、ユーザーの内線番号に割り当てられている機能ボタンに基づいてアプリケーションにボタンがロードされます。

関連リンク

[Avaya Vantage で Expansion Module サーバーを有効にする](#) (110 ページ)

[Avaya Vantage デバイスの IP アドレスを確認する](#) (114 ページ)

[Avaya Vantage デバイスの IP アドレスを確認する](#) (114 ページ)

Avaya Vantage™ デバイスの IP アドレスを確認する

このタスクについて

Avaya Vantage™ デバイスの IP アドレスを検索する必要がある場合は、この手順を使用します。

手順

1. デバイスの [設定] メニューで、[システム] > [Avaya Vantage について] に移動します。
2. [ネットワーク情報] セクションで、デバイスの IP アドレスを確認します。

Expansion Module をペアリングされたデバイスと接続する

このタスクについて

Expansion Module アプリケーションで、すでにペアリングされているデバイスから選択して、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスとの接続をすばやく確立できます。ペアリングされたデバイスとの接続の確立に検証コードの確認は必要ありません。

前提条件

Avaya Vantage™ で Expansion Module サービスが有効になっていることを確認します。

手順



1. Avaya Connect Expansion Module アプリケーションを開きます。
2. [ペアリングされたデバイスに接続] をタップします。
3. [ペアリングされたデバイス] 画面で、アプリケーションを接続するデバイスをタップします。

Expansion Module アプリケーションが更新され、ユーザーの内線番号に割り当てられている機能ボタンに基づいてアプリケーションにボタンがロードされます。

同じデバイスで Expansion Module と Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンス感を切り替える

このタスクについて

Expansion Module アプリケーションと Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスの両方が同じデバイスにインストールされている場合、接続が確立された後、一方のアプリケーションからもう一方のアプリケーションに簡単に移動できます。

- Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから Expansion Module アプリケーションに移動するには、 をタップします。
- Expansion Module アプリケーションから Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスに移動するには、 をタップします。

Expansion Module からビデオ通話を有効にする

このタスクについて

Expansion Module アプリケーションで、[自動ダイヤル] や [優先通話] などの機能ボタンから通話を発信する場合、アプリケーションはデフォルトで音声通話を行います。アプリケーションで音声通話ではなくビデオ通話を発信する場合は、この手順を使用します。

ビデオ通話を有効にしない場合は、通話の確立後に音声通話をビデオ通話にエスカレーションできます。

手順

1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。
2. [内線番号] > [ユーザー設定] > [拡張モジュール] をタップします。
3. [新しい通話でビデオを使用] スイッチをタップして Expansion Module からビデオ通話を有効にします。

Expansion Module が進行中の通話をビデオ通話として発信します。

Expansion Module の通話機能を使用する

このタスクについて

システム管理者がユーザーの内線番号で優先通話、不在転送、コールピックアップ、自動コールバックなどの機能をアクティブにしている場合は、Avaya Connect Expansion Module アプリケーションの機能ボタンを使用してそれらの機能にアクセスできます。システム管理者が一部の機能ラベルを事前に設定している場合があります。ボタンのラベルはカスタマイズできません。

このセクションの手順では、Expansion Module の主要な機能の使用方法について説明します。

前提条件

Expansion Module アプリケーションを Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスに接続します。



手順

Avaya Connect Expansion Module アプリケーションで、アクセスする機能ボタンをタップし、有効または無効にします。

特定の機能を有効にするには、追加の手順が必要になる場合があります。たとえば、不在転送を有効にするには、着信通話の転送先の内線番号を入力する必要があります。

結果

機能ボタンのカラーインジケータが次の色に変わります。

- 緑色 () : 機能が有効になっていることを示します。
- 赤色 () : 機能が無効になっていることを示します。

優先通話をかける

このタスクについて

接続された Expansion Module アプリケーションの機能ボタンを使用して、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから優先通話を発信できます。優先通話は内線番号に対してのみ発信できます。

手順

1. Avaya Connect Expansion Module アプリケーションに移動します。
2. [優先通話] ボタンをタップします。
3. 発信する内線番号を入力して [入力] をタップします。

通話をパークする

このタスクについて

接続されている Avaya Connect Expansion Module アプリケーションの機能ボタンを使用してデバイスでアクティブなコールをパークするには、この手順を使用します。コミュニケーションネットワーク内の別のデバイスからのパーク通話に応答できます。たとえば、Avaya Vantage™ デバイスで通話に応答し、通話をパークして、会議室の別の内線番号から通話の保留を解除できます。

コールパーク機能は、Avaya Aura® 環境でのみ使用できます。

手順

1. Avaya Connect Expansion Module アプリケーションに移動します。
2. [コールパーク] ボタンをタップします。

機能ボタンインジケータが、コールがパークされたことを示す緑色に変わります。

パークコールの取得

このタスクについて

接続されている Avaya Connect Expansion Module アプリケーションの機能ボタンを使用してパーク通話に応答するには、この手順を使用します。

コールパーク解除機能は Avaya Aura® 環境でのみ使用できます。

手順

1. Avaya Connect Expansion Module アプリケーションに移動します。
2. [パーク解除] ボタンをタップし、パーク通話を保留している内線番号を入力します。
Avaya Vantage™ で通話がアクティブな通話として再開します。

無条件転送

このタスクについて

すべての通話を選択した別の内線番号に転送する場合は、この手順を使用します。

手順

1. Avaya Connect Expansion Module アプリケーションに移動します。
2. [すべての通話を転送] ボタンをタップします。
3. 着信通話の転送先の内線番号を入力します。
4. [入力] をタップします。

機能ボタンインジケータが、不在転送が有効になっていることを示す緑色に変わります。

話中または不応答時に通話を転送する

このタスクについて

次の場合に着信通話を別の内線番号に転送できます。

- 回線が話中
- 通話に応答できない

手順

1. Avaya Connect Expansion Module アプリケーションに移動します。
2. [話中/無応答通話を転送] ボタンをタップします。
3. 通話の転送先の内線番号を入力します。
4. [入力] をタップします。

機能ボタンインジケータが、回線が話中か、通話に応答できない場合に、通話で不在転送が有効になっていることを示す緑色に変わります。

内線通話と外線通話に高度な不在転送オプションを設定する

このタスクについて

内線通話と外線通話を異なる番号に転送できます。内線通話と外線通話の転送で異なる条件を設定することもできます。たとえば、内線通話は自分の回線が話中の場合にのみ別の番号に転送し、外線通話はすべて転送することができます。

拡張不在転送機能は、Avaya Aura® 環境でのみ使用できます。

手順

1. Avaya Connect Expansion Module アプリケーションに移動します。
2. [拡張不在転送] ボタンをタップします。
3. 次の不在転送オプションを有効にし、対応する転送先電話番号を入力します。
 - [次への無条件の内線通話] : 常にすべての内線通話を別の番号に転送します。
 - [次への無条件の外線通話] : 常にすべての外線通話を別の番号に転送します。
 - [次への通話中の内線通話] : 回線が話中の場合にのみ内線通話を別の番号に転送します。
 - [次への通話中の外線通話] : 回線が話中の場合にのみ外線通話を別の番号に転送します。
 - [次への応答無しの内線通話] : 通話に応答できない場合に内線通話を別の番号に転送します。
 - [次への応答無しの外線通話] : 通話に応答できない場合に外線通話を別の番号に転送します。
4. 通話の転送先の内線番号を入力します。
5. [入力] をタップします。

機能ボタンインジケータが、高度な不在転送が有効になっていることを示す緑色に変わります。

すべての通話をボイスメールに転送する

このタスクについて

すべての着信通話を会社用ボイスメール番号に直接転送できます。

管理者は、ボイスメール番号にユーザーの内線番号を設定する必要があります。

手順

1. Avaya Connect Expansion Module アプリケーションに移動します。
2. [離席送信] ボタンをタップします。

機能ボタンインジケータが、すべての着信通話がボイスメールに転送されることを示す緑色に変わります。

自動コールバックリクエストをアクティブにする

このタスクについて

内線番号に発信したときに、通話相手が応答しないか話中である場合は、自動コールバックリクエストをアクティブにできます。

発信した内線番号が利用可能になると、コールサーバーが自動的にユーザーの内線番号への発信を開始します。ユーザーが通話に応答すると、ユーザーの内線番号から通話相手の内線番号に着信します。

手順

1. 不応答通話を終了する前に、Avaya Connect Expansion Module で [自動コールバック] ボタンをタップします。

機能ボタンインジケータが、通話で自動コールバックが有効になっていることを示す緑色に変わります。

2. 自動コールバックリクエストをキャンセルするには、[自動コールバック] をもう一度タップします。

ブリッジ回線アピランス

Avaya Aura® 環境では、Avaya Connect Expansion Module アプリケーションのブリッジ回線アピランス (BLA) 機能を使用できます。

BLA は、複数のユーザーで共有される一意のプライマリ内線番号です。ブリッジ回線アピランスを使用することで、プライマリ内線番号の所有者の代わりに通話の発信、受信、参加を行うことができます。

BLA の一般的な用途は、上司と秘書のシナリオです。このシナリオでは、プライマリ番号は上司に属します。管理者は、秘書の内線番号にプライマリ番号のコールアピランスを設定します。誰かが上司に発信すると、上司または秘書のいずれかがその通話に応答できます。秘書が最初に通話に応答した場合、上司はその通話にブリッジできます。秘書の内線番号に着信した場合、上司はその通話を認識できず、その通話にブリッジすることもできません。

秘書は、BLA 内線番号を使用して上司の代わりに発信することもできます。通話相手が通話に応答した後、上司はアクティブなコールを表示し、そのコールにブリッジできます。

Expansion Module を使用してブリッジ回線で通話を発信する

このタスクについて

Expansion Module で別のユーザーのブリッジ回線を選択してそのユーザーの代わりに通話を発信するには、この手順を使用します。たとえば秘書として、上司の代わりに通話を発信できます。

Expansion Module の仮想キーボードでは、特殊文字がサポートされます。そのため、先頭にプラス記号 (+) が付いた E.164 フォーマットの電話番号を入力できます。

管理者は、ユーザーの内線番号に他の内線番号のブリッジアピランスを設定する必要があります。

手順

1. Avaya Connect Expansion Module アプリケーションに移動します。
2. 通話を発信するために使用するブリッジ回線番号のボタンをタップします。
3. 発信する番号を入力し、[入力] をタップして通話を開始します。


ブリッジ回線で通話に応答する

このタスクについて

ブリッジ回線への通話を受信すると、ブリッジ回線の所有者の内線と秘書の内線の両方で着信音が鳴ります。通話を受信すると、Expansion Module のブリッジ回線インジケータが緑色と赤色のライトで点滅します。また、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで着信音が鳴ります。

手順

通話に応答するには、次のいずれかを行います。

-  をタップします。
- ハンドセットを持ち上げます。

ブリッジ回線の通話に参加する

このタスクについて

上司または秘書はブリッジ回線の継続中の通話に参加できます。

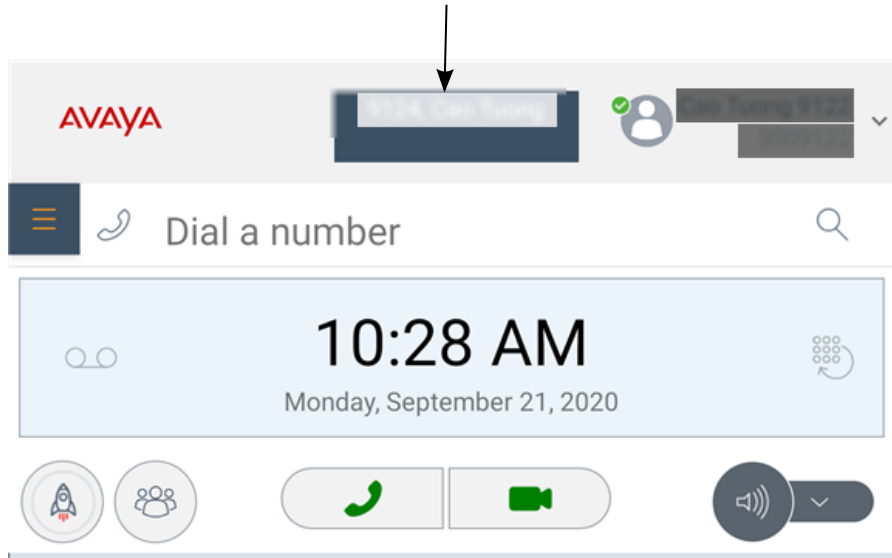
たとえば、秘書が上司に代わって通話を発信したり応答したりする場合、上司のデバイスの Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスに、ブリッジ回線への進行中の通話があることが示されます。その後上司は、アクティブなブリッジ通話インジケータをタップして、通話に参加できます。

手順

1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。

2. 次の画像に示すように、ユーザープロファイルアイコンの横にあるアクティブなブリッジ通話インジケータをタップします。

ブリッジ回線の詳細が表示された
アクティブなブリッジ通話インジケータ



Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスによって通話にブリッジされ、通話が会議通話に変換されます。

コールピックアップ

Avaya Aura® 環境では、管理者は複数の電話内線番号に接続してコールピックアップグループを作成できます。たとえば、ピックアップグループには給与部門の全員の内線番号を登録できます。こうすれば、誰かが給与部門の内線番号に電話をかけた場合、部門内の誰でもその電話に応答できます。

内線番号からグループメンバーの着信に応答できるようにするには、管理者はそのユーザーをピックアップグループに追加する必要があります。

Avaya Vantage™ では Expansion Module アプリケーションを通じて次のコールピックアップオプションをサポートします。

- グループコールピックアップ：同じピックアップグループのメンバーの代わりに通話に応答できます。
- 拡張コールピックアップ：ピックアップグループのメンバーとして、拡張ピックアップグループのピックアップグループの番号をダイヤルすると、別のピックアップグループへの通話に応答できます。
- 指定コールピックアップ：呼び出し中の電話の内線番号を指定することで、別の人宛ての通話に直接応答できます。

内線番号でコールピックアップがアクティブになると、別のグループメンバーへの着信通話へのアラートを受信します。受信する可能性のあるアラートの種類は次のとおりです。

- Expansion Module の [コールピックアップ] ボタンの両方のインジケータライトが点滅します。

- 内線が鳴ります。
- デバイスの MWI LED が点滅します。
- Avaya Vantage™ に内線番号への直接通話の着信アラートに似た着信コールピックアップアラートウィンドウが表示されます。アラートには、通話の対象となる人の名前と電話番号、企業ディレクトリで利用可能な場合は名前、発信者の電話番号が表示されます。


ピックアップグループメンバー宛ての通話に应答する

このタスクについて

内線番号がコールピックアップグループの一部である場合、内線番号からグループメンバーへの着信に应答できます。

手順

通話に应答するには、次のいずれかを行います。

- Expansion Module で、点滅している [コールピックアップ] ボタンをタップします。
- [着信应答通話] ウィンドウで、 をタップします。
- 有線またはワイヤレスのハンドセットを使用する際は、ハンドセットをクレイドルから持ち上げてください。

正常に接続されると、Avaya Vantage™ にアクティブな通話画面が表示されます。

別のピックアップグループの通話に应答する

このタスクについて

内線番号で拡張コールピックアップが有効になっている場合、拡張ピックアップグループのピックアップグループの番号をダイヤルして、別のピックアップグループへの通話に应答できます。

前提条件

ピックアップグループの拡張番号があることを確認します。

手順

1. Expansion Module で、[拡張コールピックアップ] をタップします。
2. 通話を受信するピックアップグループの番号を入力します。
3. [OK] をタップします。

正常に接続されると、Avaya Vantage™ にアクティブな通話画面が表示されます。

別の内線番号への通話をピックアップする

このタスクについて

内線番号で指定コールピックアップ機能が有効になっている場合は、電話番号または内線番号を指定すると、別の内線番号の通話に应答できます。

手順

1. Expansion Module で、[指定コールピックアップ] をタップします。
2. 通話を受信しているデバイスの内線番号を入力します。

3. [OK] をタップします。

正常に接続されると、Avaya Vantage™ にアクティブな通話画面が表示されます。

チームボタン

Avaya Connect Expansion Module のチームボタン機能を使用すると、チーム内の内線番号を監視できます。チームボタン機能を使用すると、監視対象の内線番号に発信したり、内線番号への着信通話に応答したりできます。

この機能を使用するには、管理者が事前に Avaya Aura® System Manager で監視対象の内線番号と呼び出し動作を設定する必要があります。呼び出し動作により、通話が着信したときに内線番号の呼び出し音が鳴るかどうかが決まります。

Avaya Connect Expansion Module のインジケータライトは、監視対象の内線番号の状態を次のように示します。

- 監視対象の内線番号がアイドル状態のときは、緑色のライトが点灯します。
- 監視対象の内線番号がオフフック状態またはアクティブなコール状態のときは、赤色のライトが点灯します。
- 監視対象の内線番号に着信があると、両方のライトが点滅します。内線番号の呼び出し音は、管理者が呼び出しを設定している場合にも鳴ります。

監視対象の内線番号に発信する

手順

Avaya Connect Expansion Module で、監視対象の内線番号のボタンをタップします。

この機能がアクティブになると、Avaya Vantage™ は監視対象の内線番号に電話をかけます。

監視対象の内線番号への着信通話に応答する

このタスクについて

監視対象の内線番号で通話を受信すると、Avaya Connect Expansion Module のチームボタンインジケータライトが両方とも点滅します。

手順

着信通話に応答するには、Avaya Connect Expansion Module で監視対象の内線番号のボタンをタップします。

Avaya Connect Expansion Module をカスタマイズする

ボタンのラベルを変更する

このタスクについて

システム管理者は、接続されている Avaya Connect Expansion Module アプリケーションで使用できる機能ボタンのラベルを事前に設定します。これらのラベルは必要に応じて変更できません。

カスタマイズしたボタンラベルは、Expansion Module アプリケーションがインストールされているデバイスにのみローカルに保存されます。カスタマイズしたボタンラベルは、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスに接続したその他の Expansion Module アプリケーションと同期されません。

手順

1. ラベルを変更するボタンがある Avaya Connect Expansion Module アプリケーションのページに移動します。
2. 画面の右上隅で、[メニュー] > [レイアウトとラベルの編集] をタップします。
3. 変更するボタンラベルの横にある ✎ をタップします。
4. ラベルのテキストを変更し、ラベルの横にある ✓ をタップします。
5. (オプション) 必要に応じて、手順 3 ~ 4 を繰り返してページのその他のラベルを変更します。
6. [保存] をタップします。

ボタンを別の場所に移動する

このタスクについて

Avaya Connect Expansion Module アプリケーションのボタンの場所を変更できます。ページ上の空いている場所にボタンを移動したり、別のボタンと場所を入れ替えたりできます。

手順

1. 移動するボタンがある Avaya Connect Expansion Module アプリケーションのページに移動します。
2. 画面の右上隅で、[メニュー] > [レイアウトとラベルの編集] をタップします。
3. 移動するボタンを長押しします。
4. ボタンを移動する場所にドラッグしてドロップします。
対象の場所が埋まっている場合、自動的にボタンの位置が入れ替わります。
5. [保存] をタップします。

ダークテーマを有効にして可視性を高める

このタスクについて

Avaya Connect Expansion Module では、夜間に、または低光量の環境でダークテーマを有効にして可視性を高めることができます。

手順

1. Avaya Connect Expansion Module 画面の右上隅にある [メニュー] > [設定] をタップします。
2. [ダークテーマを有効にする] スライダーを右に動かします。

ペアリングを切断して削除する

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから Expansion Module を切断する

このタスクについて

Expansion Module と Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスの既存の接続を終了すると、他のデバイスで Expansion Module アプリケーションを使用できるようになります。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから Expansion Module を切断しても、Expansion Module と Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスがインストールされたデバイス間のペアリングは解除されません。

手順

1. Expansion Module アプリケーションに移動します。
2. 画面の右上隅にある [メニュー] > [切断] をタップします。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスからペアリングされた Avaya Connect Expansion Module アプリケーションを削除する

このタスクについて

デバイスを再割り当てまたは移動する場合、デバイスで Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスからペアリングされた Avaya Connect Expansion Module アプリケーションに関する情報を削除する必要がある場合があります。両方のアプリケーションが別々のデバイスにインストールされている場合は、すべてのペアリングを削除した後、Avaya Connect Expansion Module アプリケーションからの新しい接続リクエストによって検証コードを確認するよう求められます。

手順

1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。
2. [内線番号] > [ユーザー設定] > [拡張モジュール] をタップします。
3. [ペアリング済み拡張モジュール] をタップします。
4. [すべての拡張モジュール設定を削除する] をタップするか、削除する特定のアプリケーションをタップします。

Avaya Vantage™ によってペアリング情報が削除され、Avaya Connect Expansion Module アプリケーションとのアクティブな接続がすべて閉じられます。

Avaya Connect Expansion Module からすべてのペアリングされたデバイスを削除する

このタスクについて

デバイスを再割り当てまたは移動する場合、Avaya Connect Expansion Module アプリケーションからすべてのペアリングされたデバイスに関する情報を削除することが必要になることがあります。両方のアプリケーションが別々のデバイスにインストールされている場合は、すべてのペアリングを削除した後、Expansion Module アプリケーションからの接続リクエストによって検証コードを確認するよう求められます。

手順

1. Avaya Connect Expansion Module アプリケーションに移動します。
2. 画面の右上隅にある [メニュー] > [破棄] をタップします。

第 13 章: Avaya Spaces の Avaya Vantage™

Avaya Spaces はクラウドを基盤とするチームコラボレーションおよび会議アプリケーションです。音声、ビデオ、タスク、共有などがブラウザまたは Spaces アプリケーションにシームレスに統合されます。

Avaya Vantage™ には、メディア暗号化を無効にする必要があるロシアなどの地域を除いて、Avaya Spaces アプリケーションがインストールされています。

メニューバーの [Spaces] タブで、自分のスペースを作成できます。相手の電子メールアドレスを入力すると、自分のスペースに参加者を招待できます。自分のスペース内で実行する操作のタイプに応じて、参加者ごとに異なる権限を設定できます。スペースが多数ある場合は、利用頻度の高いものをお気に入りとして分類できます。

ドキュメントをプライベートで共有するほか、音声やビデオを使用したチャットをエスカレーションすることもできます。投稿エリアには、自分や同じチームの仲間が共有したドキュメントとファイルがすべて含まれています。投稿をクリックすると、コメントの作成、ファイルのダウンロード、その他のアイテムの添付（ドキュメントを編集の場合は改訂版など）が可能です。

自分のスペースのその他のメンバーにタスクを割り当てることができます。タスクとは、完了する必要のあることを指します。期日を設定したり、追加コメントを投稿することもできます。

メニューバーの [連絡先] タブで、他のユーザーとのプライベートな会話を開始できます。非公開チャットで、ドキュメントを共有したり、音声やビデオを使用したチャットをエスカレーションしたりできます。

この章では、Avaya Vantage™ で Avaya Spaces がサポートする Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスとその他の拡張機能との Avaya Spaces 統合について説明します。Spaces 会議室の管理と使用の詳細については、Avaya Spaces のユーザーマニュアルを参照してください。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスとの統合

Avaya Spaces は Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスと統合します。Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスは次のように使用できます。

- Avaya Spaces アプリケーションを開く
- [カレンダー] タブから Spaces 会議に参加する。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでのインタラクション

- Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでのアクティブな通話は、Avaya Spaces で通話を発信した場合は保留されます。
- Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで通話を発信または応答した場合は、Avaya Spaces アプリケーションでアクティブな通話が終了します。
- 最後に使用されたトランスデューサーは、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスと Avaya Spaces アプリケーション間で自動的に同期されます。

Avaya Spaces 通話と会議

Avaya Vantage™ では、Avaya Spaces を使用して次の操作を実行できます。

- ミーティングを開始する。
- 会議に参加する。
- Spaces 連絡先にデジタル通話を発信する。
- Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスを使用して Spaces 連絡先の電話番号に発信する。

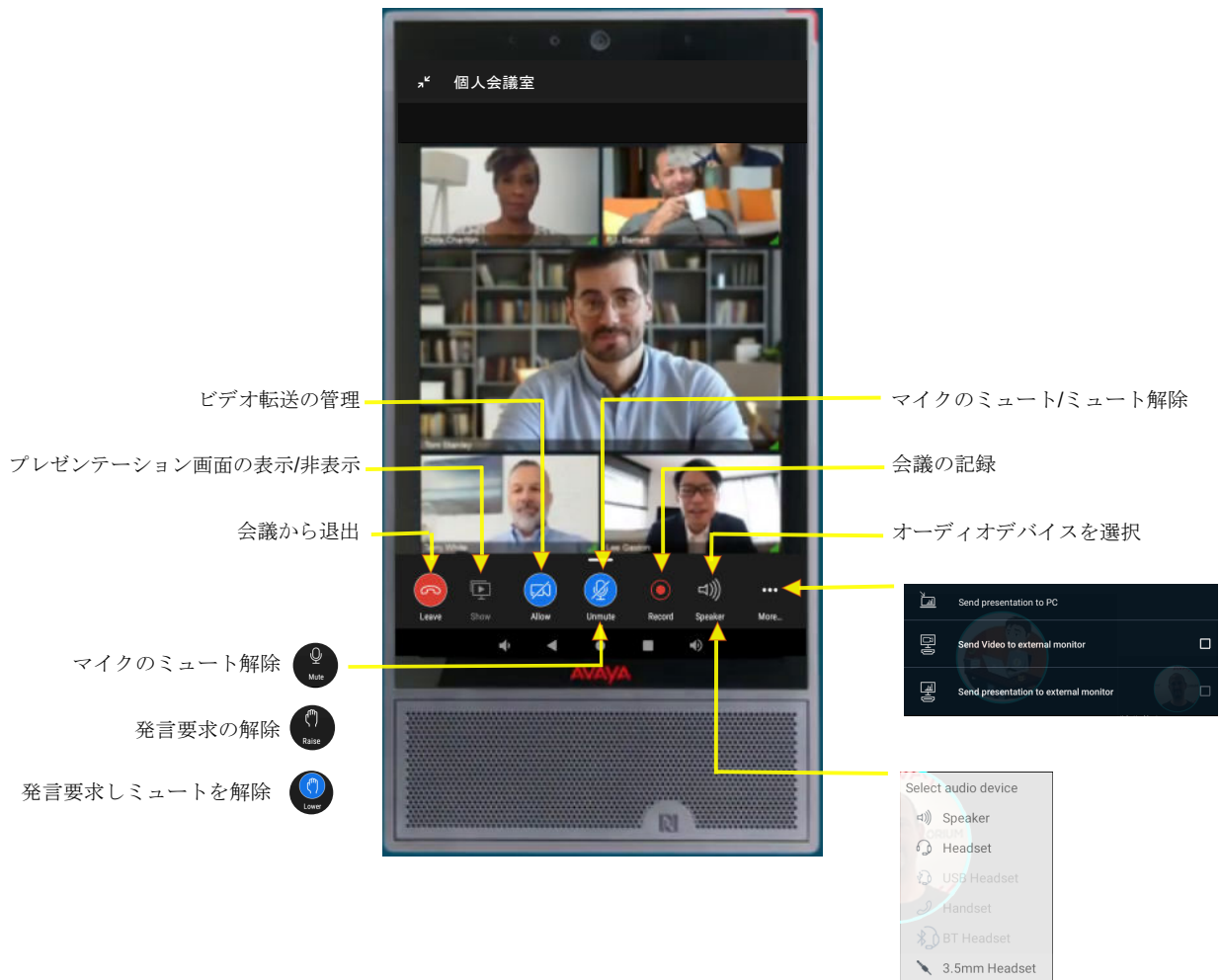
Avaya Vantage™ では、Avaya Spaces アプリケーションで次の通話および会議機能をサポートします。

- オーディオのミュート/ミュート解除、ビデオのブロック/ブロック解除、オーディオデバイスの選択、会議の記録、通話の終了などの会議制御。
- タスクの管理、参加者の表示、チャットを行うタブビュー。
- Spaces 通話や会議中に Avaya Vantage™ HDMI ポートを使用してビデオやプレゼンテーションを外部画面に送信する詳細オプション。
- Spaces 通話や会議中に、プレゼンテーションをパーソナルコンピュータ (PC) に送信して、コンピュータ画面からコンテンツを共有する詳細オプション。これを行うには、同じエンタープライズアカウントを使用して Avaya Spaces とお使いのコンピュータにログインします。
- Avaya Alexa がデバイスで利用可能な場合は、Avaya Alexa を使用して Spaces 会議に参加できます。

さらに、次を使用できます。

- Spaces での通話や会議での Avaya Vantage™ 有線またはワイヤレスハンドセット。
ワイヤレスハンドセットで [ミュート] ボタンを押すと、Avaya Spaces の UI には音声ミュートになっていることが表示されません。
- Avaya Vantage™ で入力に使用する Avaya Spaces の USB または Bluetooth キーボードとマウス。K155 では、入力に内蔵キーパッドを使用できます。
- K155 では、Avaya Spaces で [スピーカー] および [ヘッドセット] のハードキーをサポートします。これらのハードキーを使用して次の操作を実行できます。
 - Spaces デジタル通話に応答する。
ただし、通話がすでに Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスまたは Avaya Spaces でアクティブになっている場合、[スピーカー] または [ヘッドセット] のハードキーを使用して Spaces 通話に応答することはできません。アプリケーション UI を使用して着信通話に応答する必要があります。
 - 音声スピーカーまたはヘッドセットからルーティングされた場合、Spaces 通話または会議を終了する。
 - Spaces 通話または会議の最中に音声をスピーカーまたはヘッドセットにルーティングする。

Spaces 会議室




Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから Avaya Spaces を開く

このタスクについて

この手順を使用して、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから Avaya Spaces アプリを開きます。

手順

1. [ダイヤルパッド] タブをタップします。
2. 右下端で、 をタップして Avaya Spaces を開きます。

結果

Avaya Vantage™ がデバイスに Avaya Spaces アプリを開きます。

Avaya Vantage™ デバイスから Avaya Spaces を開く

このタスクについて

この手順を使用して、Avaya Vantage™ デバイスのホーム画面から Avaya Spaces アプリケーションに移動します。

手順

1. [ホーム] 画面で、[アプリケーション] をタップします。
2. Avaya Spaces アイコン () をタップします。

Avaya Spaces に新規登録する

このタスクについて

この手順を使用して Avaya Spaces に新規登録します。

手順

1. Avaya Spaces を開きます。
2. [サインインまたはアカウントの作成] をタップします。
Avaya Spaces Web ページにリダイレクトされます。
3. 勤務先電子メールアドレスを入力します。
または、Google、Office365、Salesforce、Avaya のアカウントを持っている場合、該当するアイコンをタップして、自分のアカウントの資格情報を使用して Avaya Spaces にログインできます。
4. [はい、登録します] をタップします。
電子メールアドレスを確認する電子メールが届きます。
5. 電子メールに記載されたステップに従ってアカウントの設定を完了します。

Avaya Spaces にログインする

このタスクについて

この手順を使用して、Avaya Spaces にログインします。

前提条件

Spaces に自分のアカウントがあることを確認します。

手順

1. Avaya Spaces を開きます。
2. [サインインまたはアカウントの作成] をタップします。

Avaya Spaces Web ページにリダイレクトされます。

3. 自分の電子メールアドレスを入力します。
または、Google、Office365、Salesforce、Avaya のアカウントを持っている場合、該当するアイコンをタップして、自分のアカウントの資格情報を使用して Avaya Spaces にログインできます。
4. [パスワード] フィールドに、パスワードを入力します。
5. (オプション) アプリケーションまたはブラウザでアカウント資格情報の保存を有効にするには、[ログインしたままにする] チェックボックスをオンにします。
6. [サインイン] をタップします。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスから Avaya Spaces 会議に参加する


このタスクについて

この手順を使用して、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでカレンダーから Avaya Spaces 会議に参加します。会議の招待状に Avaya Spaces 会議室へのリンクが含まれている場合に、Avaya Spaces で会議に参加できます。

前提条件

Avaya Spaces にログインしていることを確認します。

手順

1. Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで、[カレンダー] をタップします。
2. 参加する会議の横にある  をタップします。

結果

Avaya Vantage™ に Avaya Spaces アプリケーションが開きます。画面に「ビデオ通話を開始しています」というメッセージが表示されます。

Spaces 会議中制御を使用する

このタスクについて













Spaces 会議や通話の開始時またはその最中に、会議中制御を使用して通話を管理します。会議室の管理者の場合は、すべての参加者をミュートにし、参加者が会議の開始時または会議中に音声をミュート解除できないようにすることができます。管理者は Spaces のデスクトップまたは Web バージョンを使用して、会議の設定を設定する必要があります。

* 注

ビデオやプレゼンテーションの外部ディスプレイへの送信や、プレゼンテーションのパーソナルコンピュータ (PC) への送信など、一部の高度な制御は、Avaya Vantage™ の Avaya Spaces でのみ利用できます。

前提条件

Avaya Vantage™ で Spaces 会議が行われている必要があります。

- 音声をミュートまたはミュート解除するには、アクティブな Spaces 会議画面で、 または  をタップします。
- 管理者にミュート解除を通知するには、アクティブな Spaces 会議画面で、 をタップします。または、自分の名前の横にある  をタップして、[発言要求] を選択します。
管理者がミュート解除を許可している場合は、 をタップして音声のミュートを解除します。
- 管理者へのミュート解除の通知を停止するには、アクティブな Spaces 会議画面で、 をタップします。または、自分の名前の横にある  をタップして、[発言要求の解除] を選択します。
- ビデオをブロックまたはブロック解除するには、アクティブな Spaces 会議画面で、 または  をタップします。
- Space のタブを表示し、チャットウィンドウにアクセスしたり、参加者を表示したりするには、次の手順を実行します。
 1. アクティブな Spaces 会議画面で、内向き矢印アイコン () をタップします。
デフォルトでは、Avaya Spaces の [チャット] タブにチームビューまたは個人用スペースビューが表示されます。会議はバックグラウンドで続行されます。
 2. すべての参加者にメッセージを送信するには、[チャット] タブをタップします。
 3. 参加者を表示するには、[ユーザー] タブをタップします。
 4. ライブ会議画面に戻るには、右上隅にあるアクティブな会議のサムネイル画面またはフレームアイコン () をタップします。
- プレゼンテーションの PC や外部モニターへの送信など、高度な会議制御にアクセスするには、アクティブな Spaces 会議画面で  をタップします。
高度な会議制御の使用の詳細については、関連リンクの各トピックを参照してください。

通話中にオーディオデバイスを変更する

このタスクについて

デフォルトでは、Avaya Vantage™ はスピーカーを使用して音声を送信します。デバイスにヘッドセットがある、またはハンドセットを接続している場合は、通話中に使用するオーディオデバイスを選択できます。

この手順を使用して、通話中に別のオーディオデバイスを選択します。

手順

1. Avaya Vantage™ のアクティブな [通話] 画面で、アクティブなオーディオ変換器アイコンの横にある矢印 (▼) をタップします。
2. 接続しているオーディオデバイスのリストから、使用するオーディオデバイスをタップします。

Spaces 会議中に外部モニターにビデオやプレゼンテーションを送信する


このタスクについて

Spaces での通話や Avaya Vantage™ での会議中に、Avaya Vantage™ HDMI ポートを使用してビデオやプレゼンテーションを外部画面に送信できます。

前提条件

Avaya Vantage™ で Spaces 会議が行われている必要があります。

手順

1. Avaya Vantage™ マイクロ HDMI ポートを使用して Avaya Vantage™ デバイスを外部画面に接続します。
2. Avaya Vantage™ のアクティブな Spaces 会議画面で、 をタップします。
3. 次のいずれかを実行します。
 - [外部モニターへのビデオの送信] をタップ：外部画面にすべての通話参加者のビデオが表示されます。
 - [外部モニターへのプレゼンテーションの送信] をタップ：外部画面にプレゼンテーションが表示され、Avaya Vantage™ 画面にすべての通話参加者のビデオが表示されます。
 - [外部モニターへのビデオの送信] と [外部モニターへのプレゼンテーションの送信] をタップ：外部画面が半分に分割されます。画面の半分にプレゼンテーションが表示され、もう半分にすべての通話参加者のビデオが表示されます。

通話を管理するには、Avaya Vantage™ 画面のボタンを使用します。

Spaces 会議中に PC にプレゼンテーションを送信する

このタスクについて

Avaya Vantage™ での Spaces 会議中に、進行中のプレゼンテーションを PC に転送して、大きな画面で見ることができます。同じ手順で PC から共有を開始することもできます。

Avaya Vantage™ では PC から Avaya Vantage™ へのコミュニケーションをオフロードすることができます。そのため、Spaces 会議を PC にプレゼンテーションのみモードで拡張する場合、コンピュータ画面からコンテンツを簡単に共有できます。シンプルで直感的な機能で PC


にプレゼンテーションを送信したり PC から共有したりでき、表示する必要がある Avaya Vantage™ から会議に参加することもできます。

前提条件

次のことを確認してください。

- Avaya Vantage™ で Avaya Spaces へのログインに使用している同じエンタープライズアカウントを使用して PC にログインする。
- Avaya Vantage™ で Spaces 会議に参加しており、会議でプレゼンテーションを行っている。
- Spaces 会議室のメンバーに登録されている。ゲストとして会議に参加している場合は PC にプレゼンテーションを送信できません。

手順

1. Avaya Vantage™ のアクティブな Spaces 会議画面で、 をタップします。
2. [PC へのプレゼンテーションの送信] をタップします。

Avaya Vantage™ の Avaya Spaces に「送信された PC 通知にプレゼンテーションを送信します」というメッセージが表示されます。


同じエンタープライズアカウントを使ってログインしている PC のステータスバーに通知が表示されます。通知には会議室名と次のメッセージが表示されます。

クリックするとプレゼンテーションのみのセッションを開始します

3. PC の通知をクリックします。

Spaces 会議室がコンピュータのデフォルトの Web ブラウザで開き、プレゼンテーションのみモードで表示されます。会議でプレゼンテーションが進行中の場合は、Avaya Spaces が PC 画面にプレゼンテーションを表示します。Avaya Vantage™ は自動的にビデオを表示するように会議ビューを変更します。

必要に応じて、Avaya Vantage™ 画面に再びプレゼンテーションを表示できます。

4. (オプション) Avaya Vantage™ でプレゼンテーションを表示するには、Avaya Vantage™ 画面の  をタップします。
5. コンピュータ画面からコンテンツを表示するには、PC の会議室画面の [共有] をクリックします。



Spaces 会議を記録する

このタスクについて

会議室のメンバーまたは管理者の場合は、Spaces ライブ会議を記録できます。ゲストとして会議に参加する場合は、会議を記録できません。


会議記録は Space の [チャット] タブで利用できるようになっており、デスクトップ Web ブラウザから再生およびダウンロードできます。Avaya Vantage™ の Avaya Spaces から会議記録を表示およびダウンロードすることはできません。

手順

1. Avaya Vantage™ のアクティブな Spaces 会議画面で、 をタップします。
Avaya Spaces で会議記録が開始され、画面の右上に記録記号が表示されます。
2. 会議中に通話記録を停止するには、 をもう一度タップします。
記録の停止後、会議の再記録を開始できません。会議中に、いつでも記録を停止、再開できます。
記録は Space の [チャット] タブで利用できるようになっており、デスクトップ Web ブラウザからアクセスできます。会議中に記録を停止して再開した場合、Avaya Spaces では会議の 2 つの個別の記録が保存されます。

Spaces 会議から退出する

手順

1. アクティブな通話画面で、 をタップします。
2. [OK] をタップします。
Spaces が通話からユーザーを切断します。

Avaya Spaces デジタル通話

Avaya Vantage™ はクラウドソリューションの一部として Avaya Spaces でデジタル通話機能をサポートし、ビルトイン UC エクスペリエンスを補完します。Avaya Spaces デジタル通話では通話エクスペリエンスを強化し、変換器の選択と Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスとの統合を実現します。

Avaya Spaces のデジタル通話機能は、2 つの Spaces 連絡先間でオーバーザトップのポイントツーポイント通信として機能し、ビルトイン UC エクスペリエンスには依存しません。Spaces 連絡先にビデオ通話を発信できます。また、Avaya Spaces アカウントの連絡先に関連付けられている電話番号がある場合は、Spaces からビルトイン UC エクスペリエンスを利用して、連絡先の回線番号に発信できます。

 をタップすると、通話開始時または Spaces 通話中に使用する変換器を選択できます。デフォルトでは、Avaya Spaces または Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでの通話で最後に使用した変換器が、Avaya Spaces または Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでの以降の通話でアクティブな変換器として使用されます。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでの通話中に、Avaya Spaces の着信通話に応答すると、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでの通話は保留されます。逆に、Avaya Spaces での通話中に、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで通話に応答すると、その Avaya Spaces 通話は切断されます。

Spaces 連絡先に発信する

このタスクについて





次の手順を使用して、次のいずれかを行います。

- Spaces 連絡先にデジタル通話を発信する。
- Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスを使用して Spaces 連絡先の回線番号に発信する。


前提条件

Avaya Spaces と Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスにログインしていることを確認します。

手順

1. Avaya Spaces で、[ダイレクトメッセージ] をタップします。
Avaya Spaces に最近連絡した連絡先のリストが表示されます。
2. (オプション)  をタップして最近使用した連絡先リストで Spaces の連絡先を検索します。
3. 最近使用した連絡先リストにない Spaces 連絡先に発信するには、次を行います。
 - a. [ダイレクトメッセージ] で、 をタップします。
 - b. ダイアログボックスに、連絡先の名前を入力します。
Avaya Spaces に一致する名前のリストが表示されます。
4. 連絡先リストから、電話をかける相手を選択します。
Avaya Spaces に選択したユーザーのダイレクトスペースが表示されます。
5.  をタップして、選択した相手に Spaces デジタルビデオ通話を発信します。
通話の受信者は、Avaya Vantage™ デバイスで Spaces 通話アラートを受信します。
6.  をタップして、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスを使用して選択したユーザーの回線番号に発信します。

* 注

ビルトイン UC エクスペリエンス通話 () は、Avaya Spaces アカウントの連絡先に関連付けられている電話番号がある場合のみ使用できます。

電話番号を選択すると、ビルトイン UC エクスペリエンスに [ダイヤルパッド] 画面が表示されます。[ダイヤルパッド] 画面で、音声通話またはビデオ通話を発信するかどうかを選択できます。

関連リンク

[Avaya Spaces デジタル通話](#) (135 ページ)

Spaces デジタル通話に応答または拒否する


前提条件

Avaya Spaces にログオンしていることを確認します。

手順

Spaces デジタル通話アラートを受信したら、次のいずれかを選択します。

- [応答] : 通話に応答します。
- [拒否] : 通話を拒否します。

Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでの通話中に、Spaces 通話に応答すると、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスでの通話は保留されます。[ダイヤルパッド] で  をタップすると、Avaya Vantage™ ビルトイン UC エクスペリエンスで通話を再開できます。

関連リンク

[Avaya Spaces デジタル通話](#) (135 ページ)

第 14 章: 追加デバイス設定とカスタマイズオプション

この章では、デバイスで使用可能な、以下の主なカスタマイズオプションを説明しています。

- 音声設定を更新する
- カメラオプションを設定する
- メディア出力設定を設定する
- 応答不可モードを設定する
- デバイスの壁紙とスクリーンセーバーを変更する

この章では、エンドユーザーが変更できるデバイス設定のみについて説明しています。

Android の基本的設定方法の詳細については、https://support.google.com/android/topic/7313248?hl=en&ref_topic=7313240 を参照してください。

音声設定をアップデートする

このタスクについて

このセクションでは、ユーザーがアップデート可能なデバイスの音声設定について説明します。ビルトイン UC エクスペリエンスの [ユーザー設定] メニューから着信音を設定できます。

次のオーディオオプションを、[設定] > [サウンドとオーディオ] から設定します。

- スライダーを使用して、メディア、アラーム、着信の音量を調整します。
- 次の操作を実行して、通知とアラームのサウンドまたはトーンを変更します。
 1. [デフォルトの通知サウンド] または [デフォルトのアラームサウンド] をタップします。
 2. 通知やアラームで再生されるサウンドまたはトーンを選択します。

アラームや他の通知がミュートまたは無音でない場合、選択したサウンドが再生されます。
 3. [OK] をタップします。
- トグルスイッチを使用して、次のその他のサウンドを有効または無効にします。
 - [ダイヤルパッドのトーン]
 - [画面をロックするサウンド]

- [タッチサウンド]
- [詳細設定] エリアで、[オーディオ設定] をタップして、次を行います。
 1. ワイヤレスヘッドセットのヘッドセットポートで双方向信号を設定する必要がある場合、[ヘッドセットシグナル] をタップして、次のいずれかを選択します。
 - [スイッチフック&アラート]：接続したヘッドセットにオフフックイベントと着信アラートを DTMF メッセージとしてデバイスから送信する場合。
 - [スイッチフックのみ]：オフフックイベントのみを接続されたヘッドセットに送信する場合。
 - [なし]：有線ヘッドセットの場合。
 2. [自動ゲインコントロール (AGC)] をタップして、ハンドセット、ヘッドセット、またはスピーカーのオーディオ出力レベルを最適化します。
 3. [ヘッドセットプロファイル] をタップして、有線ヘッドセットのオーディオプロファイルを変更します。

サイレント Space のノイズ抑制

サイレント Space 機能を使用すると、通話中にマイクが拾う不要な背景雑音を抑制できます。サイレント Space では、ハンズフリーマイクを使用して環境内の周辺ノイズレベルを監視し、背景雑音を抑制するノイズゲート機能を実行します。Avaya Vantage™ では RJ9 および 3.5mm 有線ヘッドセット、有線ハンドセットでのサイレント Space 機能をサポートしていません。

デフォルトでは、Avaya Vantage™ でサイレント Space 機能は無効になっています。この機能は [設定] メニューから有効にできます。管理者はサイレント Space 機能を設定して、背景雑音の減衰を設定できます。デフォルトでは、減衰レベルは最小に設定されています。背景雑音の減衰レベルを変更するには、管理者にお問い合わせください。この機能を有効にすると、設定された減衰レベルに基づいて TX 音声品質が向上します。

Avaya Vantage™ では、通話中のサイレント Space 設定と減衰レベルの変更もサポートしています。これらの変更はすぐに反映されます。

注

RJ9 ヘッドセットでヘッドセットの双方向シグナリングが有効になっている場合、Avaya Vantage™ ではサイレント Space 機能は適用されません。

サイレント Space を有効にする

手順

1. [設定] > [サウンドとオーディオ] に移動します。
2. [詳細] > [オーディオ設定] をタップします。
3. [サイレント Space] トグルスイッチをタップして、サイレント Space を有効または無効にします。

ビデオの送信オプション

次のセクションでは、Avaya Vantage™ デバイスでカメラを有効および無効にするためのオプションについて説明します。カメラが内蔵されたデバイスを使用している場合、デバイスの緑色 LED インジケータは、カメラがオンで動作していることを示します。

カメラの仕様については、「[カメラの仕様](#) (25 ページ)」を参照してください。

カメラをオン/オフにする

このタスクについて

Avaya Vantage™ には管理者制御のカメラ設定があり、デバイス上の統合デジタルカメラまたはデバイスに接続された外付け USB カメラを有効または無効にします。管理者が設定を制御しますが、ユーザー側でカメラをオン/オフにすることもできます。カメラが有効になっている場合、このデジタルシャッターを使用することで、すべてのカメラ対応アプリケーションで、デバイスのカメラがビデオや画像をグローバルに送信するのを防ぐことができます。通話や会議の場合は、カメラをアクティブな通話や会議の開始時またはその最中にオンまたはオフにできます。




* 注

管理者は、カメラをオン/オフにできるように設定ファイルの CAMERASTAT パラメータを設定する必要があります。





前提条件

管理者がカメラをオン/オフにできることを確認します。

手順

1. 上部バーから下にスワイプすると、クイック設定オプションが表示されます。
2. (オプション) [カメラオン] () または [カメラオフ] () オプションが表示されない場合は、次を実行してクイック設定オプションに追加します。
 - a. クイック設定バーから再度下にスワイプします。
 - b.  をタップして編集モードに入ります。

[編集] ウィンドウには、上部パネルに現在表示されているクイック設定タイルが表示され、影付きの下部パネルには非表示のクイック設定タイルがあります。
 - c. タイルを表示するには、下部パネルでタイルを長押ししてドラッグし、上部パネルにドロップします。タイルを非表示するには、上部パネルでタイルを長押ししてドラッグし、下部パネルにドロップします。

たとえば、 または  アイコンをクイック設定オプションで利用できるようにするには、[デジタルシャッター] オプションを上部パネルにドラッグします。
3. カメラをオンにするには、 をタップします。
4. カメラをオフにするには、 をタップします。




カメラをオフにすると、Android アプリケーションでカメラからビデオを送信することはできませんが、他のユーザーからのビデオは表示できます。写真やビデオクリップの撮影もできません。

★ 注


カメラをオンまたはオフにすると、デバイス上の内蔵カメラと、デバイスに接続された外付け USB カメラに影響します。

カメラのオン/オフ状態

次の表では、管理者がデバイスのカメラ設定を制御可能な場合の、カメラのオン/オフ状態を示しています。

UI エLEMENTと制御	カメラオン状態	カメラオフ状態
カメラ対応アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> すべてのカメラ対応アプリケーションで、カメラがグローバルにオンになります。 アプリケーションは、カメラを通じて送信されたビデオを使用して実行されます。 クイック設定オプションからカメラをオフにできます。 	<ul style="list-style-type: none"> すべてのカメラ対応アプリケーションで、カメラがグローバルにオフになります。 アプリケーションは、カメラを通じて送信されたビデオなしで実行されます。 アプリケーションには、ユーザー側でカメラがオフになっていることを示すアイコンが表示されます。 クイック設定オプションからカメラをオンにできます。
アイコン	クイック設定オプションに、[カメラオン] アイコン  が表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> クイック設定オプションに、[カメラオフ] アイコン  が表示されます。 デバイスの画面の右上隅にカメラオフアイコン  が表示されます。
通知エリア	通知エリアに通知は表示されません。	デバイスに、「Avaya Vantage™ カメラは現在オフになっています」という進行中の削除できない通知が表示されます。
カメラのアクティビティ LED インジケータ	カメラのアクティビティ LED インジケータが緑色に点灯します。	カメラのアクティビティ LED インジケータは点灯しません。

次の表では、管理者がデバイスのカメラ設定を制御可能な場合の、カメラのオン/オフ状態を示しています。

UI エlementと制御	カメラオン状態	カメラオフ状態
カメラ対応アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> すべてのカメラ対応アプリケーションで、カメラがグローバルにオンになります。 アプリケーションは、カメラを通じて送信されたビデオを使用して実行されます。 クイック設定オプションからカメラをオフにすることはできません。 	<ul style="list-style-type: none"> すべてのカメラ対応アプリケーションで、カメラがグローバルにオフになります。 アプリケーションは、カメラを通じて送信されたビデオなしで実行されます。 アプリケーションには、ユーザー側でカメラがオフになっていることを示すアイコンが表示されます。 クイック設定オプションからカメラをオンにすることはできません。
アイコン	この [カメラオン] アイコンはクイック設定オプションでは使用できません。	<ul style="list-style-type: none"> この [カメラオフ] アイコンはクイック設定オプションでは使用できません。 デバイスの画面の右上隅にカメラオフアイコン  が表示されます。
通知エリア	通知エリアに通知は表示されません。	削除可能な通知、「管理者の設定によりカメラはオフになっています」が表示されます。
カメラのアクティビティ LED インジケータ	カメラのアクティビティ LED インジケータが緑色に点灯します。	カメラのアクティビティ LED インジケータは点灯しません。

K155 デバイスのキーパッドを使用して、ビデオを無効にする

このタスクについて

K155 デバイスで、キーパッドを使ってビデオをミュートまたは無効にできます。

手順

キーパッドで [ビデオのミュート] () ボタンを押してビデオを無効にします。

同じボタンを使用して、ビデオを再び有効にできます。

メディア出力設定

Avaya Vantage™ では、デフォルトで、(Android 対応変換アダプタの選択アルゴリズムに基づく) Android 設定規則を使用して、オーディオとメディアをデバイスに接続されたアクティブな変換器にルーティングします。YouTube などの Avaya Vantage™ やその他のメディアアプリケーションからのメディア出力をハンズフリースピーカーにルーティングするように Avaya Alexa デバイス設定を設定できます。メディア出力でハンズフリースピーカーを選択す

る場合、音声通話用に 3.5 mm のヘッドセットを接続し、ハンズフリースピーカーからメディア関連アプリケーションを再生できます。

メディア出力をハンズフリースピーカーに設定すると、次のようになります。

- すべてのメディア関連アプリケーションからのメディア出力は、ハンズフリースピーカーに送信されます。これは、3.5 mm ヘッドセット、Bluetooth ヘッドセット、USB ヘッドセット、HDMI などのその他の接続デバイスでも関係ありません。
- 内蔵マイクは音声キャプチャに使用されます。
- 通話音声は変わりません。
- 通話音声は、メディア出力設定に関係なく、Android 設定規則に従ってルーティングされます。

*** 注**

メディア出力設定は、メディア出力とマイク入力に影響します。

*** 注**

アクティブなメディア出力設定が、電源投入時と再起動時に常に保存されます。

メディア出力設定を設定する

このタスクについて

メディア出力設定を設定して、Avaya Alexa やその他のメディアアプリケーションからハンズフリースピーカーや Android 対応変換アダプタにメディア出力を送信します。

手順

1. [設定] > [サウンドとオーディオ] > [メディア出力] に進みます。
2. [メディア出力を選択] ダイアログボックスで、次のいずれかのメディア出力オプションを選択します。
 - [Android メディア出力] : 変換器を選択する場合に Android 設定規則に基づいて、メディア出力を変換器に自動的にルーティングします。これはデフォルト設定です。
 - [スピーカー] : メディア出力をハンズフリースピーカーに送信します。

応答不可モード

DND モードを通知エリアから有効または無効にする

このタスクについて

この手順を使用して Avaya Vantage™ デバイスで応答不可 (DND) モードを有効または無効にします。必要に応じて DND を使用してデバイスのサウンドを制限することができます。DND がオンの状態でも、発信や着信が可能です。通話に関する表示やその他のアラートは、デバイスに表示されます。

手順

1. DND モードをオンにするには、下方向にスワイプして通知エリアを開き、[応答不可] (🔕) をタップします。
2. DND モードをオフにするには、通知エリアで 🟢 をタップします。

DND の基本設定を [設定] メニューから変更する

このタスクについて

この手順を使用して、デバイスの [設定] メニューから、DND 設定を設定します。DND がオンになっている場合、ブロックおよび許可するオプションを選択できます。

手順

1. [設定] > [サウンドとオーディオ] > [応答不可] に進みます。
2. [動作] で、次の音声と通知をブロックまたは許可するオプションを選択します。
 - [音声と振動] : アラーム、メディア、タッチ音をブロックまたは許可します。
 - [通知] : 通知から音声のみ、または音声と表示の両方をブロックします。

* 注

どの設定でも、デバイスにシステムアクティビティとステータスに関する重要な通知が表示されます。

3. [警告] で DND がオンになっている場合に受信する次の通知を選択します。
 - [アラーム] と [イベント]。
 - [メッセージ] と [着信] : 着信やメッセージの通知について、誰からでも受け取る、連絡先からのみ受け取る、お気に入りの連絡先からのみ受け取る、誰からも受け取らないの中から選択できます。
 - [再着信の許可] : 同じ発呼者が 15 分以内に電話をかけてきた場合に、デバイスで着信音を鳴らすかどうかを選択できます。
4. DND モードの期間をオンに設定するには、[期間] をタップして、次のいずれかを選択します。
 - [オフにするまで]。
 - [1 時間] や [30 分] など、特定の時間。
 - [常に尋ねる]。
5. 特定の時間にデバイスを自動的にミュートにするには、[自動的にオンにする] をタップして、次のいずれかを実行します。
 - 利用可能なルールをオンにします。
たとえば、夜間にデバイスをミュートにするには、[スリープ] をオンにします。
 - 独自のルールを作成する。[ルールの追加] をタップしてから、[時間] または [イベント] をタップしてルールを作成します。要件に応じてルールを編集します。

壁紙を変更する

このタスクについて

この手順を使用して、Avaya Vantage™ デバイスのデフォルトの壁紙を変更します。管理者がダウンロードした壁紙や、デバイス上で利用可能なその他のイメージファイルを選択できます。

手順

1. 以下のいずれかを行います。
 - [設定] > [表示] > [壁紙] をタップします。
 - [ホーム] 画面を長押ししてから、[壁紙] をタップします。
2. 次のいずれかのオプションをタップします。
 - [ライブ壁紙]
 - [ギャラリー]
 - [壁紙]
3. 新しい壁紙の画像を選択してから、[壁紙の設定] をタップします。

スクリーンセーバーを設定する

このタスクについて

管理者は、デバイスにカスタムスクリーンセーバーを設定できます。管理者が [スクリーンセーバー] オプションを有効化している場合、この手順を使用して選択したスクリーンセーバーを選択できます。スクリーンセーバーにはお使いのデバイスのロックまたはスリープモード時に、写真、カラフルな背景、時計などを表示できます。



前提条件

次を確認してください。

- スクリーンセーバーの設定は変更できます。管理者は、この機能があるかどうかを判断します。
- デバイスのスリープ時間は [無効にする] には設定できません。

手順

1. [設定] > [表示] > [詳細] > [スクリーンセーバー] をタップします。
2. [現在のスクリーンセーバー] をタップします。
3. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - [時計] : スクリーンセーバーとしてデジタルまたはアナログの時計を表示します。
 - [Avaya スクリーンセーバー] : 管理者がスクリーンセーバーとして設定したカスタム画像を表示します。管理者がスクリーンセーバーを設定しなかった場合、このオプションを選択すると、スクリーンセーバーとして黒い画面が表示されます。
 - [色] : スクリーンセーバーとして変化する色を表示します。

- [写真テーブル]: スクリーンセーバーとしてデバイスに、ダウンロードやカメラなどの特定のアルバムのさまざまな写真のコラージュを表示します。
 - [写真フレーム]: スクリーンセーバーとしてデバイス上の特定のアルバムから一度に1つの画像を表示します。
4. (オプション) [時計] を選択した場合、時計のタイプを選択したり時計画面を暗くしたりするには、[現在のスクリーンセーバー] の横にある  をタップします。
 5. (オプション) [写真テーブル] または [写真フレーム] を選択した場合、写真ソースを選択するには、[現在のスクリーンセーバー] の横にある  をタップします。
 6. スクリーンセーバーを有効にするには、[起動時] > [常に] をタップします。

設定したスクリーンセーバーは、デバイスのロック時またはスリープモード時に表示されます。
 7. スクリーンセーバーをテストするには、[今すぐ起動] をタップします。

スクリーンセーバーをオフにする

手順

1. [設定] > [表示] > [詳細設定] > [スクリーンセーバー] をタップします。
2. [起動時] > [なし] をタップします。

日付、時刻、タイムゾーンの設定を変更する

このタスクについて

Avaya Vantage™ の時間設定を管理するには、この手順を使用します。デフォルトでは、Avaya Vantage™ は自動的に日付と時刻を設定します。日付と時刻は手動で設定することもできますが、このような手動の日付と時刻の変更はデバイスを再起動するまでの間のみ有効です。次にデバイスをオンにすると、ネットワークによって自動的に提供される日付と時刻が復元されます。

タイムゾーンと希望する時刻フォーマットを設定することもできます。タイムゾーンと時刻フォーマットの設定はデバイスを再起動した後も有効です。

手順

1. [設定] メニューに移動します。
2. [システム] > [日付と時刻] をタップします。
3. タイムゾーンを設定するには、[タイムゾーンの選択] をタップし、適切なタイムゾーンをタップします。
4. 時刻の表示フォーマットを設定するには、[時間形式] をタップし、次のいずれかを選択します。
 - [12 時間]
 - [24 時間]

5. (オプション) 日付と時刻を手動で設定するには、次の手順を実行します。

- a. [自動の日時] を無効にします。
- b. [日付の設定] をタップして日付を変更します。
- c. [設定時間] をタップして時刻を変更します。


このような手動の日付と時刻の変更はデバイスを再起動するまでの間のみ有効です。

クイック設定メニューをカスタマイズする

このタスクについて

クイック設定メニューでは、すばやくアクセスして Avaya Vantage™ デバイスのアプリケーションの設定をオン/オフにできます。タイルの位置を変更したり、メニューに表示されるタイルを選択したりできます。

手順

1. 上部バーから下にスワイプすると、クイック設定オプションが表示されます。
2. クイック設定バーから再度下にスワイプします。
3.  をタップして編集モードに入ります。

[編集] ウィンドウには、上部パネルに現在表示されているクイック設定タイルが表示され、影付きの下部パネルには非表示のクイック設定タイルがあります。

4. タイルを表示するには、下部パネルでタイルを長押ししてドラッグし、上部パネルにドロップします。タイルを非表示するには、上部パネルでタイルを長押ししてドラッグし、下部パネルにドロップします。
5. タイルの位置を変更するには、上部または下部パネルでタイルを長押ししてドラッグし、新たな位置にドロップします。

デバイスを再起動する

このタスクについて

新しいアップデートと設定を適用するために Avaya Vantage™ デバイスで手動の再起動が必要になることがあります。管理上の変更を適用するためにデバイスを再起動するよう求める通知が届くこともあります。たとえば、管理者が FIPS 高度セキュリティモードを有効または無効にすると、デバイスの再起動を求める通知が届きます。

手順

1. [設定] メニューに移動します。
2. [システム] > [リセットオプション] をタップします。
3. [再起動] をタップし、[可] をタップして確定します。

第 15 章: トラブルシューティング

この章では、デバイス設定を検証し、デバッグレポートを生成して、トラブルシューティングを行うために管理者と Avaya サポート担当者とのレポートを共有する方法について説明します。サポート担当者はデバッグレポートを使用することで、デバイスのオーディオおよびビデオの問題を診断できます。この章では、Avaya Vantage™ および Avaya Vantage™ UC ビルトイン UC エクスペリエンスに関連する既知の問題や回避策についても説明します。

デバイスの設定を確認する

このタスクについて

この手順を使用して、Avaya Vantage™ デバイスが適切に設定され、使用準備ができていることを確認します。

手順

1. [設定] > [デバッグオプション] > [設定検証] をタップします。
2. [設定検証] 画面で、次の設定アイテムをタップして検証の詳細を表示し、検証のステータスが「成功」になっていることを確認します。
 - [ネットワークステータス]: IP アドレスが定義されているかどうか、デバイスがネットワークに接続されているかどうかを確認します。
[ネットワークステータスの更新] をタップするとネットワークステータス情報を更新できます。
 - [DNS ステータス]: DNS サーバーが設定され、アクセス可能かどうかを確認します。
 - [日付と時刻]: SNTP サーバーが設定されアクセス可能であり、デバイスの時計が同期されているかどうかを確認します。
 - [ファイルサーバーステータス]: ファイルサーバーアドレスを設定元から受信し、ファイルサーバーにアクセス可能かどうかを確認します。
 - [ファイルダウンロードのステータス]: デバイスが Avaya Vantage™ ソフトウェアと設定ファイルをファイルサーバーから正常にダウンロードするかどうかを検証します。詳細情報には、アップグレードファイル、ソフトウェアイメージファイル、設定ファイル、信頼できる証明書、PKCS12 ファイル、サードパーティのアプリケーション制御ファイル、SSH ログインバナー、壁紙、スクリーンセーバーファイル、着信音など、さまざまな設定ファイルのダウンロードステータスが含まれます。
 - [AADS ステータス]: Avaya Aura® Device Services が設定され、アクセス可能かどうかを確認します。

セットアップで [を設定する際は、] 設定検証 Avaya Aura® Device Services 画面にはこのステータスのみ表示されます。このフィールドは Avaya Aura® 環境でのみ利用可能です。

- [SIP 設定ステータス]: SIP ドメインと SIP コントローラが設定されているかどうかを確認します。
- [ID 証明書ステータス]: ID 証明書が設定されているかどうかを検証します。
- [電話アプリケーションステータス]: Avaya Vantage™ ビルトインユニファイドコミュニケーションエクスペリエンスが正常に設定およびインストールされているかどうかを検証します。
- [管理者パスワードのステータス]: 管理者パスワードが正確に設定されているかどうかを確認します。管理者パスワードを使用すると、[設定] メニュー (Avaya Vantage™ 上) の管理者オプションにアクセスできます。
- [FIPS モードステータス]: FIPS モードが有効になっている場合に、デバイスが Avaya 暗号ライブラリの FIPS セルフテストに合格したかどうかを示します。デバイスで FIPS が現在サポートされている場合は、非標準のサービスがデバイスで実行されているかどうかの詳細ステータスに表示されます。詳細ステータスは、FIPS モードが有効になる前に ID 証明書がデバイスにインストールされたかどうかを示します。

セットアップで FIPS モードが有効になっている場合、[設定検証] 画面にはこのステータスのみが表示されます。

- [カメラステータス]: デバイス用カメラが有効かどうかを確認します。
3. 任意の設定アイテムの詳細を確認するには、該当アイテムをタップしてください。

設定検証に設定の詳細とステータスが表示されます。ステータスが [通知] または [失敗] の場合、設定検証に可能性のある設定失敗の理由が表示されます。設定が正しい場合でも、ネットワーク接続の問題により検証に失敗することがあります。

デバイス設定情報を共有する

このタスクについて

この手順を使用して、管理者の [設定検証] の画面キャプチャを共有します。これは、設定情報が不足している場合に便利です。メイン画面を共有することも、リストの項目をタップして詳細な画面キャプチャを共有することもできます。たとえば、「失敗」ステータスの項目の詳細を共有する必要があることがあります。

手順

1. [設定] > [デバッグオプション] > [設定検証] をタップします。
2. 画面の右上隅にあるメニューから、[共有] をタップして、[設定検証] 画面をキャプチャして共有します。
3. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - [Bluetooth 経由で送信]: Bluetooth ファイル転送を使用して画面キャプチャを別のデバイスに送信します。
 - [外部 USB ストレージデバイスに保存]: 画面キャプチャを USB デバイスに保存します。管理者に画面キャプチャを送信する必要があります。

デバッグレポートを生成する

このタスクについて

この手順を使用して、詳細なイベントログと音声ログを取得するデバッグレポートを生成します。これらのレポートをサポート担当者と共有することで、デバイスの問題を診断およびトラブルシューティングできます。

Avaya Vantage™ ではレポートはデバイスの内蔵フラッシュメモリに保存されます。また、USB 大容量ストレージデバイスや HTTP または HTTPS サーバーにコピーを保存することもできます。

デバッグレポートを生成すると、Avaya Vantage™ は既存のレポートを上書きします（該当する場合）。このレポートは最大 14 日間、内蔵フラッシュメモリで利用できます。

Avaya Vantage™ は、ユーザーが作成または管理者が設定したパスワードを使用してデバッグレポートを暗号化します。暗号化パスワードは、1 文字以上、20 文字以内の英数字のパスワードにする必要があります。デバッグレポートを生成する際に使用するパスワードを覚えておいてください。レポートを復号化するには、この暗号化パスワードをサポート担当者と共有する必要があります。

前提条件

レポートを USB 大容量ストレージデバイスに保存するには、Avaya Vantage™ デバイスの右側の汎用 USB Type-C ポートに接続します。USB 大容量ストレージデバイスが Type-A の場合は、USB Type-C to Type-A アダプタが必要です。

手順

1. [設定] > [デバッグオプション] に進みます。
2. 次のいずれかをタップします。
 - [デバッグレポートの生成]：詳細なイベントログと音声ログを含むデバッグレポート。
 - [音声レポートの生成]：音声ログのみを含む音声デバッグレポート。
3. (オプション) [デバッグレポート] または [音声レポート] ページで、必要に応じて次の情報を入力します。
 - [問題に気づいた日付を選択]
 - [問題に気づいた時間を選択]
 - [問題を選択]
 - [問題の説明]
4. レポートを暗号化および復号化するためのパスワードを入力します。

暗号化パスワードは、1 文字以上、20 文字以内の英数字のパスワードにする必要があります。

管理者がパスワードを事前に設定している場合は、自動的に入力され、フィールドがマスク表示されます。事前設定されたパスワードを変更することはできません。
5. 次のレポート保存先のいずれかを選択します。
 - [内蔵フラッシュメモリ]
 - [HTTP/S ファイルサーバー]

- [USB フラッシュドライブ]

[USB フラッシュドライブ] オプションは、USB 大容量ストレージデバイスがすでに Avaya Vantage™ に接続されている場合にのみ使用できます。

K155 で下にスクロールして表示し、オプションを選択します。

+ ヒント

レポートを簡単にコピーして共有するには、Avaya では [HTTP/S ファイルサーバー] または [USB フラッシュドライブ] オプションを選択してレポートを保存することをお勧めします。

6. (オプション) [HTTP/S ファイルサーバー] オプションを選択した場合は、HTTP または HTTPS サーバーアドレスを入力し、サーバー認証が必要な場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。

管理者が HTTP または HTTPS サーバーを事前に設定している場合、サーバーの詳細は各フィールドに自動的に入力されます。これらの値は変更できます。

手動で入力した HTTP または HTTPS サーバーの詳細は、次のデバッグまたは音声レポート用に保存されます。これらの詳細は変更できます。

7. [生成] をタップします。

Avaya Vantage™ では次のファイル形式でレポートを生成し、/mnt/sdcard/AvayaVantageLogs の内蔵フラッシュメモリに格納します。

- デバッグレポート : `debugreport-<device serial number and timestamp>.tar.gz.enc`
- 音声レポート : `media_report-<device serial number and timestamp>.tar.gz.enc`

USB フラッシュドライブまたは HTTP/S オプションを選択すると、レポートのコピーが選択した保存先に保存されます。

8. (オプション) Android 共有を使用してレポートを共有するには、[デバッグレポートの生成] または [音声レポートの生成] の横にある ◀ をクリックして、利用可能なオプションのいずれかを選択します。

- [Android Beam] : NFC を使用してファイルを携帯電話と共有します。
- [周辺共有] : 近くの Android デバイスとファイルを共有します。両方のデバイスで、Google アカウントを使用してサインインする必要があります。
- 電子メールクライアント : Gmail などの電子メールクライアントがデバイスにインストールされている場合は、電子メールクライアントを使用してファイルを共有します。

電子メールクライアントには添付ファイルのファイルサイズ制限があります。たとえば、Gmail のファイルサイズは 25 MB に制限されています。

第 16 章: リソース

ドキュメント

以下の関連ドキュメントは、<https://support.avaya.com> と <https://documentation.avaya.com> でご覧いただけます。

タイトル	ドキュメントの使用目的	対象ユーザー
使用方法		
次でサードパーティアプリケーションを使用する Avaya Vantage™	Avaya Vantage™ でサポートされるサードパーティのコミュニケーションアプリケーションについて学びます。	エンドユーザー
インストールと管理		
<i>Installing and Administering Avaya Vantage™ in an Avaya Aura® or IP Office Environment</i>	Avaya Vantage™ を Avaya Aura® または IP Office 環境にインストール、設定、維持する。	実務担当者と管理者
<i>Installing and Administering Avaya Vantage™ in an Open SIP Environment</i>	Avaya Vantage™ を Open SIP 環境にインストール、設定、維持する。	実務担当者と管理者

Avaya サポート Web サイトでドキュメントを検索

手順

1. <https://support.avaya.com> に進みます。
2. スクリーン上部に、ユーザー名とパスワードを入力し、[Login] をクリックします。
3. [Support by Product] > [Documents] をクリックします。
4. [Enter your Product Here] に製品名を入力し、対象製品をリストから選択します。
5. [Choose Release] で、適切なリリース番号を選択します。
製品のリリースが1つしかない場合、[Choose Release] フィールドは使用できません。
6. [Content Type] フィルターでドキュメントタイプをクリックするか、[Select All] をクリックして、使用可能なドキュメント一覧を表示します。
たとえば、ユーザーガイドの場合は、[User Guides] フィルターで [Content Type] をクリックします。リストには、選択したカテゴリのドキュメントのみが一覧表示されません。

7. [Enter] をクリックします。

Avaya ドキュメントセンターのナビゲーション

一部のプログラムでは、最新のカスタマー向けドキュメントが Avaya ドキュメントセンター Web サイト (<https://documentation.avaya.com>) から入手できるようになりました。

❗ 重要

Avaya ドキュメントセンター から入手できないドキュメントについては、トップメニューで [その他のサイト] > [サポート] をクリックして <https://support.avaya.com> を開きます。

Avaya ドキュメントセンター を使用すると、次のことができます。

- キーワードを検索します。
製品でフィルタリングするには、[フィルタ] をクリックして製品を選択します。
- ドキュメントを検索します。
[製品およびソリューション] から、ソリューションカテゴリと製品を選択し、リストから該当するドキュメントを選択する。
- 検索結果ページでドキュメントを並べ替えます。
- [言語] (🌐) をクリックして表示言語を変更するとローカライズされたドキュメントが表示されます。
- PDF の現在のセクション、セクションとそのサブセクション、またはドキュメント全体を公開します。
- [マイドキュメント] (☆) を使用してコレクションにコンテンツを追加します。
[コンテンツの管理] > [お気に入り] メニューに進み、次のいずれかを行います。
 - コレクションを作成、名前変更、削除する。
 - さまざまなドキュメントのトピックをコレクションに追加する。
 - 選択したコンテンツの PDF をコレクションに保存し、コンピュータにダウンロードする。
 - 電子メールで他のユーザーとコレクションのコンテンツを共有する。
 - 他のユーザーと共有したコレクションを受信する。
- [監視] アイコン (👁) を使用して自分自身をウォッチャーに追加します。
[コンテンツの管理] > [ウォッチリスト] メニューに進み、次のいずれかを行います。
 - [電子メール通知に含める] を有効にして電子メールアラートを受信する。
 - 選択したコンテンツ、ドキュメントのすべてのコンテンツ、または [ウォッチリスト] ページのすべてのコンテンツの監視を解除する。

ドキュメントからコンテンツが更新または削除されたとき、またはドキュメントが Web サイトから削除されたときに、ウォッチャーとして通知されます。

- Facebook、LinkedIn、Twitter などのソーシャルメディアプラットフォームのセクションを共有します。
- セクションに関するフィードバックを送信し、コンテンツを評価します。

*** 注**

一部の機能は、Web サイトへのログイン時にのみ使用できます。使用可能な機能は役割によって異なります。

Avaya Mentor Videos の表示

Avaya Mentor Videos は、Avaya 製品のインストール、設定、およびトラブルシューティングの方法に関する技術的な内容を提供します。

このタスクについて

ビデオは、Avaya サポート Web サイトでビデオドキュメントタイプの下に表示される一覧から、および Avaya が運営する YouTube チャンネルで入手できます。

- Avaya サポート Web サイトでビデオを検索するには、<https://support.avaya.com/> にアクセスして、次の操作のいずれかを実行します。
 - [Search] に、「Avaya Mentor Videos」と入力し、[すべてクリア] をクリックし [Content Type] の [Video] を選択します。
 - [Search] に製品名を入力します。[Search Results] ページで、[すべてクリア] をクリックし [Content Type] の [Video] を選択します。
- [Video] コンテンツタイプは、その製品でビデオが利用できる場合にのみ表示されません。

ページの右側のペインに、利用可能なビデオのリストが表示されます。

- Avaya Mentor ビデオを YouTube で検索するには、www.youtube.com/AvayaMentor にアクセスして、次の操作のいずれかを実行します。
 - [チャンネルを検索] チャンネルにキーワードを入力して、特定の製品またはトピックを検索します。
 - [再生リスト] までスクロールし、トピックの名前をクリックすると、そのトピックで利用できるビデオのリストが表示されます（コンタクトセンターなど）。

*** 注**

ビデオはすべての製品に提供されているわけではありません。

サポート

最新のドキュメント、製品に関する通知、ナレッジ記事を入手するには、Avaya サポート Web サイト (<https://support.avaya.com>) にアクセスしてください。リリースノート、ダウンロード、および問題の解決も検索できます。オンラインサービス要求システムを使用して、サービス要求を作成します。ライブエージェントとチャットをして問題の解決を入手するか、問題が

さらに専門知識を必要とする場合はサポートチームに接続してもらうようにエージェントに要求します。

Avaya InSite Knowledge Base を使用する

Avaya InSite Knowledge Base は、Web ベースの検索エンジンで以下を提供します。

- 最新のトラブルシューティング手順と技術的ヒント
- サービスパックに関する情報
- カスタマー/テクニカルドキュメントへのアクセス
- トレーニング/認定プログラムに関する情報
- その他の関連する情報へのリンク

正規の Avaya パートナーまたはサポート契約のある現行の Avaya カスタマーである場合は、無償でナレッジベースにアクセスできます。ログインアカウントと有効な Sold-To 番号が必要です。

問題に対するソリューションを利用するには、Avaya InSite Knowledge Base を使用します。

1. <http://www.avaya.com/support> に進みます。
2. 有効な Avaya ユーザー ID とパスワードを使用して、Avaya の Web サイトにログオンします。
[Avaya Support] ページが表示されます。
3. [Support by Product] > [Product-specific Support] をクリックします。
4. [Enter Product Name] で製品名を入力して、Enter キーを押します。
5. リストから製品を選択し、リリースを選択します。
6. [Technical Solutions] タブをクリックして記事を表示します。
7. 関連する記事を選択します。

索引

数字

2 番目の通話	71
2 番目の通話を発信する	71

A

Avaya Connect Expansion Module	
Avaya Vantage と接続する	109
Avaya Vantage ビルトイン UC エクスペリエンスから切断する	125
IP アドレスを使用して接続する	113
同じデバイス上にある場合の接続方法	111
概要	105
周辺デバイスに接続する	112
すべてのペアリングされたデバイスを削除する	126
接続オプション	107, 109
ペアリングされたデバイスに接続する	114
Avaya Connect 拡張モジュールから切断する	125
Avaya Equinox Conferencing	
Avaya Vantage ビルトイン UC エクスペリエンス経由の参加	83
ゲストとして参加する	85
Avaya Equinox Conferencing 会議に参加する	85
Avaya Equinox Meeting Online	
ゲストとして参加する	85
Avaya Smart Lock	55
有効にする	56
Avaya Spaces	
会議制御	131
会議の記録	134
会議の終了	135
概要	127
カレンダータブから会議に参加する	131
新規登録	130
開く	129, 130
ログイン	130
Avaya Vantage	
SSO でログインする	51
ウォールプレートで壁掛けする	41
拡張モジュールのサポート	105
拡張モジュールを有効にする	110
壁掛け	39
ネットワークに接続する	32
ハンドセットクレイドルを壁に取り付ける	43
reboot	147
ログアウト	52
ログイン	50
Avaya Vantage デバイス	
Avaya Spaces を開く	130
Avaya Vantage デバイスレイアウト	
K155	15
K175	14
Avaya Vantage の概要	13
Avaya Vantage ビルトイン UC エクスペリエンス	

Avaya Vantage ビルトイン UC エクスペリエンス (続き)	
Avaya Spaces を開く	129
通知設定	103
ペアリングされた拡張モジュールを削除する	125
Avaya Vantage を開始する	32
Avaya Vantage をネットワークに接続する	32
Avaya Installation Wizard	33
Avaya サポート Web サイト	154

B

BLA	79, 119
BLA コール	79, 119, 120
Bluetooth	55, 57
BroadSoft 連絡先検索	92

D

DES 検出	32
DND モードを無効にする	143
DND モードを有効にする	143
DND をオンにする	143
Documentation Portal	153
コンテンツを見つける	153
ナビゲーション	153
DTMF 番号	75

E

Exchange カレンダー	
ログイン	53

G

Google Play ストアへのアクセス	46
-----------------------------	--------------------

H

HDMI 接続	45
---------------	--------------------

I

IM 会話から退出する	102
InSite Knowledge Base	155
IP Office 連絡先検索	91
IP アドレス	
確認	114

K

K155	
ビデオミュート	142

P

PC にプレゼンテーションを送信する Spaces 会議	133
---------------------------------	-----

S

Smart Lock	55, 57
smart lock	50
Smart Lock が有効な場合ロックする	57
Spaces	
会議制御	131
会議の終了	135
Spaces UC エクスペリエンス通話	135
Spaces 会議	
PC にプレゼンテーションを送信する	133
外部モニターにビデオを送信する	133
外部モニターにプレゼンテーションを送信する	133
通話記録	134
Spaces 会議からの退出	135
Spaces 会議機能	128
Spaces 会議に参加する	
ビルトイン UC エクスペリエンスから	131
Spaces 会議の終了	135
Spaces デジタル通話	135

U

USB カメラの仕様	26
------------	----

W

Wi-Fi 設定	35
Wi-Fi ネットワーク設定	35

あ

アクティブコール	
外部モニターにビデオを送信する	78
外部モニターにプレゼンテーションを送信する	78
番号を入力する	75
アプリケーション	13
アプリケーションインストール	46
アプリケーションのインストール	46
アプリケーションをインストールする	
Google Play ストア	47

い

インスタントメッセージ	99
会話から退出する	102
既読にする	101
件名を追加する	100
件名を編集する	100
受信メッセージアラートを処理する	101
新規の会話を開始する	100
通知設定	103
通話にエスカレーションする	102

インスタントメッセージを送信する	100
インストールウィザード	33
インストールウィザードを使用したデバイスの設定	33
インストールウィザードを使用して設定する	33

う

ウォッチリスト	153
---------	-----

え

エスカレーション	
インスタントメッセージを通話に	102

お

応答不可	73, 74, 144
無効にする	143
有効にする	143
応答不可設定	
設定	144
お気に入りの連絡先	93
オーディオ	
HDMI 接続を通じてルーティングする	45
オーディオデバイス	
変更する	132
オーディオデバイスを選択する	77, 132
オーディオデバイスを変更する	132
オプションのコンポーネント	18
オプションを保存	
連絡先	94
オフフックダイヤル	71
音声およびビデオ設定	
会議	86
音声設定	
デバイス	138

か

会議制御	
Avaya Spaces	131
会議通話を開始する	82
会議に参加する	86
会議の基本設定	
オーディオとビデオ	86
会議の参加者	
表示	86
外部モニター	
HDMI から接続する	45
外部モニターにビデオを送信する	
Spaces 会議	133
ビルトイン UC エクスペリエンスでの通話	78
外部モニターにプレゼンテーションを送信する	
Spaces 会議	133
ビルトイン UC エクスペリエンスでの通話	78
概要	13
拡張コールピックアップ	122
拡張モジュール	
Avaya Vantage でサービスを有効にする	110

拡張モジュール (続き)	
Avaya Vantage ビルトイン UC エクスペリエンスから切断する	125
Avaya Vantage ビルトイン UC エクスペリエンスと接続する	107
BLA	119
IP アドレスを使用して接続する	113
同じデバイスにある複数のアプリケーションを切り替える	115
概要	105
機能にアクセスする	115
サポートされる機能ボタン	105
周辺デバイスに接続する	112
すべてのペアリングされたデバイスを削除する	126
接続オプション	107, 109
ダークテーマを有効にする	125
ナビゲーション画面	106
ビデオ通話を有効にする	115
複数の接続サポート	107
ペアリングされたデバイスに接続する	114
ボタンの場所を変更する	124
ボタンのラベルを変更する	124
拡張モジュールサービスを有効にする	110
拡張モジュールと接続する	
同じデバイスで実行されている場合	111
拡張モジュールとの接続	107
拡張モジュールのボタンのラベルを変更する	124
拡張モジュールを接続する	
IP アドレスを使用する	113
周辺デバイスに	112
ペアリングされたデバイスに	114
カスタマイズ	138
壁掛け	39
電話ウォールプレートで	41
ネジで	39
ハンドセットクレイドルを	43
壁紙を変更する	145
カメラ	25, 26, 140
無効にする	140
有効にする	140
カメラステータス	140
カメラ設定	140
カメラのオン/オフの動作	141
カメラのオン/オフの比較	141
画面のナビゲーション	58
画面ロック	53
カレンダータブ	
Exchange Server にログインする	53
会議に参加する	86
カレンダーの会議	
通知アラート	86
環境仕様	29
監視対象の内線番号	123
着信呼	123
通話に応答する	123
通話を発信する	123
監視対象の内線番号にダイヤルする	123
監視対象の内線番号に電話をかける	123
監視対象の内線番号に発信する	123
関連ドキュメント	152
き	
機能	
緊急通話	68
機能の比較	18
機能ボタン	
アクセス	115
基本的な操作	50
共有	
設定検証	149
デバイスの設定	149
緊急通話	68, 69
緊急通話を発信する	69
く	
クイック設定メニュー	
カスタマイズ	147
クイック設定メニューをカスタマイズする	147
グループコールピックアップ	122
け	
携帯内線	
アクティブ化する	74
こ	
高度な不在転送	118
コネクタとコントロール	16
このリリースの新機能	19
コールパーク	116
コールピックアップ	121
拡張	122
グループ	122
指定	122
コレクション	
PDF の生成	153
コンテンツの共有	153
削除	153
名前の編集	153
コンタクト	
名前を付けて作成	94
名前を付けて保存	94
コンタクトの削除	91
コンテンツ	
PDF 出力の公開	153
アップデートの監視	153
共有する	153
検索する	153
最終更新日で並べ替え	153
コンテンツの共有	153
コンテンツの検索	153

さ

再起動通知	147
最終更新日でドキュメントを並べ替える	153
サイレント Space	139
サイレント Space を有効にする	139
サウンド	138
サードパーティアプリケーションのインストール	
USB フラッシュドライブ	48
Web サイト	48
サードパーティアプリケーションストア	47
電子メール	48
サポート	154
サポートされているアクセサリ	22
サポートされているアプリケーション	13

し

時間設定	146
システム連絡先	93
システム連絡先を個人用連絡先として保存する	93
指定コールピックアップ	122
自動コールバック	
有効にする	119
自動ロック解除	55
手動の再起動	147
手動ロック	54
手動ロック解除	54
仕様	22
USB カメラ	26
カメラ	25
環境	29
ワイヤレスハンドセット	26
上司	119
新規の会話を開始する	100
信頼できる Bluetooth デバイス	57
信頼できるデバイス	57

す

スクリーンセーバー	
オフにする	146
設定	145
スクリーンセーバーをオフにする	146
スクリーンセーバーを設定する	145
スタートアップ	50
すべての通話をボイスメールに転送	73, 74
すべてのペアリングを削除する	
Avaya Vantage ビルトイン UC エクスペリエンス	125
拡張モジュール	126

せ

接続	
有線ハンドセット	37
接続する	
ハンドセットクレイドル	36
ワイヤレスハンドセット	37
接続方法	

接続方法 (続き)

拡張モジュール	109
設定	
応答不可	144
設定確認ツール	148
設定の確認	148
設定を共有する	149
セットアップ	
デバイス	31

そ

ソフトウェア仕様	22
----------	----

た

タイムゾーン設定	146
ダークテーマを有効にする	125

ち

チーム監視	123
チームボタン	123
通話に応答する	123
通話を発信する	123
着信音	
既定の着信音の変更	77

つ

追加	
システム連絡先を個人用連絡先として	93
ツイニング	
アクティブ化する	74
通知	
応答不可	143
通知設定	
ビルトイン UC エクスペリエンス	103
通話	
2 番目の通話を発信する	71
Spaces デジタル通話に回答または拒否する	137
Spaces で発信する	136
応答する	72
お気に入りから発信する	70
緊急通話を発信する	69
終了	81
ダイヤルパッドを使用して発信する	69
通話間で移動する	76
通話へのビデオの追加	77
通話履歴を使用して発信する	70
転送する	76
優先通話を発信する	116
連絡先から発信する	70
通話管理	66
通話記録	
Spaces 会議	134
通話コントロール	29
通話制御のサポート	

通話制御のサポート (続き)	
USB および Bluetooth ヘッドセット	29
通話制御を備えた Bluetooth ヘッドセット	29
通話制御を備えた USB ヘッドセット	29
通話制御を備えたモデル	29
通話転送	
不応答転送	76
通話に応答しない	72
通話に応答する	72
拡張コールピックアップ	122
監視対象の内線番号	123
グループコールピックアップ	122
チームボタン	123
別の内線番号の	122
通話に応答または拒否する	
Spaces を使用する	137
通話に参加者を追加する	82
通話の再開	76
通話の転送	74
詳細	118
全発信	117
話中または不応答	117
通話の保留	76
通話のミュート	75
通話のミュート解除	75
通話履歴	
削除する	81
表示	80
通話履歴の削除	81
通話履歴を表示する	80
通話を会議に結合する	82
通話を拒否する	72
通話を切り替える	76
通話を転送する	74 , 117
詳細	118
内線通話と外線通話	118
話中	117
不応答	117
通話をパーク解除する	117
通話をパークする	116
通話をピックアップする	
拡張グループ	122
グループ	122
通話をボイスメールに転送する	118
通話を無視する	73
て	
デジタルシャッター	140
デバイス設定	138
設定の確認	148
デバイスの IP アドレス	
確認	114
デバイスの IP アドレスを検索する	114
デバイスの概要	13
デバイスの仕様	22
デバイスレイアウト	
Avaya Vantage K155	15
K175 標準 Avaya Vantage デバイス	14
デバイスを再起動する	147
デバイスをペアリングする	55
デバッグレポート	
生成する	150
既定の着信音の変更	77
電源	31
電話会議	82
通話を会議に結合する	82
と	
同時呼び出しをアクティブ化する	74
ドキュメントセンター	153
コンテンツを見つける	153
ナビゲーション	153
ドキュメントセンターでコンテンツを見つける	153
ドキュメントの変更	11
トラブルシューティング	148
トーン	138
な	
内線通話を転送する	118
ナビゲーション	
ビルトイン UC エクスペリエンス	58
ナビゲーション画面	106
名前を付けて連絡先を新規作成	94
ね	
ネットワーク接続	32
の	
ノイズ抑制	139
は	
背景雑音	139
パーク解除	117
発信する	
Spaces を使用する	136
通話を発信する	
お気に入りリストを使用する	70
オフフックダイヤル	71
ダイヤルパッドを使用する	69
通話履歴を使用する	70
連絡先リストを使用する	70
ハードウェア仕様	22
ハードウェアリリースの比較	18
番号登録コード	32
番号をリダイヤルする	72
ハンズフリースピーカーをメディア出力として選択	142
ハンドセット	
接続中	35
接続	37
ワイヤレス	37 , 38
ハンドセットクレイドル	

ハンドセットクレイドル (続き)	
デバイスに接続する	36
ひ	
比較	
2.x 対 3.x	18
Avaya Vantage ハードウェアリリース	18
秘書	119
日付と時刻	
変更する	146
日付と時刻を変更する	146
ビデオ	154
通話へのビデオの追加	77
ブロックおよび再開	77
無効	140
有効	140
ビデオ通話	
拡張モジュールの有効化	115
ビデオ通話を有効にする	
拡張モジュールから	115
ビデオ転送	140
ビデオの仕様	25
ビデオの一時停止	
K155	142
ビデオミュート	
K155	142
ビデオを無効にする	
K155 キーパッド	142
表示	
会議の参加者	86
壁紙を変更する	145
スクリーンセーバーを設定する	145
メディア出力を設定する	143
表示画面	
スクリーンセーバーをオフにする	146
ビルトイン UC エクスペリエンス	
インスタントメッセージ	99
通知設定	103
ナビゲーション	58
ログアウト	52
ログイン	50
ふ	
ブリッジ回線機能	79 , 119
ブリッジ回線で電話をかける	119
ブリッジ回線の通話に回答する	79 , 120
ブリッジコールに参加する	79 , 120
ブリッジ回線で電話をかける	119
ブリッジコールに回答する	79 , 120
ブリッジコールに参加する	79 , 120
プレゼンス	
ユーザー	96
プレゼンスステータス	97
自動的に退席中に設定	97
手動で変更する	96
プレゼンスステータスの変更	96

へ

ペアリングされた拡張モジュール	
Avaya Vantage ビルトイン UC エクスペリエンスから	
削除する	125
ペアリングされた拡張モジュールを削除する	125
ペアリングされたワイヤレスハンドセットを削除する ...	38
変換器	
変更する	132

ほ

ボイスメール	
アクセス	80
離席機能	118
ボイスメールメッセージにアクセスする	80
ボイスメールメッセージを聞く	80
保存する	
システム連絡先を個人用連絡先として	93
ボタンの場所	
変更	124
ホットダイヤリング	68
ホットライン	68
ポート	16

ま

マイドキュメント	153
----------------	---------------------

め

メッセージング	99
メディア出力設定	143
メディア出力を選択	142
メディア出力を選択する	143
メディア設定	143

ゆ

有効にする	
Avaya Smart Lock	56
優先通話	116
優先通話を発信する	116
有線ハンドセット	
接続	37

り

リスト	
Equinox 会議	86
離席	118

れ

レイアウト	
Avaya Vantage K155	15
K175 標準 Avaya Vantage デバイス	14
レポートを生成する	
デバッグ	150

索引

連絡先	89
お気に入りに追加する	93
検索中...	91
コンタクトの削除	91
追加する	89
フィルタ処理	92
連絡先から発信する	70
連絡先を編集する	90
連絡先から発信する	70
連絡先検索	
Broadsoft	92
IP Office	91
連絡先作成オプションを設定する	94
連絡先と通話履歴	
同期する	94
連絡先と通話履歴を同期する	94
連絡先の管理	89
連絡先のタイプ	88
連絡先表示オプションを設定する	93
連絡先を検索する	91
連絡先を追加する	89
連絡先を編集する	90

ろ

ログアウト	50 , 52
ログイン	50
ロック	50 , 54
ロック解除	50 , 54
ロックタイマー	
自動	53

わ

ワイヤレスハンドセット	
LED インジケータ	28
関連づける	37
機能	27
仕様	26
ペアリングを削除する	38
レイアウト	17
ワイヤレスハンドセットをペアリング解除する	38
ワイヤレスハンドセットをペアリングする	37